

尾張名家誌の出版につ

尾張名家誌の出版につ	若山善三郎	典籍趣味	10	八輯
日典日奥蘊藏の温故知	岡田 希雄	書誌學	9	二二
新書	西川 義方	書物展望	4	八四
雜節句と解體新書	長谷川 伸	書物展望	1	八一
喜遊抹殺説の昔	鈴木 宗忠	文 化	3	三三
教行信證の眞蹟本に就	久曾神 昇	書誌學	12	二六
いて	玉上 孫彌	國語國文	2	八二
度融法眼抄	伊藤 雅叙	書物展望	3	八三
中世源語傳本攷	阿曾 福圓	書物展望	7	八七
元朝秘史考	久曾神 昇	書誌學	9	二二
評公文通誌	久曾神 昇	國學院雜誌	9	四九・一〇
雅經眞筆崇徳院御本古	小島 憲之	書誌學	12	二六
今集	三谷 榮一	國文學論究	7	七册
古今集本文の異同と原	片寄 正義	書誌學	7	二一
形推定	三谷 榮一	書誌學	11	二二・二五
前田家本古事記を通じ	後藤 捷一	近世印刷文化史考	11	一〇一
て	久曾神 昇	書誌學	1	一〇一
狭衣物語流布本の性質				
及び成立				
再び狭衣物語流布本の				
成立について				
流布本狭衣物語成立再				
考				
『更紗便覽』考				
三條石大臣(定方)集				

算法關疑抄の異本に就

算法關疑抄の異本に就	平山 諦	時評	3	一三三
て	玉林 晴明	書物展望	5	八五
椎の實筆と蜂尾椎園	坂本良太郎	文 化	5	五五
今文尙書大誓篇に就て	武内 義雄	文 化	5	五五
古文尙書の二鈔本	井上 和雄	書物展望	10	八二〇
施本「小兒養育全礎」	狩野 眞一	典籍趣味	1	九輯
士林湖洞に就きて	鯉田 榮一	國語國文	12	八二
新古今和歌集の形態の	後藤 宙外	書物展望	4	八四
一考察	鹿島 正一	書誌學	12	九三
明治三十年代の「新小	今西 春秋	史 林	10	二二
説」の思出	長澤規矩也	書誌學	12	二六
新撰萬葉集集撰記	小島 喬	國語國文	2	一五二
増訂清々鑑の異版に就	山岸 光宣	書物展望	11	八二
いて	渡邊 幸三	東方學報	11	九輯
江戸時代に於ける水滸	森 銑三	國語國文	1	三三
傳の流	朴 奉石	文獻報國	8	四八
住吉物語考	龍池 清	東方學報	8	四八
大槻玄澤の「西客對話」	川瀬 一馬	國	11	四輯
説郭放				
想山奇著開集とその著				
者三好想山				
大藏經目錄とその分類				
明代刻藏考				
大和國に現存する古本				
大般若經に就いて				
趙氏刊行南宋版大般若				

經刻工表

經刻工表	川瀬 一馬	國	11	四輯
『臺風雜記』の紹介	川瀬 一馬	推 園	8	二輯
『長者教』考	齋藤 才助	愛 書	4	二輯
『鐵騎隊』異聞	高木 武	日本精神と日本文學	5	
天正記の成立とその傳	野間 光辰	國語國文	4	八四
本	石原 道博	典籍趣味	10	八輯
とつかへばや物語の基	原田 忠親	史學雜誌	10	四九・一〇
礎的研究	片寄 正義	國語國文	5	一五・五
吉田家に於ける神書開	西田 長男	書誌學	12	一〇一・二
校と慶長勅版中臣拔	栗田 元次	書誌學	12	一〇九
新井白石筆南島志初稿	原田 敏明	日本文化史論纂	11	二二
本の發見	鈴木 行三	書物展望	6	八六
日本書紀編纂に關する	高橋 貞一	書誌學	12	七・九一
一考察	高木 武	日本精神と日本文學	5	
『資福太平記』の作者				
平家物語灌頂卷の成立				
に就て				
平家物語に就いて				
流布本系統の平家物語				
の一本	野村 八良	古典研究	6	
平安朝の摸寫法華經	橋井清五郎	書誌學	12	九三・四
東鏡紀行と北夷紀行	龜井 高孝	國語國文	11	三二・二
北棧開略そのほか	龜井 高孝	國語國文	3	三三・三

保元平治物語の書史學

保元平治物語の書史學	高木 武	日本精神と日本文學	5	
的一考察	八木澤 元	斯 文	11	一九二
牡丹亭の版本に關する	森 銑三	書誌學	8	二二
丸の幡の字の藏書印と	松田 好夫	叢 書	10	三三
廣幡家本萬葉集	尾崎 恒雄	日本古書通信	7	九七
『みだれ髪』覺書一削除	服部聖多朗	典籍趣味	7	七輯
と補入と添削と	清堂 山人	叢 書	10	三三
耳囊の多くの異本	川瀬 一馬	推 園	11	四輯
近講の『耳囊』に就いて	小川 壽一	典籍趣味	1	五輯
『耳囊』全四卷本に就い				
て				
かな書の妙法蓮華經に				
就いて				
鴨長明無名抄刊行史	内野熊一郎	東方學報	12	八輯
毛傳の成立及び今古文	小野賢一郎	國語國文	6	三三・六
詩根の古在に關する	西田 長男	國語國文	1	八一
一考察	三木 露風	書物展望	3	八三
森田久右衛門日記	池田 毅	國學院雜誌	4	四四・四五
「八雲神詠口訣」の成立				
野叟獨語				
遊仙窟雜考一特にその				
註をめぐりて				
和鈔本禮記正義を按劔	吉川幸次郎	東方學報	12	九輯
して	李 在郁	文獻報國	12	三二
李朝實錄の成立に就て				

龍谷本龍龜手鑑の彫造年代に就いて	大屋 徳城 [*] 朝鮮史論叢6	加賀松雲侯蒐集の目的に就いて	島崎 末平 朝鮮之圖書 2 六三
類聚名義抄雜記	保坂 三郎 史 學 11 一七二	岸田吟香と日本印刷文化	花園 兼定 [*] 近世印刷文化史考11
朝鮮流通六祖壇經の形式に就いて	黒田 亮 書誌學 11 二一五	北澤廬	川瀬 一馬 書誌學 3 一〇三
和漢朗詠集の成立年代に就いて	鹿嶋 正二 書誌學十二年7 九一	北尾政美と其の作品	漆山又四郎 書物展望 1 八八
和名抄引用書名索引	吉田 幸一 書誌學一〇、四、六	曉臺傳の訂補	伊藤 東吉 國語國文 6 八六
和名抄引書の存佚と誤引	吉田 幸一 國學院雜誌 12 四四二	西鶴の自筆本及び自筆板下本	藤田 貞治 書物展望 2 八二
「枕久一世の物語」の作者を論ず	笠井 清 讀 書 9 二五	鈴木重胤遺稿探訪記	樹下 快淳 書誌學 2 八二
グウテンベルクと「カトリコン」	三邊清一郎 圖書展雜誌 13 三三二	紫田抄の撰者素寂は源孝行なるか	池田 龜鑑 國語國文 1 一五
ジャン・ダルジェニヌの臺灣小説「クレールー監獄物語」	島田 謙二 愛 書 4 一〇輯	逍遙の藏書と演劇博物館	河竹 繁俊 圖書展雜誌 6 三三六
人物(著者、圖書関係者等の考證)		定家歌論の新資料	久曾神 昇 書誌學 7 二二
浮世繪研究の先覺者飯島虛心	玉林 晴朗 書物展望 8 八八	江戸初期の開板者天海	法雲院泰隆 [*] 近世印刷文化史考11
「市野迷庵」雜記	川瀬 一馬 推 園十二年10 二輯	大俗正	富士川 游 圖書展雜誌 4 三三四
「空姓」の作者を偲ぶ	森 潤三郎 圖書展雜誌 1 三三一	奈須柳村に就て	神田喜一郎 書誌學 4 一〇四
大塚楠緒女史の事ども	花柳 芳江 書物展望 9 八九	「妙覺寺常住日典」補正	神田喜一郎 書誌學 7 二二
		漱石物の装幀家橋口五葉	野村 傳四 [*] 近世印刷文化史考11
		平田篤胤の著作と其の出板	渡邊 刀水 圖書展雜誌 3 三三八
		中興俳壇初期の三浦櫻良に関する諸問題	茂木秀一郎 國語國文 5 八五

榎山奇著聞集とその著者三好想山	森 銑三 圖書展雜誌 1 三三一	楊愷昔日本訪書考 中下	長澤規矩也 書誌學十二年 九八一
文主毛利伊勢守高標	森 潤三郎 圖書展雜誌 11 三三二	小唄隆達と梁塵秘抄口傳集	湯朝竹山人 書物展望 6 八六
森立之・約之父子	川瀬 一馬 推 園 三輯	忘れられた人とその著書「ゴツセン」	楠井 隆三 愛 書 12 二輯
思軒森田文藏小傳	森田章三郎 圖書展雜誌 2 八二		

圖書出版に関する新聞雑誌

(五十音順)

例年の通り、本年も又、刊行されつゝある圖書関係の新聞雑誌を左に採録した。その一節は本年鑑の参考乃至資料になつたものであるが、同好研究家の爲に發行回数、形態、定價、發行所等を摘録する。

(A) 出版業界関係

(誌名)	(発行日)	(形態)	(定價)	(發行所)
出版研究	週二回	四六倍判	月五、〇〇	東京市豊島區日出町一ノ一六
出版新報	月一回	菊倍判	月三、〇〇	東京市神田區猿樂町二ノ一一
出版タイムス	月六回	四六倍判	月五、〇〇	東京市豊島區駒込六ノ五四七
出版文化通信	月三回	四六倍判	月五、〇〇	東京市神田區神保町一ノ五九
出版文化通信	月三回	四六倍判	月五、〇〇	東京市小石川區大塚町七三
書店文化通信	月一回	四六倍判	月一、〇〇	東京市神田區三崎町一ノ七
新聞之新報	日刊	四六倍判	月一、二〇	東京市神田區神保町三ノ二三
読書と出版	月一回	菊倍判	月一、二〇	東京市神田區松永町一七
東京書籍商組合月報	月一回	菊倍判	月一、〇〇	東京市神田區駿河臺一ノ二
日本出版新聞	月一回	菊倍判	月三、五〇	大阪市南區難波新地四ノ一三

(B) 新刊目録及紹介批評誌

學 官 應 刊 行 圖 書 月 報	與 新 東 京 堂 月 報	國 新 東 京 堂 月 報	日 本 書 院 月 報	福 島 屋 タ イ ム ス	谷 島 屋 タ イ ム ス	愛 公 書 物 の 展 望	私 月 報	書 物 研 究 及 書 物 趣 味 雜 誌	報 書 報 書 報 書 報	學 報 學 報 學 報	禮 儀 禮 儀 禮 儀	窓 窓 窓	叢 叢 叢	望 望 望	
月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	年三回	月一回	年三回	年三回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回
菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊
四六倍	四六倍	四六倍	四六倍	四六倍	四六倍	四六倍	四六倍	四六倍	四六倍	四六倍	四六倍	四六倍	四六倍	四六倍	四六倍
非	非	非	非	非	非	非	非	非	非	非	非	非	非	非	非
東京市日本橋區通二丁目	東京市日本橋區通二丁目	東京市日本橋區通二丁目	東京市日本橋區通二丁目	東京市日本橋區通二丁目	東京市日本橋區通二丁目	東京市日本橋區通二丁目	東京市日本橋區通二丁目	東京市日本橋區通二丁目	東京市日本橋區通二丁目	東京市日本橋區通二丁目	東京市日本橋區通二丁目	東京市日本橋區通二丁目	東京市日本橋區通二丁目	東京市日本橋區通二丁目	東京市日本橋區通二丁目
丸善株式會社	丸善株式會社	丸善株式會社	丸善株式會社	丸善株式會社	丸善株式會社	丸善株式會社	丸善株式會社	丸善株式會社	丸善株式會社	丸善株式會社	丸善株式會社	丸善株式會社	丸善株式會社	丸善株式會社	丸善株式會社

(D) 圖書館關係

滿 洲 讀 書 新 報	本 道 讀 書 新 報	訪 道 讀 書 新 報	朝 鮮 總 督 府 學 務 局 社 會 教 育 課 內	古 典 讀 書 新 報	日 光 堂 書 店	神 戶 陳 書 協 會	日 本 藏 書 票 協 會
月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回
菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊
四六倍	四六倍	四六倍	四六倍	四六倍	四六倍	四六倍	四六倍
非	非	非	非	非	非	非	非
東京市上野公園	東京市上野公園	東京市上野公園	東京市上野公園	東京市上野公園	東京市上野公園	東京市上野公園	東京市上野公園
文部省圖書講習所學友會	文部省圖書講習所學友會	文部省圖書講習所學友會	文部省圖書講習所學友會	文部省圖書講習所學友會	文部省圖書講習所學友會	文部省圖書講習所學友會	文部省圖書講習所學友會

(E) 雜誌索引

雜 誌 索 引	大 阪 古 書 組 合 月 報	東 京 古 書 籍 商 組 合 月 報
月一回	月一回	月一回
菊	菊	菊
四六倍	四六倍	四六倍
非	非	非
東京市小石川區高田老松町一七	東京市小石川區高田老松町一七	東京市小石川區高田老松町一七
丸善株式會社	丸善株式會社	丸善株式會社

出版界一年史(昭和十三年度)

山ノ日本古書通信社
山ノ手書好會之報

(G) 印刷及製本

印刷	印刷	印刷	印刷	印刷	印刷	印刷	印刷	製本
雜誌	新潮報	時報	情報	廣報	東京印刷同業組合時報	東京印刷同業組合時報	東京印刷同業組合時報	東京印刷同業組合時報
月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回
四六倍判	四六倍判	四六倍判	四六倍判	四六倍判	四六倍判	四六倍判	四六倍判	四六倍判
五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇
東京市神田區神保町二ノ五	東京市神田區馬橋三ノ三三七	東京市神田區上本町二丁目	東京市芝區新橋二ノ三〇	東京市芝區新橋二ノ三〇	東京市芝區新橋二ノ三〇	東京市芝區新橋二ノ三〇	東京市芝區新橋二ノ三〇	東京市芝區新橋二ノ三〇
日本古書通信社	山ノ手書好會之報	印刷新雜誌社	印刷新雜誌社	印刷新雜誌社	印刷新雜誌社	印刷新雜誌社	印刷新雜誌社	印刷新雜誌社

(H) 紙業關係

紙業	紙業	紙業	紙業	紙業	紙業	紙業	紙業	紙業
文具	文具	文具	文具	文具	文具	文具	文具	文具
月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回	月一回
二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
東京市中野區上ノ原一	東京市神田區駿河臺三ノ六	東京市神田區九ノ内二ノ一〇	東京市東區北國分町九六〇	東京市神田區淡路町一ノ一三	東京市神田區新富町二ノ二二	東京市神田區新富町二ノ二二	東京市神田區新富町二ノ二二	東京市神田區新富町二ノ二二
紙及文具社	東京紙商同業組合事務所	日本製紙聯合會	紙業新開社	紙業新開社	紙業新開社	紙業新開社	紙業新開社	紙業新開社

部二第 計統諸版出

調月一年四十和昭

最近八ヶ年諸統計

種目	昭和十三年	昭和十二年	昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年	昭和七年	昭和六年
普通出版物	二九、四六六	三〇、七三三	三一、九九六	三〇、三四七	二六、五五一	二四、〇三五	二三、一〇四	二三、一一〇
雜誌	五五、一八三	四九、九九六	五六、二八五	六五、四二六	八五、九九六	九一、四八九	五三、九五七	四一、四五六
官廳	一一、〇六七	一〇、四九七	八、七〇三	九、六二九	一〇、三八一	九、二九六	九、八九六	九、八九六
新聞雜誌年末數	一五、〇五七	一三、二六八	一三、八二〇	一一、一〇一	一二、一六五	一一、八六〇	一〇、九六〇	一〇、六六六
書店披單行本	五、〇四一	四、九〇〇	五、〇〇三	四、八二一	四、五七三	四、七二八	四、三八五	四、〇八〇
全國書籍雜誌組合員	一五、三四一	一五、一六八	一五、〇七二	一四、九七四	一五、三三五	一五、一八一	一四、八六七	一四、五四九
主要雜誌賣上數	七五、四七四	七二、七三三	六八、五八四	六五、四七三	六二、一六〇	五八、〇一〇	五三、四五〇	五二、三五〇
全國圖書館數	—	四、六一五	四、八九三	五、〇八四	五、〇六八	四、八八一	四、八〇九	四、五一〇
同閱覽人員數	—	二六、一五八	二四、四四四	二五、六七二	二五、八二六	二六、三八三	二八、二五七	二六、八六四
印刷用紙販賣高	百萬封度 二、〇三〇	二、〇三三	一、八七三	一、六八〇	一、六〇五	一、四六八	一、四一五	一、三三九

昭和十三年度普通出版物(納本費)統計

(内務省警保局調査)

種類	昭和十三年度普通出版物(納本費)統計												
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
政治	九三	一〇三	六八	七五	八〇	八四	一二二	六五	六八	六六	五二	五八	九四五
法律	六二	六三	四九	六八	六〇	七三	五二	六一	七五	一〇一	一〇一	六四	八三三
經濟	一七四	二一七	二二七	一七〇	一六四	一四八	一三八	一〇四	一二七	一四四	一七五	一〇一	一、七四五
社會	六〇	八三	二二	九三	八五	七七	七三	九八	九三	一〇四	一五七	六四	一、七四五
軍事	八一	九五	八八	一一	六六	八一	七一	六一	九三	一〇四	一五七	一〇一	一、七四五
神學	一一	一三	一八	二二	二〇	二五	二二	二八	三〇	三三	三三	三三	三〇五
宗教	二二	一四	一九	二二	一八	二一	二一	二六	二九	二九	二九	二九	二九〇
哲學	五九	一三三	一〇九	一〇〇	九六	九三	九二	九二	九二	九二	九二	九二	九二〇
教育	六〇	八四	五三	七四	六七	八二	九二	九五	九五	九五	九五	九五	九五〇
教科書	九五	一〇一	二〇六	一三二	一五四	一三二	一三二	一三二	一三二	一三二	一三二	一三二	一、三二二
文學	一四四	一四〇	二二七	一五九	一五四	一三二	一三二	一三二	一三二	一三二	一三二	一三二	一、三二二
文藝	九三	八八	一三五	二〇〇	一九五	二三五	一九二	一五六	一五六	一五六	一五六	一五六	一、五六二
歷史	三九	四七	四五	四〇	四一	四八	四二	四五	四五	四五	四五	四五	四五〇
地理	三五	二二	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五〇
地誌	三五	二二	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五〇
紀行	三五	二二	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五〇
算學	三五	二二	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五〇
物理	三五	二二	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五〇
數學	三五	二二	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五〇

同 體裁分類表

(内務省警保局調査)

體裁	同 體裁分類表												
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
工學	六八	七〇	八三	八一	一〇二	七一	九二	九五	七〇	六七	六〇	八八	九八三
醫學	八八	一三三	一五二	一七五	一七四	七五	七四	八五	七二	七四	九五	一〇一	一、三六八
產業	一〇	八	六二	三〇	三七	二八	二二	一一	一一	一九	一七	一九	一、三六八
交際	四四	六二	七七	一〇二	七九	一三三	一〇二	八八	一〇九	八三	六三	六五	九〇八
美術	五〇	七〇	六三	五三	四四	五三	五九	五四	五二	四七	五九	九四	一、三六八
音樂	四一	二二	四二	六九	四四	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一、三六八
家庭	五三	七四	一〇二	一三七	一〇四	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一、三六八
家庭	三三	五三	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一、三六八
技術	七	五	一〇	一四	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一、三六八
辭書	三四	五一	三四	三八	三三	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	一、三六八
叢書	八三	一四四	一四二	一六四	一三八	一七五	一八四	二二三	二〇五	二〇〇	二七〇	三八五	二、四二二
合計	一、九五六	二、一七二	二、五三三	二、六四三	二、六八三	二、五四二	二、三六九	二、一四二	二、三三二	二、六二二	二、六八五	二、八九九	二九、四六六

普通出版物(新本意)累年比較表

(内務省警保局調査)

種別	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	昭和十五年	昭和十六年	昭和十七年	昭和十八年	昭和十九年	昭和二十年
政治	九四五	一、三三二	一、一三七	一、〇四七	七〇四	五八一	六四一	五八八	四四四	四三八	五五五	六〇五	六八〇	六八〇	六八〇	五五五
法律	八三三	八三五	八七六	七七四	六三五	六九九	五七四	五八〇	四八八	五三三	五〇〇	五〇〇	六二一	六二一	五〇三	四二六
經濟	一、七四五	一、七〇七	二、〇〇〇	一、四八二	一、〇〇五	一、二二八	一、〇三六	九一四	九〇七	七三七	六八六	六四二	六四二	六四二	五〇〇	四二六
社會	一、三三三	一、四一四	一、三三三	八〇四	八三二	九九〇	一、三三三	一、二七九	一、〇三三	一、〇三三	九〇七	九〇七	九〇七	九〇七	六四一	四〇〇
統計	二〇五	二五一	一八三	二五六	二五〇	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七	二二七
宗教	一、二六三	一、三二二	一、五五一	一、五九六	一、三三九	一、〇四五	九三三	一、一五三	一、〇三六	一、〇三六	一、〇三六	一、〇三六	一、〇三六	一、〇三六	一、〇三六	一、〇三六
哲學	七五一	一、〇〇六	一、二四八	一、二四五	九九五	五五四	五五四	五五四	五五四	五五四	五五四	五五四	五五四	五五四	五五四	五五四
教育	一、六七七	一、八三〇	二、五八一	二、〇四一	二、七九八	二、七二七	二、三二四	二、三二四	二、三二四	二、三二四	二、三二四	二、三二四	二、三二四	二、三二四	二、三二四	二、三二四
教科書	一、九四八	二、七〇九	一、四八八	二、二六〇	一、八〇九	一、九四八	二、二二一	二、二二一	二、二二一	二、二二一	二、二二一	二、二二一	二、二二一	二、二二一	二、二二一	二、二二一
文學	一、四三二	一、三七八	一、三四一	九六七	一、一四一	八六二	八六二	八六二	八六二	八六二	八六二	八六二	八六二	八六二	八六二	八六二
歷史	五〇三	四四五	四六〇	五三〇	四七〇	四七〇	四七〇	四七〇	四七〇	四七〇	四七〇	四七〇	四七〇	四七〇	四七〇	四七〇
傳記	五八三	四一一	五四七	五八四	五三二	三〇二	二八四	三〇二	三〇二	三〇二	三〇二	三〇二	三〇二	三〇二	三〇二	三〇二
地誌	九七三	一、三三二	一、三九七	一、一九一	九六六	七〇八	七〇八	七〇八	七〇八	七〇八	七〇八	七〇八	七〇八	七〇八	七〇八	七〇八
地理	一六〇	七二	七〇	一〇	七七	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇
紀行	四〇四	五二九	五九〇	三〇七	四四八	四六一	四六一	四六一	四六一	四六一	四六一	四六一	四六一	四六一	四六一	四六一
數學	四九三	四三九	六〇二	六〇〇	三〇七	四四八	四六一	四六一	四六一	四六一	四六一	四六一	四六一	四六一	四六一	四六一
物理	九八三	一、〇三三	八六二	八〇四	七〇四	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三
工學	九八三	一、〇三三	八六二	八〇四	七〇四	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三
醫學	九八三	一、〇三三	八六二	八〇四	七〇四	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三

同 (體裁分類表) 累年比較表

(内務省警保局調査)

種別	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	昭和十五年	昭和十六年	昭和十七年	昭和十八年	昭和十九年	昭和二十年
產通業	一、三六八	一、七五一	一、八八四	一、四八八	一、一六六	四三五	三八四	四七三	二五三	二五三	二五三	二五三	二五三	二五三	二五三	二五三
兵事	二二八	二四六	二四三	一四五	一五一	七三	四五	八〇	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八
美術	九六一	八三四	四一四	三八三	四〇七	一五六	一六二	一七二	一七二	一七二	一七二	一七二	一七二	一七二	一七二	一七二
音樂	八二二	一、一〇七	一、八七七	九一五	九〇七	八四四	七二二	八二七	八二七	八二七	八二七	八二七	八二七	八二七	八二七	八二七
技藝	九〇八	九六三	一、八八五	一、四〇七	八八八	九二五	一、〇〇九	一、一六九	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
辭書	二四五	七二	一八五	一四五	六七	九四	六四	八六	八六	八六	八六	八六	八六	八六	八六	八六
叢書	一、四三三	一、〇一一	一、四五一	一、八五	一、一六三	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇
評論	一、四三三	一、〇一一	一、四五一	一、八五	一、一六三	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇
家庭	一、四三三	一、〇一一	一、四五一	一、八五	一、一六三	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇
娛樂	一、四三三	一、〇一一	一、四五一	一、八五	一、一六三	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇
雜樂	一、四三三	一、〇一一	一、四五一	一、八五	一、一六三	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇	一、二一〇
合計	二九、四六六	三〇、七三三	三二、九九六	三〇、四四七	二六、三三一	二四、〇三五	二三、〇〇四	二三、二一〇	二三、二一〇	二三、二一〇	二三、二一〇	二三、二一〇	二三、二一〇	二三、二一〇	二三、二一〇	二三、二一〇

出版圖書數(納本數)曆年表

(内閣統計局調査)

年次	總數	著述	翻譯	編輯	反刻	雜誌	官廳版	備考
明治四十四年	五、九七三	二、一三三	一六八	三、二九八	二七五			
明治四十五年	七、六四八	二、八一七	二八一	三、九三四	六二六			
明治四十六年	九、四六二	二、八八一	三三二	五、五四八	七〇一			
明治四十七年	九、八九三	二、七六五	三〇三	六、一五四	六七一			
明治四十八年	八、五九七	二、八二二	四五四	四、六八三	六四八			
明治四十九年	八、一〇五	二、四八一	四五一	四、三四九	八二四			
明治五十年	一〇、四五五	二、七五三	六九二	六、一三五	八七五			
明治五十一年	一二、七八八	三、五二八	四五六	六、一八三	五五一			
明治五十二年	一五、一二五	六、三三三	二九九	八、〇六一	四八二			
明治五十三年	一八、七三〇	七、四七六	三三三	一〇、五八〇	四四一			
明治五十四年	二二、五六八	七、九五六	三〇六	一三、九九六	四一〇			
明治五十五年	二二、四四九	七、三五六	一五五	一三、九三六				
明治五十六年	二六、四一五	七、二一六	一八九	一八、六一五				
明治五十七年	二七、五三〇	八、七三〇	二三四	一七、七二二				
明治五十八年	二六、一七〇	八、三三四	一三三	一七、七二二				
明治五十九年	二五、五七六	六、八四五	一三三	一八、六〇八				
明治六十年	(總數)	(著作)	(翻譯)					
明治六十一年	二五、五三三	三、三六一	一四一					
明治六十二年	二〇、八一四	二、八〇五	九					

三十年以後ノ反刻及編輯ハ著作ノ内ニ含ハラス

年次	總數	著述	翻譯	編輯	反刻	雜誌	官廳版	備考
明治四十三年	二、四三三	一、八一〇	一一一	一、八〇				
明治四十四年	一、八一〇	一、九六三	三五	一一一				
明治四十五年	二、九五〇	二、九四二	八	三五				
明治四十六年	二、四二六	二、四七九	一七	一七				
明治四十七年	二、五〇二	二、五七四	二八	二八				
明治四十八年	二、七〇九	二、七〇八	一七	一七				
明治四十九年	二、八三九	二、八二四	一五	一五				
明治五十年	二、九〇九	二、九〇〇	九	九				
明治五十一年	三、四一三	三、四〇六	七	七				
明治五十二年	四、一六二	四、一五七	五	五				
明治五十三年	四、三二四	四、三二二	二	二				
明治五十四年	四、五二六	四、五二二	四	四				
明治五十五年	四、六二〇	四、六二〇	三	三				
明治五十六年	四、八二一	四、八二一	二	二				
明治五十七年	四、九二二	四、九二二	一	一				
明治五十八年	五、〇二二	五、〇二二	一	一				
明治五十九年	五、一三三	五、一三三	一	一				
明治六十年	五、二四四	五、二四四	一	一				
明治六十一年	五、三五五	五、三五五	一	一				
明治六十二年	五、四六六	五、四六六	一	一				
明治六十三年	五、五七七	五、五七七	一	一				
明治六十四年	五、六八八	五、六八八	一	一				
明治六十五年	五、七九九	五、七九九	一	一				
明治六十六年	五、九一〇	五、九一〇	一	一				
明治六十七年	六、〇二一	六、〇二一	一	一				
明治六十八年	六、一三二	六、一三二	一	一				
明治六十九年	六、二四三	六、二四三	一	一				
明治七十年	六、三五四	六、三五四	一	一				
明治七十一年	六、四六五	六、四六五	一	一				
明治七十二年	六、五七六	六、五七六	一	一				
明治七十三年	六、六八七	六、六八七	一	一				
明治七十四年	六、七九八	六、七九八	一	一				
明治七十五年	六、九〇九	六、九〇九	一	一				
明治七十六年	七、〇二〇	七、〇二〇	一	一				
明治七十七年	七、一三一	七、一三一	一	一				
明治七十八年	七、二二二	七、二二二	一	一				
明治七十九年	七、三三三	七、三三三	一	一				
明治八十年	七、四四四	七、四四四	一	一				
明治八十一年	七、五五五	七、五五五	一	一				
明治八十二年	七、六六六	七、六六六	一	一				
明治八十三年	七、七七七	七、七七七	一	一				
明治八十四年	七、八八八	七、八八八	一	一				
明治八十五年	七、九九九	七、九九九	一	一				
明治八十六年	八、一〇〇	八、一〇〇	一	一				
明治八十七年	八、二一一	八、二一一	一	一				
明治八十八年	八、三二二	八、三二二	一	一				
明治八十九年	八、四三三	八、四三三	一	一				
明治九十年	八、五四四	八、五四四	一	一				
明治九十一年	八、六六五	八、六六五	一	一				
明治九十二年	八、七七六	八、七七六	一	一				
明治九十三年	八、八八七	八、八八七	一	一				
明治九十四年	八、九九八	八、九九八	一	一				
明治九十五年	九、一〇九	九、一〇九	一	一				
明治九十六年	九、二二〇	九、二二〇	一	一				
明治九十七年	九、三三一	九、三三一	一	一				
明治九十八年	九、四四二	九、四四二	一	一				
明治九十九年	九、五五三	九、五五三	一	一				
明治一〇〇年	九、六六四	九、六六四	一	一				
明治一〇一年	九、七七五	九、七七五	一	一				
明治一〇二年	九、八八六	九、八八六	一	一				
明治一〇三年	九、九九七	九、九九七	一	一				
明治一〇四年	一〇、一〇八	一〇、一〇八	一	一				

明治四十三年ヨリ雜誌ハ別ニ調査シテ之ヲ加フ

大正七年著作數減少セルハ官廳出版物ヲ除キ別項ニ掲セラル

大正十年ヨリ著作出版トナス

年次	總數	有保		無保	
		日刊	月四回以上	日刊	月四回以上
明治					
三〇	五三				
二九	一七〇				
二八	一五六				
二七	二二五				
二六	二五三				
二五	三四四				
二四	一九九				
二三	二六九				
二二	三二二				
二一	三三二				
二〇	四〇三				
一九	四七一				
一八	五一二				
一七	六四八				
一六	七二六				
一五	七六六				
一四	七九二				
一三	八〇三				
一二	八一四				
一一	七五三				
一〇	七七五				
〇九	七四五				

新聞年末數曆年表

新聞紙法によ
る雜誌を含む

(内務省警保局調査)

年次	總數	有保		無保	
		日刊	月四回以上	日刊	月四回以上
昭和					
二〇	三九、九五〇				
一九	四七、五二九				
一八	五八、五〇八				
一七	五八、九七一				
一六	六三、二五八				
一五	六〇、一七九				
一四	六八、八五四				
一三	七三、一五四				
一二	七四、四六二				
一一	八五、三五七				
一〇	一二、八九五				
〇九	一二、五二六				
〇八	一〇四、四七六				
〇七	九八、七七八				
〇六	九一、七八五				
〇五	九七、二六九				

大正		昭和	
年次	總數	年次	總數
一〇	八二九	一〇	六八九
一一	九七八	一一	七六〇
一二	九四四	一二	八三五〇
一三	九八一	一三	八、四四五
一四	五三五	一四	九、一三一
一五	四八九	一五	一〇、一三〇
一六	四八九	一六	一〇、六六六
一七	四八八	一七	一〇、九六〇
一八	四八八	一八	一一、〇六六
一九	四八八	一九	一一、一三〇
二〇	四八八	二〇	一一、二〇〇
二一	四八八	二一	一一、二六六
二二	四八八	二二	一一、三三〇
二三	四八八	二三	一一、三九六
二四	四八八	二四	一一、四六〇
二五	四八八	二五	一一、五二四
二六	四八八	二六	一一、五八八
二七	四八八	二七	一一、六五二
二八	四八八	二八	一一、七一六
二九	四八八	二九	一一、七八〇
三〇	四八八	三〇	一一、八四四
三一	四八八	三一	一一、九〇八
三二	四八八	三二	一二、九七二
三三	四八八	三三	一三、〇三六
三四	四八八	三四	一三、一〇〇
三五	四八八	三五	一三、一六四
三六	四八八	三六	一三、二二八
三七	四八八	三七	一三、二九二
三八	四八八	三八	一三、三五六
三九	四八八	三九	一三、四二〇
四〇	四八八	四〇	一三、四八四
四一	四八八	四一	一三、五四八
四二	四八八	四二	一三、六一二
四三	四八八	四三	一三、六七六
四四	四八八	四四	一三、七四〇
四五	四八八	四五	一三、八〇四
四六	四八八	四六	一三、八六八
四七	四八八	四七	一三、九三二
四八	四八八	四八	一四、〇〇〇
四九	四八八	四九	一四、〇六四
五〇	四八八	五〇	一四、一二八
五一	四八八	五一	一四、一九二
五二	四八八	五二	一四、二五六
五三	四八八	五三	一四、三二〇
五四	四八八	五四	一四、三八四
五五	四八八	五五	一四、四四八
五六	四八八	五六	一四、五一二
五七	四八八	五七	一四、五七六
五八	四八八	五八	一四、六四〇
五九	四八八	五九	一四、七〇四
六〇	四八八	六〇	一四、七六八
六一	四八八	六一	一四、八三二
六二	四八八	六二	一四、八九六
六三	四八八	六三	一四、九六〇
六四	四八八	六四	一五、〇二四
六五	四八八	六五	一五、〇八八
六六	四八八	六六	一五、一五二
六七	四八八	六七	一五、二一六
六八	四八八	六八	一五、二八〇
六九	四八八	六九	一五、三四四
七〇	四八八	七〇	一五、四〇八
七一	四八八	七一	一五、四七二
七二	四八八	七二	一五、五三六
七三	四八八	七三	一五、六〇〇
七四	四八八	七四	一五、六六四
七五	四八八	七五	一五、七二八
七六	四八八	七六	一五、七九二
七七	四八八	七七	一五、八五六
七八	四八八	七八	一五、九二〇
七九	四八八	七九	一五、九八四
八〇	四八八	八〇	一六、〇四八
八一	四八八	八一	一六、一一二
八二	四八八	八二	一六、一七六
八三	四八八	八三	一六、二四〇
八四	四八八	八四	一六、三〇四
八五	四八八	八五	一六、三六八
八六	四八八	八六	一六、四三二
八七	四八八	八七	一六、四九六
八八	四八八	八八	一六、五六〇
八九	四八八	八九	一六、六二四
九〇	四八八	九〇	一六、六八八
九一	四八八	九一	一六、七五二
九二	四八八	九二	一六、八一六
九三	四八八	九三	一六、八八〇
九四	四八八	九四	一六、九四四
九五	四八八	九五	一七、〇〇八
九六	四八八	九六	一七、〇七二
九七	四八八	九七	一七、一三六
九八	四八八	九八	一七、二〇〇
九九	四八八	九九	一七、二六四
一〇〇	四八八	一〇〇	一七、三二八

昭和		大正	
年次	總數	年次	總數
一〇	六八九	一〇	八二九
一一	七六〇	一一	九七八
一二	八三五〇	一二	九四四
一三	八、四四五	一三	九八一
一四	九、一三一	一四	五三五
一五	九、一三一	一五	四八九
一六	一〇、一三〇	一六	四八八
一七	一〇、六六六	一七	四八八
一八	一〇、九六〇	一八	四八八
一九	一一、〇六六	一九	四八八
二〇	一一、一三〇	二〇	四八八
二一	一一、二〇〇	二一	四八八
二二	一一、二六六	二二	四八八
二三	一一、三三〇	二三	四八八
二四	一一、三九六	二四	四八八
二五	一一、四六〇	二五	四八八
二六	一一、五二四	二六	四八八
二七	一一、五八八	二七	四八八
二八	一一、六五二	二八	四八八
二九	一一、七一六	二九	四八八
三〇	一一、七八〇	三〇	四八八
三一	一一、八四四	三一	四八八
三二	一二、九〇八	三二	四八八
三三	一三、〇三六	三三	四八八
三四	一三、一〇〇	三四	四八八
三五	一三、一六四	三五	四八八
三六	一三、二二八	三六	四八八
三七	一三、二九二	三七	四八八
三八	一三、三五六	三八	四八八
三九	一三、四二〇	三九	四八八
四〇	一三、四八四	四〇	四八八
四一	一三、五四八	四一	四八八
四二	一三、六一二	四二	四八八
四三	一三、六七六	四三	四八八
四四	一三、七四〇	四四	四八八
四五	一三、八〇四	四五	四八八
四六	一三、八六八	四六	四八八
四七	一三、九三二	四七	四八八
四八	一四、〇〇〇	四八	四八八
四九	一四、〇六四	四九	四八八
五〇	一四、一二八	五〇	四八八
五一	一四、一九二	五一	四八八
五二	一四、二五六	五二	四八八
五三	一四、三二〇	五三	四八八
五四	一四、三八四	五四	四八八
五五	一四、四四八	五五	四八八
五六	一四、五一二	五六	四八八
五七	一四、五七六	五七	四八八
五八	一四、六四〇	五八	四八八
五九	一四、七〇四	五九	四八八
六〇	一四、七六八	六〇	四八八
六一	一四、八三二	六一	四八八
六二	一四、八九六	六二	四八八
六三	一四、九六〇	六三	四八八
六四	一五、〇二四	六四	四八八
六五	一五、〇八八	六五	四八八
六六	一五、一五二	六六	四八八
六七	一五、二一六	六七	四八八
六八	一五、二八〇	六八	四八八
六九	一五、三四四	六九	四八八
七〇	一五、四〇八	七〇	四八八
七一	一五、四七二	七一	四八八
七二	一五、五三六	七二	四八八
七三	一五、六〇〇	七三	四八八
七四	一五、六六四	七四	四八八
七五	一五、七二八	七五	四八八
七六	一五、七九二	七六	四八八
七七	一五、八五六	七七	四八八
七八	一五、九二〇	七八	四八八
七九	一五、九八四	七九	四八八
八〇	一六、〇四八	八〇	四八八
八一	一六、一一二	八一	四八八
八二	一六、一七六	八二	四八八
八三	一六、二四〇	八三	四八八
八四	一六、三〇四	八四	四八八
八五	一六、三六八	八五	四八八
八六	一六、四三二	八六	四八八
八七	一六、四九六	八七	四八八
八八	一六、五六〇	八八	四八八
八九	一六、六二四	八九	四八八
九〇	一六、六八八	九〇	四八八
九一	一六、七五二	九一	四八八
九二	一六、八一六	九二	四八八
九三	一六、八八〇	九三	四八八
九四	一六、九四四	九四	四八八
九五	一七、〇〇八	九五	四八八
九六	一七、〇七二	九六	四八八
九七	一七、一三六	九七	四八八
九八	一七、二〇〇	九八	四八八
九九	一七、二六四	九九	四八八
一〇〇	一七、三二八	一〇〇	四八八

出版諸統計

(備考) * 本表は新聞紙法による新聞雑誌の戸籍数にして、出版法により刊行する雑誌類を算入せず、例へば日刊新聞は勿論、中央公論、實業之日本、主婦之友の如き新聞紙法によるものは本表に算入す。學術雑誌等出版法によるものは、別項出版圖書叢書年表の雑誌数及び次頁の雑誌数参照。
 * 表中「有保証金」は一定の保証金を収めて時事問題に關する事項等を掲載し得る新聞雑誌、「無保証金」は學術、技藝、統計等に關する事項を掲載せるもの。
 * 明治十二、十三年は統計なし。
 * 明治四十三年末數の前年に比して著しく差のあるは廢刊失効したるものを調査整理せるによる。

昭和十三年末全國新聞紙數

新聞紙法に依る雑誌を含む (内務省警保局調査)

府縣名	總數	有保證部					無保證部										
		日刊	以月四上回	以月三回	以月二回	以月一回	日刊	以月四上回	以月三回	以月二回	以月一回						
北海道	四六八	三六	三三	四四	二四	一五七	二	二	二	二	二	二	二				
東北	一、〇〇〇	三三	三三	三三	三三	一、〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一				
東京	六五六	三三	三三	三三	三三	六五六	一	一	一	一	一	一	一				
大阪	一、〇〇一	三三	三三	三三	三三	一、〇〇一	一	一	一	一	一	一	一				
神奈川	三五六	三三	三三	三三	三三	三五六	一	一	一	一	一	一	一				
兵庫	七二六	三三	三三	三三	三三	七二六	一	一	一	一	一	一	一				
長崎	一四〇	三三	三三	三三	三三	一四〇	一	一	一	一	一	一	一				
新潟	二二六	三三	三三	三三	三三	二二六	一	一	一	一	一	一	一				
群馬	七二七	三三	三三	三三	三三	七二七	一	一	一	一	一	一	一				
千葉	四七九	三三	三三	三三	三三	四七九	一	一	一	一	一	一	一				
茨城	四九七	三三	三三	三三	三三	四九七	一	一	一	一	一	一	一				
栃木	一八二	三三	三三	三三	三三	一八二	一	一	一	一	一	一	一				
奈良	二〇〇	三三	三三	三三	三三	二〇〇	一	一	一	一	一	一	一				
三重	二四〇	三三	三三	三三	三三	二四〇	一	一	一	一	一	一	一				
愛知	六四〇	三三	三三	三三	三三	六四〇	一	一	一	一	一	一	一				
靜岡	二二一	三三	三三	三三	三三	二二一	一	一	一	一	一	一	一				
山梨	二七六	三三	三三	三三	三三	二七六	一	一	一	一	一	一	一				
滋賀	一七二	三三	三三	三三	三三	一七二	一	一	一	一	一	一	一				
岐阜	三三三	三三	三三	三三	三三	三三三	一	一	一	一	一	一	一				
長野	二八四	三三	三三	三三	三三	二八四	一	一	一	一	一	一	一				
富山	一〇二	三三	三三	三三	三三	一〇二	一	一	一	一	一	一	一				
石川	二二〇	三三	三三	三三	三三	二二〇	一	一	一	一	一	一	一				
福井	二二〇	三三	三三	三三	三三	二二〇	一	一	一	一	一	一	一				
秋田	二二〇	三三	三三	三三	三三	二二〇	一	一	一	一	一	一	一				
山形	二二〇	三三	三三	三三	三三	二二〇	一	一	一	一	一	一	一				
青森	二二〇	三三	三三	三三	三三	二二〇	一	一	一	一	一	一	一				
岩手	二二〇	三三	三三	三三	三三	二二〇	一	一	一	一	一	一	一				
合計	二、〇四三	一、〇〇三	六一九	八七一	七七八	三、九四八	二二〇	一三三	一三七	一七六	三三三	一〇六	一七一	二、五七五	三〇八	二六八	三六七

沖繩	三	六	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
鹿兒島	一〇八	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
宮崎	一〇三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
熊本	七九	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
佐賀	九六	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
大分	一〇六	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
福岡	四三八	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
高知	四六	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
愛媛	一五九	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
香川	八〇	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
徳島	三三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
和歌山	八五	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
山口	一四五	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
山梨	二〇五	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
廣島	二〇五	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
岡山	一九四	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
鳥取	一五三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
島根	五〇	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
富山	一〇二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
石川	二二〇	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
福井	二二〇	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
秋田	二二〇	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
山形	二二〇	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
青森	二二〇	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
岩手	二二〇	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
合計	二、〇四三	一、〇〇三	六一九	八七一	七七八	三、九四八	二二〇	一三三	一三七	一七六	三三三	一〇六	一七一	二、五七五	三〇八	二六八	三六七

昭和十三年末全國(學術・統計)雜誌數——新聞紙法にて發行せる雜誌を含まず——(內務省警保局調査)

府縣名	以月四上回	月三回	月二回	月一回	以年六上回	以年四上回	年三回	年二回	其他	計
宮城										
長崎										
岐阜										
滋賀										
山梨										
靜岡										
愛知										
三河										
奈良										
栃木										
茨城										
千葉										
群馬										
埼玉										
新潟										
長野										
兵衛										
神奈川										
大阪										
京都										
東京										
東北										
計	55	36	93	268	113	133	122	103	162	490

總計	沖鹿	宮城	熊佐	大福	高愛	香德	和山	廣岡	島島	富石	福秋	山青	岩福
兒歌													
繩島													
崎本													
賀分													
岡知													
媛川													
島山口													
島山													
根取													
山川													
井田													
形森													
手島													
計	16	55	28	99	57	64	268	99	89	100	199	311	3,299

東京堂 昭和十三年度新刊書類別統計 (豫約物ハ除ク) (東京堂月報部調査)

種別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
普及・改訂・増補版	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三
文治・社會	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五
政教・參考	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五
受胎・經濟	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五
財源・類書	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五
小兒・童話	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五
工小・曲類	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五
文工・學業	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五
法文・律學	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五
醫學・生學	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五
歷史・傳記	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五
哲學・學問	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五
外邦・語學	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五
外國・句業	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五
農歌・俳句	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五
詩歌・俳句	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五
地理・科學	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五
商業・行業	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五
宗文・習字	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五
總計	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四

種別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
國語・家庭	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二
趣味・樂家	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二
運動・樂家	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二
國語・樂家	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二
音韻・樂家	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二
演劇・樂家	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二
國民・樂家	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二
總計	二七二	二七二	二七二	二七二	二七二	二七二	二七二	二七二	二七二	二七二	二七二	二七二	二七二

同形體統計

種	昭和十三年	昭和十二年	昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年	昭和七年	昭和六年	昭和五年
運動・趣味・娛樂 人・家 庭樂	六九	七五	八八	九一	九六	一一	七五	一八〇	一三五
婦人書類	四一	七三	六三	四九	五二	四六	五六	五九	七五
兒童書	二六	三三	三三	四	七	三九	三七	二九〇	二八六
受驗參考 圖書	三三	三五	三〇	二七	三〇	三五	三七	二九〇	二八六
文庫	四七	三〇	二七	二八	三〇	三五	三七	二九〇	二八六
改訂・普及・增補 版	三二	一〇	一	一	一	一	一	一	一
合計	五、〇四一	四、九〇〇	五、〇〇三	四、八二一	四、五七三	四、七二八	四、三八五	四、〇八〇	四、一五六

同 定價比較表

種	昭和十三年	昭和十二年	昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年	昭和七年	昭和六年	昭和五年
圓	一、四七八	一、三九一	一、四〇九	一、二八六	一、三八二	一、七四九	一、七〇六	一、三三三	一、三三三
圓	一、九五〇	二、〇〇〇	二、〇五八	一、八八一	一、八〇七	一、七〇三	一、四九五	一、六四四	一、六一一
圓	八六三	七六九	八九五	九五二	八三三	七四三	七二〇	六九六	六七八
圓	三七三	三六〇	三六〇	三五九	三〇三	二八九	二四九	二七二	二八四
圓	一三三	一三八	一〇五	一三八	一一三	一〇二	八九	八三	八八
圓	八三	七四	七九	六六	五二	五四	五五	七〇	六八
圓	一七二	一四八	一〇八	一三九	八三	八八	七一	八三	八五
合計	五、〇四一	四、九〇〇	五、〇〇三	四、八二一	四、五七三	四、七二八	四、三八五	四、〇八〇	四、一五六

同 形體比較表

種	昭和十三年	昭和十二年	昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年	昭和七年	昭和六年	昭和五年
四六	二、二六二	一、三三二	一、二九八	一、五〇五	一、三九〇	一、八八四	一、〇四三	一、四一一	一、四八九
六半	一、二七五	一、三〇七	一、二九七	一、二六三	一、二三四	一、〇〇〇	一、〇四三	一、四一一	一、四八九
三三	一、二〇六	一、一八〇	一、一四七	一、二二二	一、一九一	一、六七七	一、七〇六	一、三三三	一、三三三
三三	一、一八〇	一、一八〇	一、一四七	一、二二二	一、一九一	一、六七七	一、七〇六	一、三三三	一、三三三
三三	一、一八〇	一、一八〇	一、一四七	一、二二二	一、一九一	一、六七七	一、七〇六	一、三三三	一、三三三
三三	一、一八〇	一、一八〇	一、一四七	一、二二二	一、一九一	一、六七七	一、七〇六	一、三三三	一、三三三
三三	一、一八〇	一、一八〇	一、一四七	一、二二二	一、一九一	一、六七七	一、七〇六	一、三三三	一、三三三
三三	一、一八〇	一、一八〇	一、一四七	一、二二二	一、一九一	一、六七七	一、七〇六	一、三三三	一、三三三
三三	一、一八〇	一、一八〇	一、一四七	一、二二二	一、一九一	一、六七七	一、七〇六	一、三三三	一、三三三
合計	五、〇四一	四、九〇〇	五、〇〇三	四、八二一	四、五七三	四、七二八	四、三八五	四、〇八〇	四、一五六

同 裝釘比較表

種	昭和十三年	昭和十二年	昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年	昭和七年	昭和六年	昭和五年
洋	一、九三三	一、五五七	一、四八五	一、二四四	一、二六三	一、七二六	一、八二八	一、三四五	一、六二九
洋	一、五二二	一、四九三	一、五四三	一、六三三	一、五六二	一、六九〇	一、三二八	一、三三一	一、四二九
洋	七三七	八八〇	九四三	八四六	九七二	八六九	六二七	六〇〇	六四二
洋	六二六	六八二	七五九	七四六	六二二	六二六	四八三	六〇〇	六四二
洋	一五〇	一五三	一八	一九四	二九	二六	一八	三五	六〇
洋	二二六	二二二	三三	三三	二九	二六	一八	三五	六〇
洋	二二六	二二二	三三	三三	二九	二六	一八	三五	六〇
洋	二二六	二二二	三三	三三	二九	二六	一八	三五	六〇
洋	二二六	二二二	三三	三三	二九	二六	一八	三五	六〇
合計	五、〇四一	四、九〇〇	五、〇〇三	四、八二一	四、五七三	四、七二八	四、三八五	四、〇八〇	四、一五六

東京堂 雜誌類別形體定價統計 (昭和十四年三月現在、東京堂月報部調査)

種	類	三六判	四六判	判三三判	四六判	倍判	四六判	新判	不定價	十錢	廿錢	卅錢	四十一	五十	六十	七十	八十	九十	一圓	一圓以上	計
幼	少年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
婦	人	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
大	衆	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
演	映	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
文	藝	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
詩	歌	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
俳	句	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
美	術	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
寫	真	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
音	樂	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
趣	味	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
旅	行	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
運	動	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
語	體	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
數	學	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
青	年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
政	治	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
法	政	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
法	政	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

主要雜誌類別賣上統計 (單位千册) (東京堂統計部調査)

種類別 (種)	昭和十三年	同十二年	同十一年	同十年	同九年	同八年	同七年	同六年	同五年	同四年	同三年	同二年
宗教	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
哲學	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
國語	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
歷史	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
地理	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
理科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
軍事	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
航空	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
工業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
農業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
醫學	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
衛生	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

全國書籍雜誌商組合員增減表

(全國書籍業聯合會調查)

組名	昭和十三年 九月末現在	昭和十二年 九月末現在	昭和十一年 九月末現在	昭和十年 九月末現在	昭和九年 九月末現在	昭和八年 九月末現在	昭和七年 九月末現在	昭和六年 九月末現在	昭和五年 九月末現在	昭和四年 九月末現在	昭和三年 九月末現在	昭和二年 九月末現在
東京書籍商組合	三、三〇一	三、三〇六	三、三四七	三、三二一	三、三二〇	三、二八二	三、二七四	三、二九四	三、二一〇	三、〇五五	二、八八六	二、七二五
八王子書籍雜誌商組合	九四	九〇	一一三	一〇七	一一四	一一四	一一四	九九	九三	八四	六二	四九
京都書籍雜誌商組合	六三	五九	六〇二	六三三	六四二	六三六	六三九	六二六	六二六	五九八	五五五	五二五
大阪書籍雜誌商組合	一、三四	一、三九	一、一八七	一、一六〇	一、一五〇	一、一三六	一、一三六	一、一三四	一、〇五八	九九七	八七一	七五七
神奈川縣書籍雜誌商組合	三四九	三五〇	三五〇	三五〇	三六四	三六四	三六四	三六二	三四七	三四七	二六五	二五〇
兵庫縣書籍雜誌商組合	五二五	五二〇	五二四	五二六	五二〇	五二六	五二六	四九二	四八二	四七四	四六六	四六〇
長崎縣書籍雜誌商組合	一九一	一九一	一九一	一九二	一九六	一九六	一九八	一九八	一八一	一八一	一三七	一三〇
新潟縣書籍雜誌商組合	三六二	三六二	三六八	三六八	三六六	三六六	三六一	三六一	三一一	三一一	二七七	二七五
埼玉縣書籍雜誌商組合	一六三	一六八	一五八	一五六	一五二	一五二	一五五	一五九	一六一	一六一	一三三	一三〇
群馬縣書籍雜誌商組合	一六三	一六八	一五八	一五六	一五二	一五二	一五五	一五九	一六一	一六一	一三三	一三〇
千葉縣書籍雜誌商組合	二一八	二一八	二一五	二一六	二一九	二一九	二一九	二一七	二一〇	二一〇	一八四	一八二
茨城縣書籍雜誌商組合	二九五	二四五	二〇七	二〇七	二二五	二二六	二二七	二二五	二一六	二一六	一八八	一八四
栃木縣書籍雜誌商組合	一八四	一八一	一七九	一七九	一八六	一八六	一八七	一八八	一七九	一七九	一五八	一五〇
奈良縣書籍雜誌商組合	一六〇	一六五	一六五	一六四	一七六	一七六	一七九	一七九	一六八	一六八	一三四	一三二
三重縣書籍雜誌商組合	八二	八四	八二	八四	九五	九七	九九	九九	八三	八三	七九	七八
愛知縣書籍雜誌商組合	七八	八二	八二	八二	九一	九九	九九	九九	八四	八四	七九	七九
名古屋縣書籍雜誌商組合	二八四	二七七	二八五	二八四	二九〇	二九〇	二九〇	二八八	二八〇	二八〇	二四五	二四五
靜岡縣書籍雜誌商組合	三〇九	三〇九	三〇一	三〇一	三〇六	三〇六	三〇六	三〇六	二九二	二九二	二八四	二八四
山梨縣書籍雜誌商組合	三五五	三五五	三五五	三五五	三七九	三七九	三七九	三七九	三三三	三三三	三〇二	三〇二
滋賀縣書籍雜誌商組合	七三	七五	七四	七四	八〇	八〇	七九	七九	七六	七六	六四	六三
岐阜縣書籍雜誌商組合	二六五	二六五	二六一	二六一	二六五	二六五	二六八	二六八	二六八	二六八	二二五	二二五
信濃縣書籍雜誌商組合	二〇	二〇	二〇	二〇	二二	二二	二二	二二	二〇	二〇	一五	一五
富山縣書籍雜誌商組合	一七六	一七六	一七六	一七六	一八〇	一八〇	一八〇	一八〇	一七六	一七六	一四八	一四八
石川縣書籍雜誌商組合	一六八	一七八	一七四	一七四	一八二	一八二	一八二	一八二	一七五	一七五	一四八	一四八
福井縣書籍雜誌商組合	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
秋田縣書籍雜誌商組合	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
山形縣書籍雜誌商組合	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
青森縣書籍雜誌商組合	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
合計	一五、三四一	一五、一六八	一五、〇七二	一四、九七四	一五、三三五	一五、一八一	一四、八六七	一四、五四九	一四、〇三九	一三、三二一	一二、三三五	一一、四六五

本邦製紙高販賣高統計

(日本製紙聯合會調査)

種類	昭和十三年度		昭和十二年度		昭和十一年度	
	製造高	販賣高	製造高	販賣高	製造高	販賣高
上等印刷用紙	九〇、九九九、三四五	二四、九二二、三〇三	一六六、八九五、八九六	一五四、五七四、一七三	一五七、一七五、八三三	一六六、三三三、七五三
筆記及畫用紙	一七一、四九三、七五四	一九三、五九三、六一五	二五四、四五二、五六一	二四〇、二二六、三五四	二〇四、三五四、六八八	二〇六、一九七、五六三
印刷用紙	四九、三三九、九六三	六二、九五五、三一五	八八、〇三三、三〇九	七八、七八五、八七九	七三、四二九、九六八	七五、四五〇、八八八
模造紙	八八、九七六、四二二	一一、九二七、〇一六	一四六、二〇二、三六八	一四三、〇二二、二三九	一〇九、三三四、二五四	一一二、二〇六、一四〇
アト下及艶紙	三三、六四三、一〇三	三九、〇〇八、七八五	四四、三六六、八一七	四三、一九八、五二六	三九、九三九、九二五	三八、二六五、七二六
新聞用紙及ザラ紙	八五七、四六二、六三三	八五二、八九五、五三九	八二五、一八八、八四三	八一、二九〇、七九八	七六八、一四二、六四三	七六六、五三三、七四七
色紙	三三、七四七、四〇八	一一、七四〇、二二〇	四一、四三三、六四三	三六、一〇四、五九三	四二、四一五、六一一	四六、九七七、九一五
包紙	一三、三三三、五三〇	二六〇、六三三、五三三	一一、四一六、四一五	一、二四五、九九四	一一、二〇五、一〇三	一一、〇〇五、一〇三
機械紙	二六七、五二一、六九三	四〇、九一五、五五八	二七九、二三三、〇三三	二五七、七五五、六五五	二三〇、四三四、〇五三	二四四、六五一、七六九
板紙	四〇、九一五、五五八	四九、七六〇、五九五	四二、三九七、〇八六	四〇、九九六、八五三	三〇、二九八、九二四	三〇、二九八、九二四
雜紙類	一一五、七三三、九一八	一九、九八三、二二五	一〇九、五五〇、八〇九	一〇一、九九四、一二三	八九、三五六、二〇三	九〇、五三六、六三九
合計	一、九四八、四五五、〇二五	二、〇三〇、四〇六、九二二	二、二九〇、〇二五、五六三	二、〇三三、八七二、八〇四	一、八二五、八四八、一〇六	一、八七三、六四〇、四四三

本邦製紙高販賣高累年比較表

(日本製紙聯合會調査)

種類	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年
製造高	一、三六七、五三四、二九〇	一、三三〇、五八四、一一〇	一、三一、三五、一一〇	一、四四四、〇四、九二八	一、三四七、一八八、二九九	一、三二九、五八五、四四二	一、四一四、七六七、八八一	一、四八八、七九九、七〇九	一、五九一、四四四、九〇八
販賣高	一、三三〇、五八四、一一〇	一、三一、三五、一一〇	一、四四四、〇四、九二八	一、三四七、一八八、二九九	一、三二九、五八五、四四二	一、四一四、七六七、八八一	一、四八八、七九九、七〇九	一、五九一、四四四、九〇八	一、七一九、六三三、四九〇

全國公私立圖書館數

昭和十三年四月現在

昭和十二年度

(文部省社會教育局調査)

道府縣	公立		私立		通計	算	藏書冊數	閱覽人員
	市立	町村立	組合立	計				
北海道	三	一	一	一	五	一〇九、〇八五	一八九、八八八	三九八、九二四
青森	二	一	一	一	五	一八、三三〇	一六六、九五〇	二九二、二二五
岩手	一	一	一	一	四	一四、六九三	一六、三六三	三三三、九六二
宮城	一	一	一	一	四	二二、三四四	二四、二七六	五三八、三九九
秋田	一	一	一	一	四	三三、一二六	二四、四六九	六三〇、七五一
山形	一	一	一	一	四	四一、九八四	三九、五七六	六七五、七七九
福島	一	一	一	一	四	一六、一七八	一六、九七三	二〇三、二五一
茨城	一	一	一	一	四	九、七三一	一六、七三二	六一、〇一三
栃木	一	一	一	一	四	三三、五六二	三三、〇三〇	九三三、九五六
群馬	一	一	一	一	四	三三、四〇九	三一、九五九	六三三、一六二
埼玉	一	一	一	一	四	五、七七四	三〇、八六八	三一四、九四五
千葉	一	一	一	一	四	六六〇、一六九	一、六一、四七三	二、〇〇八、六八六
東京	一	一	一	一	四	九二、五五七	二一七、三〇四	七六六、一一四
神奈川	一	一	一	一	四	五九、七八三	五三七、五五一	一、一四九、八一三
新潟	一	一	一	一	四	五四、四一九	三〇六、〇四三	九〇九、六六一
富山	一	一	一	一	四	一七、〇	三七一、三四五	一〇七、五四三
石川	一	一	一	一	四	一三、三九七	一一八、二二三	一〇七、五四三
福井	一	一	一	一	四	一七、八〇三	一三四、二五一	二二、五三九
山梨	一	一	一	一	四	六六、二五〇	六七、二五六	七二、七四七
長野	一	一	一	一	四	一八、三三〇	一六六、九五〇	二九二、二二五
岐阜	一	一	一	一	四	一四、六九三	一六、三六三	三三三、九六二
愛知	一	一	一	一	四	二二、三四四	二四、二七六	五三八、三九九
三重	一	一	一	一	四	三三、一二六	二四、四六九	六三〇、七五一
滋賀	一	一	一	一	四	四一、九八四	三九、五七六	六七五、七七九
京都	一	一	一	一	四	一六、一七八	一六、九七三	二〇三、二五一
大阪	一	一	一	一	四	九、七三一	一六、七三二	六一、〇一三
和歌山	一	一	一	一	四	三三、五六二	三三、〇三〇	九三三、九五六
奈良	一	一	一	一	四	三三、四〇九	三一、九五九	六三三、一六二
兵庫	一	一	一	一	四	五、七七四	三〇、八六八	三一四、九四五
徳島	一	一	一	一	四	六六〇、一六九	一、六一、四七三	二、〇〇八、六八六
香川	一	一	一	一	四	九二、五五七	二一七、三〇四	七六六、一一四
愛媛	一	一	一	一	四	五九、七八三	五三七、五五一	一、一四九、八一三
高松	一	一	一	一	四	五四、四一九	三〇六、〇四三	九〇九、六六一
岡山	一	一	一	一	四	一七、〇	三七一、三四五	一〇七、五四三
広島	一	一	一	一	四	一三、三九七	一一八、二二三	一〇七、五四三
山口	一	一	一	一	四	一七、八〇三	一三四、二五一	二二、五三九
香取	一	一	一	一	四	六六、二五〇	六七、二五六	七二、七四七
千葉	一	一	一	一	四	一八、三三〇	一六六、九五〇	二九二、二二五
茨城	一	一	一	一	四	一四、六九三	一六、三六三	三三三、九六二
栃木	一	一	一	一	四	二二、三四四	二四、二七六	五三八、三九九
群馬	一	一	一	一	四	三三、一二六	二四、四六九	六三〇、七五一
埼玉	一	一	一	一	四	四一、九八四	三九、五七六	六七五、七七九
千葉	一	一	一	一	四	一六、一七八	一六、九七三	二〇三、二五一
東京	一	一	一	一	四	九、七三一	一六、七三二	六一、〇一三
神奈川	一	一	一	一	四	三三、五六二	三三、〇三〇	九三三、九五六
新潟	一	一	一	一	四	三三、四〇九	三一、九五九	六三三、一六二
富山	一	一	一	一	四	五、七七四	三〇、八六八	三一四、九四五
石川	一	一	一	一	四	六六〇、一六九	一、六一、四七三	二、〇〇八、六八六
長野	一	一	一	一	四	九二、五五七	二一七、三〇四	七六六、一一四
岐阜	一	一	一	一	四	五九、七八三	五三七、五五一	一、一四九、八一三
愛知	一	一	一	一	四	五四、四一九	三〇六、〇四三	九〇九、六六一
三重	一	一	一	一	四	一七、〇	三七一、三四五	一〇七、五四三
滋賀	一	一	一	一	四	一三、三九七	一一八、二二三	一〇七、五四三
京都	一	一	一	一	四	一七、八〇三	一三四、二五一	二二、五三九
大阪	一	一	一	一	四	六六、二五〇	六七、二五六	七二、七四七

出版諸統計

道府縣	公立				私立	通計	豫算	藏書冊數	閱覽人員
	道府縣立	市立	町村立	組合立					
岐阜	-	-	三二	-	三二	六六	二九、〇二四	一五四、八二二	一八九、一三四
愛知	-	-	七三	-	七三	二二	三二、七二六	一九八、五五六	四五六、九三三
三愛	-	-	四〇	-	四〇	六四	一〇一、五二四	五四三、一八〇	九五五、五八九
滋賀	-	-	五五	-	五五	八五	二五、五七〇	一八九、〇七七	三〇七、七四〇
京都	-	-	一四	-	一四	二八	一五、六二四	二一六、六五〇	二三五、六七四
大阪	-	-	一五	-	一五	一〇	四一、〇七一	二〇〇、九四四	一五五、〇三二
奈良	-	-	七	-	七	一五	一九七、五二五	四〇四、七六六	一、〇九二、三二六
和歌山	-	-	三九	-	三九	八四	一〇二、〇九九	三三三、四七五	七〇一、六六九
兵庫	-	-	一〇	-	一〇	三三	四四、四五二	三〇一、六〇九	二八九、二四五
兵衛	-	-	一三	-	一三	三三	三六八、五七三	一〇六、二九八	八三、七七五
京都	-	-	一〇	-	一〇	二二	一六、二一〇	七二、二三七	一五九、〇七五
島根	-	-	四一	-	四一	六五	一一、八一〇	一三八、九六二	一一〇、〇八一
岡山	-	-	六九	-	六九	二五	四三、七七〇	四三五、六一〇	一、一五三、五七九
廣島	-	-	二〇	-	二〇	三五	七三、六五七	一、五三三、四六一	六四五、〇三〇
山口	-	-	二四	-	二四	五七	五七、五七二	五八八、八二六	六四〇、五一四
山形	-	-	二七	-	二七	二六	一一、六一六	九三、八四〇	一五六、八二二
德島	-	-	一〇	-	一〇	一八	三二、一六〇	三一九、三九五	七九七、二〇二
香川	-	-	七	-	七	一〇	一一、四〇五	一一五、〇七五	四〇四、七五一
愛媛	-	-	七	-	七	一八	一八、五三〇	一六八、二九七	九〇三、七八七
高松	-	-	二八	-	二八	八二	一〇三、八五五	四三九、六五九	二、四八五、二二六
福岡	-	-	五〇	-	五〇	一〇一	二四、四四八	一一七、八〇六	五〇五、〇〇八
佐賀	-	-	六九	-	六九	七三	二七、四四一	一八二、一一〇	四四九、九八四
長門	-	-	九〇	-	九〇	七三	三三、四九六	三三〇、八一九	八八八、九五五
熊本	-	-	六〇	-	六〇	二六	一六、二七二	一一二、〇二七	二二〇、二八一

全國公私立圖書館數累年比較表
同藏書冊數、閱覽人員累年比較表

(文部省社會教育局調査)

年 度	公 立			合 計	藏書冊數	一館平均藏書冊數	閱覽人員	一日一館平均閱覽人員
	公 立	私 立	合 計					
大正十四年度	三、〇五二	一、六九九	四、七五一	六、九三四、四七二	一、四六九	二八、四四〇、三三一	二四、〇六	
大正十元五年	二、二四〇	二、四八八	五、七二八	九、三五九、八一五	一、六三四	三三、四六四、一六三	二二、八三	
昭和二年	三、一四一	二、三六七	五、五〇九	九、六二六、一八九	一、七四七	三八、〇六二、二四一	三二、〇〇	
昭和三年	三、二六六	二、三五六	五、六二二	一〇、〇一九、二二七	一、七八〇	三八、四三六、九一四	三三、七八	
昭和四年	三、二四一	一、三七六	四、六一七	八、七七七、六六九	一、九二二	三二、三四〇、四八〇	二二、七四	
昭和五年	三、〇四一	一、二五九	四、三〇〇	八、四三〇、三三九	一、九五四	二六、四六三、九一五	一六、八六	
昭和六年	三、〇四五	一、四五六	四、五〇一	八、八七七、九八一	一、一九〇	二六、八六四、七三三	一六、五四	
昭和七年	三、二六九	一、六〇九	四、八七八	九、八七七、九八一	二、一〇三	二八、二五七、四三三	一七、三八	
昭和八年	三、四五六	一、六二二	五、〇七八	一〇、九三三、三九四	二、二五四	二六、三三三、六七四	一四、七五	
昭和九年	三、四六六	一、六二一	五、〇八七	一一、一〇〇、九九三	二、一九三	二五、八二六、〇七七	一三、八六	
昭和十年	三、三六四	一、五二九	四、八九三	一一、八〇九、五五八	二、二八〇	二五、六七二、九九〇	一三、八五	
昭和十一年	三、三六四	一、五二九	四、八九三	一二、〇二七、一一七	三、〇七六	二四、四四四、〇七七	一三、五八	
昭和十二年	三、一三六	一、四七九	四、六一五	一二、二〇七、一一七	三、〇七六	二六、一五八、五〇四	一五、五二	
總計	四〇	一六九	二〇九	一、四七九	四、六一五	二、九五二、二七〇	一四、二〇七、一一七	二六、一五八、五〇四
宮崎	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿兒島	-	-	-	-	-	-	-	-
沖繩	-	-	-	-	-	-	-	-

出版圖書新聞廣告行數累年比較表

—單位千行— (日本電報通信社調査)

Table showing cumulative publication statistics from 1927 to 1933. Columns include year (昭和三年 to 昭和十二年), category (新聞, 東京八新聞, 大阪四新聞, 合計), and volume.

出版圖書新聞廣告行數順位累年比較表

—單位千行— (日本電報通信社調査)

Table showing annual ranking of publication statistics from 1927 to 1933. Columns include year, category, and volume.

(備考) 右の順位は全國百十一新聞(但し昭和十年以後は百五新聞)の廣告行數の比較であるが、これを東京十二新聞(但し昭和十年は十新聞、十一年は九新聞)のみに就て比較すると、圖書の廣告は大正十四年までは第三位であつたが圓本全盛時代たる大正十五年(昭和元年)、昭和二年、昭和三年と第一位を占め、昭和四年以後は第三位に落ちてゐる。

昭和十三年新刊數種類細別表

(本年監所數分)

Detailed table of new publications in 1933, categorized by field: 一、哲學 (180 titles), 二、宗教 (64 titles), 三、教育 (339 titles), 四、文學 (609 titles), 五、美術・音樂・演劇 (131 titles), 六、語學 (104 titles).

岩波書店 昭和三年 新刊書

スピンザ	倫理學	安倍能成著	二四六判	一〇〇			
ニエイトン	自然哲學の原理	阿部良夫著	二四六判	一〇〇			
ニラフツ	單子論	河野與一著	一四八判	一〇〇			
モンテスキュー	法の精神	宮澤俊義著	一四六判	一〇〇			
ルッソー	民約論	木村龜二著	一四六判	一〇〇			
ヒューム	人性論	大島正徳著	一四六判	一〇〇			
スミス	國富論	中山伊知郎著	二四六判	一〇〇			
カント	純粹理性批判	天野貞祐著	二四六判	一〇〇			
カント	實踐理性批判	和辻哲郎著	二四六判	一〇〇			
ゲョエテ	フオウスト	茅野蕭々著	一四六判	一〇〇			
フイヒテ	知識學	桑木嚴著	二四六判	一〇〇			
ヘーゲル	精神現象論	矢崎美盛著	二四六判	一〇〇			
コント	實證哲學	田邊壽利著	二四六判	一〇〇			
ラマルク	動物哲學	小泉丹著	二四六判	一〇〇			
ダーウキン	種の起源	小泉丹著	二四六判	一〇〇			
ミル	功利主義	高橋稜著	二四六判	一〇〇			
ニイホ	ツアラストラ	立澤剛著	二四六判	一〇〇			
小學國語讀本綜合研究	國語教育學會編	二五判	〇・平均				
卷一	二一〇	卷二	二一〇	卷三	二一〇	卷四	二一〇
卷五	二一〇	卷六	二一〇	卷七	二一〇	卷八	二一〇
卷九	二一〇	卷十	二一〇	卷十一	二一〇	卷十二	二一〇
翻譯論	野上豊一郎著	二四六判	一七〇				
日本の言葉と唄の構造	兼常清佐著	二四六判	一七〇				
能樂源流考	能勢朝次著	二四六判	一七〇				
丘の源流	大澤章著	二四六判	一七〇				
アメリカ紀行	小泉信三著	二四六判	一八〇				
朝の幕抄	安倍能成著	二四六判	二一〇				
朝の果實	茅野蕭々著	二四六判	二一〇				
學の軒集	三好學著	二四六判	二一〇				
冬の軒集	小泉丹著	二四六判	二一〇				
續ソフンス通信	中谷吉郎著	二四六判	二一〇				
瀧澤敬一著	二四六判	二一〇					

100

岩波書店 昭和三年 新刊書

子供の歐米紀行	田中峰子著	二四六判	一〇〇	
一商人と米	相馬愛藏著	三〇八判	一〇〇	
萬葉集追攷	井上通泰著	三六四判	二五〇	
萬葉集研究年報	萬葉三水會編	一八六判	二五〇	
大戦の詩	中勘助著	一四六判	一〇〇	
アララギ年刊歌集	第十四卷	四〇二判	一五〇	
小説叢書	おもかげ	永井荷風著	二五二判	二二〇
戦争と二人の婦人	山本有三著	二四六判	一九〇	
ケ	テ	尾高京子譯	二四六判	二二〇
夏目漱石	小宮豊隆著	四八六判	二五〇	
蘆花	前田河廣一郎著	七〇二判	二五〇	
シーボルト研究	日獨文化協會	七三三判	六〇〇	
アイヌ・英・和辭典	第四版	ジョン・パチラー著	八六八判	一五〇
東洋思想研究	(第二)	津田左右吉編	五二二判	二五〇
東洋思想研究	(第一)	津田左右吉編	五二二判	二五〇
東亞錢志	全十八冊	奥平昌洪著	四六倍	七〇〇〇
史學論叢	京大文學會編	五三〇判	三八〇	
能面	(海外版)	野上豊一郎編	二四六判	一〇〇
英文解説	野上豊一郎著	一〇〇判	二五〇	
附録	六法全書	事項索引及卷頭文附	末川博編	二五〇
帝國憲法要論	山崎又次郎著	五六〇判	三三〇	
親族法・相続法講義案	我妻榮著	二九〇判	一〇〇	
民法教材	1 總論 2 債權法 3 親屬法	我妻榮編著	二九八判	二二〇
五人組制度新論	西村精一著	二四六判	一五〇	
海商法概論	(合本)	石井照久著	三七〇判	二六〇
民事訴訟法概論	(合本)	兼子一著	五九〇判	三八〇
訴訟法學の諸問題	第二輯	訴訟法學會編	二五四判	二二〇
犯罪生物學原論	吉益伸夫譯著	三三二判	二八〇	
ヒューマニズムの政治思想	嶺山政道著	一四六判	〇七〇	
均衡理論と資本理論	中山伊知郎著	一四六判	二七〇	
朝鮮經濟の研究	第三	京城帝國大學編	四八八判	二二〇
農村問題の諸相	東畑精一著	四八八判	二二〇	
近世初期農政史研究	中村吉治著	五〇〇判	三三〇	

101

◇呈送込申録目書圖◇

書圖良優三町仲谷四市京東刊院書文同

新撰動物學	職業指導學	現代心理學の主要問題	人間を見つめる	青年の心理と教育	概観東洋通史	新修史學概論	日本文學原論	綜合國史研究	新東洋論綱要	概説日本文化史	全體性の構造	公民科の本義	すめらみくに	テアイトース	すめらあじあ
阿部余四男	廣島文理大教授	城戸幡太郎	勝部謙造	野上俊夫	有學博士	長壽博士	藤村博士	栗田元次	廣島文理大教授	梅田育太郎	廣島文理大教授	廣島文理大教授	新見吉治	田中晃	文學博士
八六五	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版
送價六・八〇	送價六・〇〇	送價三・〇〇	送價三・〇〇	送價三・〇〇	送價三・〇〇	送價三・〇〇	送價三・〇〇	送價三・〇〇	送價三・〇〇	送價三・〇〇	送價三・〇〇	送價三・〇〇	送價三・〇〇	送價三・〇〇	送價三・〇〇
日本國語教育概論	全體觀の教育	國史教育原論	實地日本教育	地理教育の眞髓	歴史教育論	社會教育原論	現代教育思潮大觀	教育學概論	社會教育學	兒童の生活と指導	社會思想の批判的研究	忠孝の研究	教育活動の本質	わかることと教育觀	現代教育思潮大觀
竹澤義夫	文學博士	廣島文理大教授	廣島文理大教授	廣島文理大教授	廣島文理大教授	廣島文理大教授	廣島文理大教授	廣島文理大教授	廣島文理大教授	廣島文理大教授	廣島文理大教授	廣島文理大教授	廣島文理大教授	廣島文理大教授	廣島文理大教授
菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版
送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇

二〇三

書刊新和年三昭十店書波岩

現代の物理學	解析集合論	澤山勇三郎全集	定積分表	全書	解析概論	防災科學 火災	防災科學 水災と雪災	防災科學 震災	防災科學 風災	自然科學的世界像	外國學術雜誌目錄	年報社會學	研究經濟學
藤岡由夫著	近藤基吉述	森本清吾編	吉田洋一著	高木貞治著	高木貞治著	二七二 (品切)	二七二 (品切)	三〇〇	三〇〇	石原純著	學術研究會編	日本社會學會	東北帝國大學
菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版
送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇
山日	地質圖學	金屬材料	自動汽車	應用微菌學	人間	構造有機化學	宇宙	氣候學	植物のウイルス病	原子核及び元素の人工轉換	最新力學	最新力學	最新力學
日本山岳會編	稲井豐著	日本學會編	石川政吉著	宮路憲二著	櫻澤如一著	後藤格次著	松隈健彦著	岡田武松著	平山重勝著	菊池正士著	庄司彦六著	庄司彦六著	庄司彦六著
菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版	菊版
送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇	送價二・八〇

二〇二

◆ますます躍進のパイロット社詳解◆

◆學生參考書界唯一無二の寵兒！◆



カード式使用自在

優虎の巻は

パイロット詳解

見明瞭讀了解

類あつて比なき吾がパイロット詳解は今や名實共に日本一と推賞せられて居ります。

リ	リーダス	國	漢文語
英	作文法	數	學
英	作文法	商業簿記	
英	文法	地理歴史	
商業	英語		

各種詳解約四百種出來いたして居ります。評判よき御店には評判よき詳解を御準備下さいませ御願いたします。

東京市神田區 二丁目四十番地 振替東京一〇一 電話 三田一〇二

パイロット社

石野五郎先生著

全卷新構想に成る 受驗界待望の著名

石野の代數眞髓

四六判・五五〇頁・定價一圓六十錢・送料十四錢

石野五郎先生の令名は今更々々々の要はない。あの透徹した、精密周到なる講義、一糸亂れず、簡にして要を得、而も烈々たる信念と氣魄とを以て滿天下學生に呼びかゝるあたり、受驗界の王者たる亦宜なるかなである。本書は先生の言にもある如く、系統立ちたる、徹底したる代數、幾何の知識を授け、よつて以て貴重なる受驗生諸君のエネルギーを最有効に使用せしめんが爲に著はされたものである。加之、最近入試問題等の傾向に關する指導、並びに重要公式定理表等を加へたるは錦上更に花を添へたるものとして賞嘆の的である。

石野の幾何眞法

四六判・五〇〇餘頁・定價一圓五十錢・送料十四錢

受驗徹底研究叢書

國史合格答案の確把握定法の徹底的研究	送定	〇六
VERVALの徹底的研究と入試問題	送定	〇八
前置詞の徹底的研究と入試問題	送定	〇五
受驗英和公式の研究	送定	〇六
受驗和英公式の研究	送定	〇六
代數學の徹底的整理	送定	〇六
國文要語の研究 (以下續々刊行)	送定	〇四
堀川三四郎著 定價二・〇〇 送一・〇〇		
自習受驗新編英文解釋法	送定	〇一
藤井富俊著 定價一・五〇 送一・〇〇		
國文基礎知識と解釋の研究	送定	〇一
林昌平著 定價一・六〇 送一・〇〇		
代數學重要整理と問題集	送定	〇一
神戶榮著 定價一・五〇 送一・〇〇		
自修英文法作文教本 上級用	送定	〇一

東京市神田區 四丁目 院書司 振替東京一〇一 電話 三田一〇二

1105

1104

◀ 工業の躍進は高等数学の大学の衆化を要す ▶

好評訂正 三版

あかるる微積分 (卷上) 刊近卷下

▲菊判特製函入・新活字全六號組・紙數六八〇頁・定價五圓・送料參拾參錢

▲本書は斯學の難解困難を回避し得る様に而も眞實を誤らぬ様に初級工用極めて平易に手引下げて講義したもので、不審の爲に停頓することなく小説を讀む様に進行出来る。内容は、第一次及第二次微係數とTAYLORの定理と「單一積分」とを述べ且目次を詳細に記述したのほ、索引の代用ともなり大いに便する所がある。尙上巻だけで了程度の人ならば直ちに本書を理解することが出来る。切に好學の士に一本を御薦めすること。

★大久次郎著 **高等物理學提要** 下各二・〇・三

★秋山武太郎著 **幾何學つれづれ草** 二・五〇・三

★秋山武太郎著 **解析幾何學講要** 二・五〇・三

★森本著 **解析幾何學** 三・〇・三

★山崎作著 **高等平面三角法** 二・五〇・三

★一鈴木著 **高等數學十議** 三・五〇・三

★敦村雄村著 **新編高等數學特選** 二・〇・三

著名るす成養を力實に的本根

▲秋山武太郎著 **代數の研究** 正編價二・〇〇送二・八八
續編價一・六〇送一・八八

▲清津千治著 **現代標準新算術解義** 價一・八五送二・一〇

▲清津千治著 **算術四則應用問題** 價一・五〇送二・一五

▲清津千治著 **算術** 價一・五〇送二・一五

▲河野德助著 **最近微積分學精華** 價一・五〇送二・一五

▲河野德助著 **微積分學** 價一・五〇送二・一五

▲北村友圭著 **初等微分方程式附變分學** 價一・五〇送二・一五

▲北村友圭著 **統計學** 價一・五〇送二・一五

▲北村友圭著 **確率及最小自乘法** 價一・五〇送二・一五

▲北村友圭著 **實用高等數學初歩** 價一・五〇送二・一五

▲北村友圭著 **新編高等實用數學** 價一・五〇送二・一五

東京市神田區保町一ノ五 **高岡本店**

電話 神田一 二二二八
電話 東京一 二二二八

建文館

東京市牛込區拂方町4
電話 牛込 4387
振替 東京 8570

榮田桂太 谷津直秀 永井 潜 編輯

生物學實驗法講座

植物・全7卷 動物・全7卷
生物一般・全5卷
他に索引1冊・生物學主要語彙1冊

會費 每月 ¥2.80
送料 " 0.14

講座別内容見本進呈

文學博士 田中寬一 編輯

師範大學講座 **修身倫理**

全12卷 (他に別巻1冊)

會費 每月 ¥2.30
送料 " 0.14

文學博士 田中寬一 編輯

師範大學講座 **教育心理**

全13卷 (他に別巻1冊)

會費 每月 ¥2.30
送料 " 0.14

田中寬一 阿部八代太郎 編輯

師範大學講座 **數學教育**

全12卷

會費 每月 ¥1.80
送料 " 0.14

保科孝一 田中寬一 編輯

師範大學講座 **國語教育**

全12卷

會費 每月 ¥1.80
送料 " 0.14

田中寬一 土井不晏 編輯

師範大學講座 **理科教育**

全14卷

會費 每月 ¥1.80
送料 " 0.14

田中寬一 寺澤嚴男 編輯

師範大學講座 **體育**

全12卷

會費 每月 ¥1.80
送料 " 0.14

田中寬一 寺澤嚴男 編輯

學校體操教授要目解説

全6卷

會費 各卷 ¥2.30
全拂 ¥12.00
送料 各卷 0.14

文理大教授 友枝高彦 顧問

教育者のための獨逸語講座

全6卷

會費 各卷 ¥1.00
送料 " 0.09

Kenkyusha's

研究社(新版)新英和大辭典

岡倉由三郎先生編 四六判二段組 (レザー装) 特價 ¥ 6.00
2530 頁 美本 (總革装) 特價 ¥ 7.50

研究社:新和英大辭典

武信由太郎先生編 四六判二段組 (レザー装) 特價 ¥ 6.00
2300 頁 美本 (總革装) 特價 ¥ 7.50

研究社:簡易英々辭典

市河三喜先生指導 新四六判二段組
總革装 1250 頁 定價 ¥ 3.80 ㊦ 14

研究社:新英和小辭典

市河三喜先生指導 袖珍判二段組
總革装 400 頁 特價 ¥ 1.30 ㊦ 3

研究社:新和英小辭典

研究社編輯部編 袖珍判二段組
總革装 400 頁 特價 ¥ 1.30 ㊦ 3

研究社:スクール英和新辭典

岡倉由三郎先生編 四六判二段組
レザー装 1200 頁 特價 ¥ 3.00 ㊦ 33

研究社:スクール和英新辭典

岡倉由三郎先生編 四六判二段組
レザー装 1200 頁 特價 ¥ 3.00 ㊦ 33

三二

•東京麹町區富士見町二丁目・研究社・振替東京二八六〇一番・

Dictionaries

研社 フレンド英語新辭典

岡倉由三郎先生編 四六判二段組
レザー装 1000 頁 特價 ¥ 2.20 ㊦ 22

研社 英和商業經濟辭典

中島鏡造・藤田仁太郎先生共編 四六判レザー
装 1122 頁 特價 ¥ 3.30 ㊦ 33

研究社:時事英語辭典

「英語研究」編輯部編 新四六判二段組
總革装 920 頁 特價 ¥ 2.50 ㊦ 14

研究社:英米文學辭典

齋藤勇先生編 菊判クローズ装
總 1400 頁大册 特價 ¥ 7.50 ㊦ 57

研究社:英語發音辭典

市河三喜先生著 四六判二段組
クローズ装 360 頁 特價 ¥ 2.50 ㊦ 14

英語ニュー・ハンドブック

長井氏晁先生編 新四六判一段組
總革装 750 頁 特價 ¥ 2.00 ㊦ 9

受験英語ハンドブック

長井氏晁先生編 新四六判一段組
クローズ装 1020 頁 特價 ¥ 2.50 ㊦ 14

二一〇

•電話九段(33)四〇二番・四〇三番・賣捌全國各地有名書店・

添削會 會員募集

内容を本見申込次第進呈 一刻の巡は百年の悔を
 残す即刻内容を本見求あれ！斯界唯一の受驗明
 朗誌とたは「受驗青年」も急送す！！
 突破好機即刻入會せよ！

興味ある 歴史年代暗記法 西洋篇 價〇・五〇 送三六	新撰 神皇正統記詳解 價一・〇〇 送三三	新撰 徒然草詳解 價一・〇〇 送三三	受習 國文法新解 價一・〇〇 送三三	精選 慎思錄 價〇・六〇 送三三	精選 言志四錄 價〇・六〇 送三三	全譯 孟子詳解 價一・六〇 送三五	全譯 論語詳解 價一・六〇 送三五	新釋 十八史略精解 價一・八〇 送三六	日本外史詳解 價一・六〇 送三六
--	-------------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	------------------------------	------------------------

二一七

東京 東美 神代 田町 電話 振替 東京 四六一 四六八 四六五

健文社 英數國漢

來學諸君 受驗必勝の偉力と自信を與ふが
 健文社の堂々たる實を陣客に集まれ！！
 即刻入會せよ！ 然らば我等は諸君の榮冠を約束す
 すてらあ。躊躇せず入會せよ！！

玉かつま詳解 價一・三〇 送三三	要國體の本義 價〇・七〇 送三九	エスイツクス・フオア ヤング・ビープル 講義 價一・〇〇 送三三	ユース・オブ・ライフ 講義 價一・五〇 送三五	分類原重要單語 記憶法 價一・五〇 送三三	最新化學講義 價一・五〇 送三五	最新英文法講義 價一・二〇 送三三	最新英作文の鍵 價一・〇〇 送三三	最新代數學講義 價一・五〇 送三三	健文社版推薦圖書 目錄
------------------------	------------------------	---	-------------------------------	-----------------------------	------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------

二一六

東京 東美 神代 田町 電話 振替 東京 四六一 四六八 四六五

集語單語英準標

anxious (12)

- ② anxious ['æŋkʃəs] 【形】心配な。
- anxiously ['æŋkʃəsli] 【副】心配して。
- anxiety [æŋ'zaiəti] 【名】心配。不。
- ① any ['eni] 【形】何か。誰
- anybody ['eni'bɒdi] 【代】【名】誰で
- anyone ['eniwʌn] 【代】【名】誰で
- anything ['eniθɪŋ] 【代】何でも。
- ⑤ anyhow ['enihaʊ] 【副】【接】鬼も
- ② anyway ['eniwei] 【副】【接】どの
- ③ anywhere ['eniwɛə] 【副】何處でも。
- ③ apart [ə'pa:t] 【副】離れて。
- ④ apartment [ə'pa:t'mənt] 【名】部屋。割
- ⑤ apiece [ə'pi:əs] 【副】一つにつ
- ⑥ apologize [ə'pɒlədʒaɪz] 【自】謝罪する。
- apology [ə'pɒlədʒi] 【名】謝罪。申
- (apologetic) [ə,pɒlə'dʒetik] 【形】辯解
- (apologetically) [ə,pɒlə'dʒetikəli] 【副】
- ④ appeal [ə'pi:l] 【他】控訴する。訴へる。
- ⑤ appear [ə'piə] 【自】現れる。
- disappear [disə'piə] 【自】消える。
- reappear [riə'piə] 【自】再現する。
- appearance [ə'piərəns] 【名】出現。風
- disappearance [disə'piərəns] 【名】消

I am anxious about it. (それが心配です)。
 to go abroad. (洋行したがって居る)。The new
 anxiety. (その知らせで心配した)。There is
 (假合あつても少い)。He is anything but hone
 ても正直とはいへぬ)。Apart from joking, wh
 with it? (冗談は別としてそれをどうしようか)。
 gize to you for not having written to you s
 早く手紙を差上げないで済みません)。You sh
 apology for your rudeness. (無禮の詫を言ふ

果然入試用單語は本表に決定!!
 既に横濱高商等は一昨年から本表の範囲内で入試用單語を決定されて
 居たが(受験と學生五月號西村教授執筆参照)昭和十年度より各高校・外語
 其他も單語範圍を本表(文部省内英語教授研究所發表)によることとなつた。
 本書は右の單語表に長沼直見先生が譯を附すると共に必修熟語を配したもので、受験生必讀の
 寶典である。三六版 二六〇頁 總クローヌ 定價金八拾錢 送料九錢

番七八五九三京東座口替振
 二〇〇二・一〇〇二田神話電

社拓開 區田神市京東
 二ノ一田神西

著者	書名	定價
大上茂喬著	改訂 微分學演習	¥ 3.90
"	積分學演習	上 ¥ 2.00 下 ¥ 2.00
"	代數學演習	上 ¥ 2.00 下 ¥ 2.00
大上茂喬共 松室隆光著	解析學演習 幾何	1,2,3各卷 ¥ 2.00
若桑光雄著	改訂 物理學演習	上 ¥ 4.10 下 ¥ 4.25
"	力學演習	¥ 3.30 ¥ 2.50
西鐵之輔著	無機化學	¥ 3.30
"	有機化學	¥ 2.70
佐賀高校教授 理學士 大上茂喬著	數 學 閑 話	¥ 2.00
弘前高校教授 理學士 若桑光雄著	高等 物 理 學 通 論	上 ¥ 3.00 下 ¥ 3.50
ロバート・ベル著 理學士 松室隆光譯	立 體 解 析 幾 何 學	¥ 5.00
理學士 佐藤常三著	三角法徹底的研究	¥ 1.40
大 中 孝 男著	階段式英文和譯徹底的研究	¥ 1.70
弘高教授 理學士 若桑光雄 共 大阪住吉中學教授掛谷近一 著	中等 物 理 學 演 習	¥ 1.50
理學士 越智治成著	代數學徹底的研究	¥ 1.60
"	幾何學徹底的研究	¥ 1.60
楠 間 亀 楠著	改訂 商 業 讀 本	¥ 1.00
野 田 兵 一著	産 業 組 合 の 話	¥ 1.00
佐賀高校教授 理學士 大上茂喬著	外遊 見たまゝ聞いたまゝ	¥ 2.00
長崎縣女子師範教諭 島 本 靜 夫著	數 學 教 育 概 說	¥ 1.30
稻 次 靜 一著	算 術 教 育 原 論	¥ 4.00
元東京女高師調導 北 澤 種 一著	作 業 教 育 の 本 質	¥ 2.00
稻 次 靜 一著	算術の本質と指導の根柢	¥ 1.50

東京市小石川區
 水道端二ノ一〇 文 明 社 振替東京
 一七〇一六番

岡村書店出版圖書略抄

受贈 和文英譯の講義と演習 送價 〇・七五	受贈 斐然草講義 送價 一・四〇	訂譯 近古史談 送價 〇・九〇	訂譯 日本外史(字解付) 送價 二・〇〇	訂譯 學校と家庭の兒童衛生 送價 一・五〇	訂譯 ひろすけ兒童讀本 送價 一・九〇	訂譯 ひろすけ・ひらかな童話 送價 〇・九〇	訂譯 ヒロスケ・カタカナ童話 送價 二・七〇	訂譯 ひろすけ幼年繪讀本 送價 一・八〇	訂譯 海から来た使ひ 送價 一・四〇	訂譯 蜻蛉のお爺さん 送價 一・三〇	訂譯 ドラネコと鳥 送價 一・五〇	訂譯 肉爆血戰記 送價 一・七五	訂譯 空陸突擊戰 送價 一・七五	訂譯 優れた少年少女の話 送價 一・五〇
受贈 英文 送價 〇・八〇	受贈 英語單語と熟語 送價 〇・八〇	受贈 最新鐵道省職員 送價 〇・八〇	受贈 全國通信講習所 送價 〇・八〇	受贈 海軍 送價 〇・八〇	受贈 志願者要訣 送價 〇・八〇	受贈 志願者要訣 送價 〇・八〇	受贈 志願者要訣 送價 〇・八〇	受贈 志願者要訣 送價 〇・八〇	受贈 志願者要訣 送價 〇・八〇	受贈 志願者要訣 送價 〇・八〇	受贈 志願者要訣 送價 〇・八〇	受贈 志願者要訣 送價 〇・八〇	受贈 志願者要訣 送價 〇・八〇	受贈 志願者要訣 送價 〇・八〇

東京市浅草區
岡村書店
電話(84)四二〇二番
東京市浅草區
岡村書店
電話(84)四二〇二番

岡村書店出版圖書略抄

伊勢物語新講 送價 一・六〇	徒然草講義 送價 一・四〇	近古史談 送價 〇・九〇	日本外史(字解付) 送價 二・〇〇	學校と家庭の兒童衛生 送價 一・五〇	ひろすけ兒童讀本 送價 一・九〇	ひろすけ・ひらかな童話 送價 〇・九〇	ヒロスケ・カタカナ童話 送價 二・七〇	ひろすけ幼年繪讀本 送價 一・八〇	海から来た使ひ 送價 一・四〇	蜻蛉のお爺さん 送價 一・三〇	ドラネコと鳥 送價 一・五〇	肉爆血戰記 送價 一・七五	空陸突擊戰 送價 一・七五	優れた少年少女の話 送價 一・五〇
秀でた少年少女の話 送價 一・五〇	新選一萬歌集 送價 一・〇〇	和歌の 送價 一・〇〇	現代大雄辯說大觀 送價 一・七〇	現代手紙大鑑 送價 一・七〇	現代商業書簡文選 送價 一・七〇	今日の商業書簡文選 送價 一・七〇	新犬の飼ひ方とその訓練法 送價 一・〇〇	新選一萬歌集 送價 一・〇〇	和歌の 送價 一・〇〇	草花蔬菜四季園藝 送價 一・三〇	果樹盆栽 送價 一・三〇	新しい和服の仕立方 送價 一・三〇	現代識作法と挨拶の仕方 送價 一・三〇	日常識作法と挨拶の仕方 送價 一・三〇

東京市浅草區
岡村書店
電話(84)四二〇二番
東京市浅草區
岡村書店
電話(84)四二〇二番

著彦文槻大 士博學文



全國中等學校

指定辭書

全國各書店にあり

小形版 菊版半截形 定價壹圓八拾錢 送料拾四錢
中形版 四六版布製 定價貳圓貳拾錢 送料貳拾貳錢

孫子の新研究

子爵上原元帥閣下序
荒木大將閣下序
阿多俊介先生著

四六判洋裝函入
定價金一圓八十錢
送料金十錢

孫子の書は兵學の經典として古來世に知られたる世界的奇書の一である。本書は之を最近の世界史に依りて徹底的に解説し、一讀理義明白、興味津々たらしめたるもの。曩に一度び之を刊行するや重版復た重版、切りに江湖の白熱的絶讚を博するに至る。今や所謂世界的非常時に際會し、冀くは速に一本を座右に備へ、一は以て當面の時局を解するの資に、一は以て處世の要道を茲に感得するの料とせられんことを望む。

東京 芝園公芝 橋本 橋服 株式會社 林平書店 振替 口座 一七三番

野依秀市氏の名著

絕對の慈悲に浴して

著者は絕對の御慈悲に浴して常に自己を反省し念佛しつつ現在社會の各方面に大奮闘大活躍をなしてゐる。その生きた信仰生活に入るまでの眞實の體驗を赤裸々に告白せるもの、萬人の胸奥を衝く信仰書である。

言論界に絕對の地歩を占むる

野依秀市氏の論策

- 日本はどうなる
- 戦時戦後の見方
- 樂土激土

忽ち五版 四六版二百十六頁 價一圓(送料九錢)
忽ち五版 四六版六百三頁 價一圓八十錢(送料九錢)
好評重版 四六版二百三十三頁 價一圓(送料九錢)

東京 芝園公芝 房書閣文秀 振替 八五七番

著生先嶺雪宅三 士博學文

人行の路

生活の指針
處世の伴侶
日本圖書館協會推獎
して曰く……
あくまでも芳醇な茶をすすぶるの類である。讀む人によつては汲めども盡きぬ味があるであらう。何處を讀んで見ても古今東西にわたる博識にはおどろくであらう。

菊版布裝函入五二〇頁
定價金三圓也
(送料二十二錢)

全世界出版界の空前の資料集成

財界三十年譜

刊創界世之業實
版出念記年十三

躍進日本の偉大な足跡を一卷に展示せる財界三十年の記録はこれだ

宮廷・政治・軍事・外交・財政・金融・商況・交通運輸・經濟團體・銀行會社・社會・災害・支那・世界・互り日記的に蒐録す

内容詳細呈進本

卷下・卷中・圓十卷上
圓五十各

地號五園公芝區芝京東

社界世之業實

番三三四三京東替振

「誰にも代數をわがかりやすく上達させる」岩切の代數初歩

改訂 代數學初歩

上・下二冊
美裝
定價各金一・五〇
送料各一〇

岩切晴二先生著

特色

- ① 説明は平明懇切を旨とし代數一般の基礎をしんからよく會得させる。
- ② 定理や計算の法則をわかりやすくはつきり理解させ記憶の確實と運用の自由を計った。
- ③ 定理や公式の運用を自由自在ならしむるためこの練習に適切平易な問題を多數掲げた。
- ④ 級數・對數について基礎になる事柄を詳細述べ根柢ある受験準備の温床を啓培させる。

「岩切の代數」の名聲を以て斯界の王者といはるゝ岩切先生が特に中學及び同程度の學校で初めて代數を學ぶ諸君のために、初等代數の一般を極めてわかりやすく説かれ、ガツチリした基礎を築かせる目的で書かれた新著！
本書によれば代數の力の弱い人にはより良き援助者となり、又力のあり餘る人にはその天分を十分に伸すよりよき指導者となり代數の確固たる基礎を築き上げることが出来る。將來上級學校を受験する人にも根柢ある準備の温床である。

受學 訂改 最新代數學精義 送料各一・五〇
受學 最新幾何學精義 送料各一・九〇
受學 最新三角法精義 送料各一・三〇

權威ある高等參考書

東京文理大助教授理博
石川清一先生編

改訂 無機化學要論

全一冊 價一・三〇 菊三〇判

東京文理大助教授理博
石川清一先生編

改訂 有機化學要論

全一冊 價一・三〇 菊三〇判

名古屋高工教授理學士
一瀬正巳先生著

物理學概要

全四冊 價一・三〇 菊三〇判

徳島高工教授理學士
造賀常一先生著

高等物理學演習

全二冊 價一・一〇 菊一〇判

東京文理大講師理學士
野村武衛先生著

改訂 高等數學總括

全二冊 價一・一〇 菊一〇判

甲南高校教授理學士
藤岡茂先生著

微積分學概論

全二冊 價一・一〇 菊一〇判

東京帝大助教授工學士
平山嵩先生著

最新高等圖學

全三冊 價一・一〇 菊一〇判

東京市神田區 錦町三丁目 培風館 振替 東京 七六一六二

東京市神田區 錦町三丁目 培風館 振替 東京 七六一六二

★ 誌雜育教刊月の社文啓 ★

月刊 實踐國語教育

定價十四錢 送料二錢

國語の力は國民を形成する力である。本誌は讀方綴方の基礎的な學理と精細なる實踐とを明示し、今日明日の教壇實踐の活力の源泉を與へる國語教育權威の月刊雜誌!!

月刊 青年學校教材集錄

定價十四錢 送料二錢

現代唯一の青年學校用模範的の教材解説雜誌である。新要目に據る修身・公民・普通學科・職業科・家事・裁縫の解説は勿論各科の參考補充教材、其の他論文・研究・資料等を満載。

月刊 理科教育

定價十四錢 送料二錢

本誌が理科教育振興の爲斯界に君臨し茲八星霜。時局が科學教育の重大さを直觀せしめてゐる今日、本誌の存在は理科教育關係者は言ふに及ばず全教育界にとつての一大福音であらう。一校一冊必備の指導雜誌。

月刊 講話揭示教育

定價十三錢 送料二錢

本誌は毎月の學校學級行事・學校學級經營・講話訓話及揭示資料は勿論、日常生活起する幾多の社會事象より教育的に見ても最も妥當なるものをピクアアップした絶好の生きた教材資料、話題の雜誌で教壇上の寶庫。

社文啓

東京電話替
市小石川五
本區川五五
郷元二五七
町九二五五
番九五七

發行所

二三七

著 生 先 爾 鏗 倉 小

敬神 神道 の 話 (東京高等師範學校若溪會選定圖書)	神道 の 話 (東京高等師範學校若溪會選定圖書)	日本 の 全體主義	我が國體より 赤化思想の迷謬 (德富蘇峰先生序)	日本國體 の 話 (德富蘇峰先生序)	皇國 日本を説く (平易)	日本精神 解説 (平易)	我國體 と 皇道 (東京高等師範學校若溪會選定圖書)	日本女性 の 道 (東京高等師範學校若溪會選定圖書)
價二圓八十錢 送料十四錢	價一圓八十錢 送料十四錢	價一圓五十錢 送料十錢	價八十錢 送料九錢	價三十錢 送料六錢	價五十錢 送料九錢	價一圓八十錢 送料十四錢	價三十五錢 送料六錢	價三十五錢 送料六錢
里見岸雄先生著	里見岸雄先生著	里見岸雄先生著	里見岸雄先生著	岩永芳男先生著	岩永芳男先生著	岩永芳男先生著	岩永芳男先生著	岩永芳男先生著
國體法の研究 (板垣陸軍大臣推獎圖書)	國體憲法講義	日本人の道と心 (東京高等師範學校若溪會選定圖書)	生命辨證法講義	大事件秘録 (昭和)	爲替對策論	金屬の話	世渡心得讀本	現代畫壇人物論
價四十五錢 送料十四錢	價二圓五十錢 送料十四錢	價三十四錢 送料十四錢	價一圓三十錢 送料十錢	價二圓四十錢 送料十四錢	價一圓十錢 送料十錢	價一圓十錢 送料十錢	價一圓五十錢 送料十錢	價二圓四十錢 送料十四錢

錦正社圖書案内

東京市神田區錦町一丁目六番地
電話 神田(25)一七八二番
振替 東京 一三六五三五番

二三六

新刊 鐵道技師 工學士 築山閔二著 定價2圓20錢 送料14錢

木炭自動車

本書は最近の非常時のガソリン統制の餘波を受けて著しい擡頭躍進を示しつつある木炭自動車の機構、機能、特性、試験、其他を平明に敍べたもので、薪炭ガス發生爐及發生裝置の全般を闡明し、更に之が技術的且つ學問的基礎づけをなしたもので最近に於ける斯學の收穫的文献である。

京大講師工學士 常岡俊三著 合成液體燃料 價2.80 送料14

理學博士 箱守新一郎著 合成燐光體 價2.00 送料14

六所文三著 鎌塚明 木材の糖化及利用 價2.00 送料14

工學博士 山口吉郎著

選鑛學實驗法

價一・三〇 送料一・四〇

理學博士 服部靜夫著

植物色素實驗法

價一・五〇 送料一・四〇

福井高工教授 金尾忠義著

內燃機關

價一・八〇 送料一・四〇

本書は各種の工作機械全般に互る機構・機能・作用・用途・操作等を詳細に敍べたもので、機械工學初歩の入門書として絶好の書である。即ち旋盤・研磨機・フライス盤・齒切機・ドリリングマシン・プレナー・成形機・ボーリングマシン・萬能工作機械等の各種に互り極めて平易に敍べた機械工學初歩入門書である。

工作機械

德島高工教授 沼正治著

價三・〇〇 送料一・四〇

工學博士 龜山直人著

化學工業總論

價二・〇〇 送料一・四〇

小野嘉七著 木村清三著

合成香料

價一・六〇 送料一・四〇

松井元太郎著 神原周著

工業化學測定法

價二・五〇 送料一・四〇

發兌 東京市神田區駿河臺3丁目9 資共立社 振替東京46074電話神田1518・2624

二三九

新刊 理化學研究所 理學士 山本洋一著 (內容見本 無代進呈)

金屬の腐蝕及防蝕 全二卷

金屬の腐蝕は金屬製品、構造物の消耗乃至は破壊を齎し、其等をして使用に耐へざるに至らしむ。而も腐蝕は金屬表面に於ける不必要な化學反應によるもので、其に基づく損失は全くの浪費である。最近の狀勢に於て金屬製品及構造物の使用期間の延長が全般的に要求されつつある時、之が腐蝕及防蝕に關する本書の如き體系的文献の上梓は、極めて大なる時代的意義を有するものと確信する。

46倍判上製上卷470・下卷420頁 定價(上)8.50(下)7.50 送料各30

東大教授・工博 三島徳七著 金屬材料及其熱處理 價3.50 送料14

航研・工學士 堀口貞雄著 金屬及合金加工法 價1.50 送料14

工學博士 石川登喜治著

鑄造法

價二・二〇 送料一・四〇

工學博士 山口珪次著

金屬材料

價一・五〇 送料一・四〇

工學博士 河合匡著

金屬材料

價一・二〇 送料一・四〇

本書は我國金屬學界に於ける權威者の特殊鋼に關する一大文献で内容を五編に分ち1.特殊鋼の組織、2.構造用特殊鋼、3.耐蝕蝕及耐熱合金、4.磁石鋼、5.工具材料の各編に分ち各種特殊鋼の組織、構造、性質、性能及適性等の詳細に互り記述す

特殊鋼

武石玉村 田川置正 修頼三 著

理學博士 加瀬勉著

齒科金屬學

價三・三〇 送料一・四〇

工學博士 濱住松二郎著

金屬相學

價三・五〇 送料一・四〇

工學博士 河合匡著

實用金屬材料學

價四・五〇 送料二・二〇

發兌 東京市神田區駿河臺3丁目9 資共立社 電話神田1518・2624振替東京46074

二三八

新刊 ウキリアム著 藤田文太郎 外譯 三氏

電子工学の基礎

如何に電子管回路の操作に熟練した技術者でも若し彼にして回路要素たる電子管の作動原理を十分に理解しなければ、其の努力の効果は結局に於いて空しいであらう。本書は即ち米國ミシガン大學教授ウキリアム G・ダウ氏が同大學電子工學科に於てなした講義草稿を敷衍したもので、電子装置の基本的な作動原理の闡明を主眼とした斯學の異色ある文獻である。

■ 菊判總クローズ装製函入本文 620 頁 定價 6 圓 80 錢 送料 22 錢 ■

千葉茂太郎 銚著 無線工學公式並圖表集 價 4.50 送料 14
溝上 川 巖

工學博士 千葉茂太郎著 電氣濾波器 (改訂版) 價 2.80 送料 14

工學博士 神保成吉著

電氣磁氣測定

價 2.70 送料 1.40

工學博士 千葉茂太郎著

無線工學實驗法

價 2.00 送料 1.00

工學博士 星合正治著

電子工學概論

價 1.20 送料 1.40

現今無線工學はその利用の旺盛なるに於て全く華々しい開花期にある。然も其の應用は電信電話、寫眞電送、テレビジョン等に及び凡ゆる方面の科學的精粹を綜合して完成されたものであるため、其の學理も亦極めて廣汎に互るもので、本書は無線工學の全般に互る理論と技術の平明な解説を期したもので斯學の入門的文獻である。

解説無線工學

滿鐵鐵道研究所 武田行松著

價 3.30 送料 1.40

理學士 新堀正義著

無線送信機 (改訂版)

價 2.00 送料 1.40

工學博士 千葉茂太郎著

眞空管

價 2.50 送料 1.40

北大教授・工博 鳥山四男著

電氣絶縁論

價 3.00 送料 1.40

新刊 監修・小竹無二雄・赤堀四郎

有機化學の進歩 第二輯

茲に本書第一輯を上梓するや江湖の讚辭は翕然として集り第二輯刊行の要望頗りなるに鑑み爰に昨年度の有機化學界の進歩状況を斯學の權威俊鋭に囑して纏め、之を小竹・赤堀兩博士の監修推敲を経て公刊せるものにして其の内容の斬新にして充實、而も有益なる研究成果の發表は必ずや本邦學徒の研究の資として多大の寄與を齎すであらう。

■ 菊判上製洋布装函入 (第1輯) 價 3.50 送 14 (第2輯) 價 6.00 送 22 ■

航研所員・理博 佐々木達治郎著 航空物理學 價 3.00 送料 14

東大教授・農博 高橋偵造著 醱酵化學實驗法 價 1.80 送料 14

農學博士 澤山智著

鞣製學

價 6.80 送料 2.20

理學士 杉江重誠著

ガラスの化學

價 2.50 送料 1.40

上野誠一著

食用油脂

價 3.80 送料 1.40

有機化學

阪大教授・理博 小竹無二雄著 (內容見本進呈)

本書は數萬に互る最も斬新なる有機化合物の全般に互り平易な闡明を期したもので、著者独自の學問的權威と良心を以て豊富な資料を驅使し粒々三年の日子を費し著した最高文獻。 四六倍判上製函入 (各卷) 各拾圓 送料各三圓 價 5.70 價 2.00 價 2.00 價 2.00 價 2.00

工學博士 青山秀三郎著

採鑛學實驗法

價 1.50 送料 1.40

理學博士 平田文夫著

物理化學大要

價 1.20 送料 1.40

小栗捨藏著

無機製造化學 (卷上)

價 1.20 送料 1.40

二四〇

發兌 東京市神田區駿河臺 3 丁目 9 合資 共立社 振替東京 46074 電話神田 1518・2624

發兌 東京市神田區駿河臺 3 丁目 9 合資 共立社 振替東京 46074 電話神田 1518・2624

二四一

駒澤大學教授 福井久藏先生著

水無瀬三吟評釋

附 飯尾宗祇傳・湯山三吟評釋

四六判一五五頁 價七拾錢 送料九錢

水無瀬・湯山の三吟は室紙の晩年同熟時代に於て、楳杢・宗長と共に賦したもので、永く百韻連歌の軌範と仰がれてゐる。國文學史中の一躍關たる連歌の理解は、まづ町家親切な本書の指導による外はありまい。

文學士 橋 純 一著

正註つれぐ草通解

四六判 上二〇〇頁 定價 上卷壹圓 中卷壹圓 參拾錢 送料各九錢

徒然草の註釋書として世に出すかひのある本を調べてみたら、この全編で、著者は十年來その研究に心がけて來た。口はつたが、分たが、本書はその精粹である。教授者・文檢受験各位に若干の貢獻をなし得ることを信ずる。内容見本の御請求を待望する。下巻は昭和十四年内に必ず出版の豫定。(筆者自記)

新註つれぐ草 (右通釋對)

四六判全二三八頁 頭註參考附 定價八拾錢 送料九錢

右は正確詳細な頭註を附し、場合によつては、正註つれぐ草通解の註釋をこの頭註に讀つてゐるので、なるべく兩書を對照して用ひるを可とする。

日本大學教授 森本治吉編著

高等國文學要講

四六判六二〇頁 參版 定價參圓參拾錢 送料拾四錢

高教・中教・高文等の國家試驗、帝大文壇大入學試驗等の設問を、文學概論・國文學史・國文法・國語學等の部分に分類整理し、その解説を森本教授の外、山崎鏡・秋田蘭月・阪口文章・鹽田良平・菊澤孝生・橋本一諸氏が、各その専門につき分擔執筆したものである。類書中比類なき良書として推薦するに慚がない。

文學士 橋 純 一著

挿大鏡通釋

四六判四六〇頁 人物年表附 定價貳圓 送料拾貳錢

著者の創意として、本書においてまづ試みた本文・註釋別本式の行方が、漸くその便益を國文學研究各位に理解せられるに至つたらしい。そして通釋註が嚴密で親切なといふ實惠を、種々教授者・國語科文檢受験者各位から加贈してゐる。また附添の大鏡人物年表も他にその類例を見ないやうである。(筆者自記)

教科大鏡 (右通釋對)

四六判二六〇頁 卷頭索引附 定價壹圓 送料九錢

大鏡は諸本により諸句の異同が多いが、本書は諸本を對校し最も妥當な本文として最良な定本といひ得る。毎頁欄外に「通釋」の相當頁を記入し、又毎頁多量の語句につき對照符號を附してゐる。

世に俳句を作る者其數幾萬幾十萬たるを知らず、俳句を説き芭蕉を云々する者亦汗牛充棟、中に眞の俳諧を知り求め冀ふ者に至つて稀なり。茲に此俳諧を其根源に原ね其眞相に欣求し、遂に斯の一道に終始して人理天理に合ひ、人情天情に副ひ、身を以て當り體を以て

俳諧 澁柿

俳諧

本體字に
百目録石
先生著

句集

澁柿句集

三六六
横綴麗本
二三句數
一七八七

一部全四冊
定價六圓

大正昭和を通じて句界の最高峯俳諧學徒の聖典句作修行の良師

行發日一回一月毎

一部 四拾錢 (度々二冊)
半年 (六冊) 金貳圓參拾錢
一年 (十二冊) 金四圓五拾錢 (共送料)

俳諧道
[ヨ看ヲ頁四一三]

作し精進眞の俳諧に歸依する極少數者あり、「澁柿」に據るの徒なり。「澁柿」有り、眞箇俳諧あり焉。眞に志を俳諧に起す者は速に「澁柿」に來たれ、又若し他派他流の士は姑く一たび「澁柿」の門を過ぎれ。「澁柿」を見ずして未だ俳諧を語るべからず。「澁柿」即有り焉。

合本

澁柿の合本

大正 至自 十 五 三
昭和 至自 二 十 三 年 五

價 五圓
送料 貳圓
錢 卅 四 圓 五 拾 錢

道を究めんには道を探るを要す澁柿合本は俳諧道の指南車たり

○九九四四東京替振 院書穂瑞 區田神市京東
三八四九谷下話電 三二町澤金

大東
京帝
國
教
授
鮫
島
實
三
郎
氏
著

膠質學

菊判布裝 全壹冊 正價金拾圓 送料四十五錢

訂正二版

吾人の身體は勿論動物植物や岩石土壤などの無生物に至る迄膠質に非ざるものは極めて稀である。従つて斯學の研究範圍は非常に廣汎に亘り吾々日常生活の衣食住は勿論工業上、醫學上、軍事上等あらゆる方面に於て今後益々斯學の研究に俟つ所が頗る多い。然るに本邦斯學の成書は其多くは初步の概念的記述に止まり眞に研究者の伴侶となるものに乏しかつた。本邦斯學の權威者鮫島博士之に鑑みる所あり曩に本書第一版を公刊するや本邦唯一の典據として苟も研究者必讀の名著なりとの賞讃を博したが上巻發行以來既に五星霜其間斯學の進歩も亦著しきものあり依て今回第二版發行を機とし全卷に修正を施したるは勿論殊に第四第五第六第八第十十一章等著しく進歩せる部分を書き改め以て時代の進運に添ふべく努力された。現時非常時局下において衣食住の資料に再検討を必要とする時に當り斯學に關係ある人士は本書に依て其研究に遺憾なきを期せられ度い。

支那の土地と人

G・Bクレッシイ著 三好武二譯
 名著の完譯遂に成る！
 世界有数の地理學者が、二十餘年間に亘り支那各地を踏査し、地勢・土質・氣候・産業・風俗・人情等をあらゆる見地から蒐集せる資料を綜合して細密に支那全土を研究論評したる空前の大著述。加ふるに自ら撮影せる實寫眞二百餘枚と、刻苦して編むる精密なる各種統計表數十種と、統計表の威値を彌々權つておる。

内容概目
 地理的景觀 | 人間の世襲財
 支那の農業問題 | 支那の天候
 支那の交通 | 支那の人口
 支那の政治 | 支那の經濟
 支那の文化 | 支那の社會

四六判上製 六五〇頁箱入 送價三・八〇

科學者の描いた支那の「大地」

有閑隨筆

林直一著 永井直一譯
 本書は支那人の民族的性格を知る爲の絶好の資料である。讀んでゆく中に何ともいへない妖しい魅力に惹きつけられる。

最新家庭教育

今村正一著
 本書を讀んで「これは確かに名著だ」と久し振りに讀書に對する感激を覺えた。

王道講話

佐藤江漢編註
 松岡洋右氏評 王道學の泰斗佐藤君と支那學の權威中野君の手にする本書は支那政教の本源たる王道を平易に説いて餘蘊なき良書である。

人間と死

友松圓諦著
 教界の第一人者が死の問題を解決し生の眞意義を説く。

伸びる人

W・チャームズ著 永井直一譯
 自己を生かし機會を掴む法幸福と向上發展の新指導書。

吐で行く

山中峯太郎著
 例を偉人傑士の逸話に借り吐の修練を説いた絶好の名著。

東 京 東 替 振
 町 寶 橋 京 東
 二 五 三 一 京 東 替 振

溝江工學士	流體力學と航空力學	定價 7圓	送料 33錢
宮西兩博士	新撰高等物理學	定價 上 2圓60錢 下 2圓80錢	送料 各 33錢
杉村野學士	演習代數學	定價 4圓80錢	送料 33錢
杉村村學士	演習微分學	定價 3圓80錢	送料 33錢
東京市麹町區合名 裳華房 電話九段1015番 四番町八番地 會社 振替東京 107番			

録目書圖 呈送第次込申 書育教良優の社友三ある評定

三浦圭三著 國體の本義十講 菊送價 四・五〇 判 五〇八二〇	今泉定輔著 國體精神と教育 四送價 一・八〇 判 六三二四〇	奈良靖規著 日本師道と學校訓育 四送價 二・〇〇 判 六四二〇〇	龍野定一謹解 日本 聖典 歴代御詔勅謹解 菊送價 三・八〇 判 六二〇二〇	北村澤古著 勅語 鑽仰 四送價 一・五〇 判 六二五〇〇	中野八十八著 國體感銘の國史教育 菊送價 三・五〇 判 四二〇二〇	岩瀬六郎著 皇民訓育の實踐 四送價 二・〇〇 判 六三九〇〇	小林巖著 國體本義に基く修身教育 四送價 一・五〇 判 六二五八〇
--	--	--	--	--	---	--	---

必備 (館書圖) 語物識知界世童兒の社友三

沼田利三郎著 支那の歴史物語 四送價 一・〇〇 判 六二六〇〇	栗原静一著 支那の地理物語 四送價 一・〇〇 判 六三〇〇〇	渡邊哲夫著 支那童話讀本 四送價 一・三〇 判 六三二〇〇	鷺尾知治著 滿洲國物語 四送價 一・二〇 判 六三六〇〇	櫻葉勇著 ドイツ物語 四送價 一・〇〇 判 六二六〇〇	荏原二郎著 イタリヤ物語 四送價 一・〇〇 判 六二六〇〇	鷺尾知治著 ロシヤ物語 四送價 一・〇〇 判 六二六〇〇	海軍大將米内光政閣下題字、中島武著 海軍物語 幕末、明治、昭和、各價一・〇〇 大正、昭和、各價一・〇〇
---	--	---	--	---	---	--	--

二五五

番〇三一七二京東座口替振 社友三 會合 宿新區谷四市京東
番一一二二谷四話電 社費 地番八十八目丁一

和田八重造 栗津秀幸 共著
原色日本岩石圖譜
◎内容見本進呈す◎
Y3.50
〒.14

岡崎常太郎著
昆蟲700種
◎内容見本進呈す◎
Y3.80
〒.14

平瀬信太郎著
日本貝類圖譜
◎内容見本進呈す◎
Y4.20
〒.22

河野富子著
新手工藝 ドロインウオーク
◎内容見本進呈す◎
Y3.30
〒.06

ロレンスオーセツト
トマスコット
標準英語作文法辭典
◎内容見本進呈◎
Y4.00
〒.14

既刊
英語重要單語統計的研究
Y2.00
〒.09

東京高師若溪會讀物調查部編
優良圖書一覽
第一輯 自昭和三年 定價二圓五十錢 送料十四錢
第二輯 自昭和三年 定價一圓五十錢 送料十錢
第三輯 自昭和八年 (近刊) 定價一圓八十錢
▼本書を購はんとせば本書を見よ。各々に一々權威ある委員の審査評を載す索出容易なり。

東京高師若溪會讀物調查部編
優良圖書一覽
第一輯 自昭和三年 定價二圓五十錢 送料十四錢
第二輯 自昭和三年 定價一圓五十錢 送料十錢
第三輯 自昭和八年 (近刊) 定價一圓八十錢
▼本書を購はんとせば本書を見よ。各々に一々權威ある委員の審査評を載す索出容易なり。

京東・替振七 堂松三邑松 區橋京市京東
番四三九 番五目丁二

★語學はタイムス版★

米國政府選定 編輯部編纂	倉長 眞著	倉長 眞著	倉長 眞著	倉長 眞著	倉長 眞著	遠藤武男著	松村 寛著	松村 寛著	松村 寛著	下總好昌著	白井同風著	城谷 默著	佐伯有三著	牧 一著	
英語基礎單語四〇〇〇	受驗英語新單語	新英文解釋基礎一五〇項	新和文英譯基礎八〇項	英語基礎熟語八〇〇	英語入試問題種本調べ	和文英譯基礎單語句四〇〇〇	英語會話練習帳	新聞英語の讀み方	英語對照現代米語小辭典	英語書取の聽き方書き方	英語のバンクチエーション	分解式英文和譯	分解式英文和譯	分解式英文和譯	
送一・二〇	一・二〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・二〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・五〇	一・五〇	一・五〇	
小島 嶽著	英文の公式	獨逸語基礎單語四〇〇〇	獨逸語慣用句二〇〇〇	新聞獨逸語の讀み方	獨逸語文法整理ノート	佛蘭西語基礎單語四〇〇〇	佛蘭西語基礎熟語二〇〇〇	佛蘭西語自習書	基本佛蘭西語文法	新聞佛蘭西語の讀み方	露西亞語基礎單語四〇〇〇	露西亞語慣用句二〇〇〇	露西亞語略語新語辭典	露西亞語動詞圖解辭典	支那新聞の讀み方
送一・七〇	一・五〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇

東京市麴町區 有樂町二丁目
電話銀座三四一二番
振替東京六〇〇三一
電話銀座三四一二番
タイムス出版社
(ジャパントイムス出版部繼承)

二五九

かるなうどは活生の々吾ごんこ

革新
經濟講話

著久憲木鈴
經濟學博士
(錢四十料送・圓二價定)

世界的資本主義經濟の行詰りは一齊に統制經濟の強
化と戰爭危機の増大とを齎した。
支那事變下の我國に於ても、物價の昂騰、物資の欠乏等により、
大衆の日常生活は脅かされ、今や社會の全面に亘つて「今後吾々
の生活はどうなるか」の不安の影は濃厚となりつゝある。
かかる時、正しい時局認識を擲んで、變動の時代に
「どう生きるか」の指針を樹てることは長期建設下の
國民として最大の急務だ！ 本書は經濟學博士の著
者が國民大衆に語る時局認識の國民的教科書であ
る。良心的述作として推稱に値ひする。

前篇—①統制經濟の世界的大勢—②なぜ統制經濟は必要か
後篇—③支那事變の新局面と日本の立場—④我が財政經濟政策
の動向—⑤國民生活の前途—⑥人類社會の動向—

支那
人の々々

著三安水清
(錢九千 錢〇二圓一價定)

北京朝陽門外に貧しき姑娘達を
救ひ上げて二十餘年、今や北京
の聖者として名高い著者が、限
りない愛と深い觀察とをもつて
書き下ろした會心の名篇！ 支
那人を知るに隨一の書であらう

(次 目)
支那は世界天下、太古とモダ
ンが雜居、家鴨の皮、五千年亡びぬ
國民、支那人の淺草、小島が好き、
儉約に於ては世界一、風俗の今
昔、心理は複雑、支那の間に泣
く、家、女、料理、支那人の表現、
支那に見出す日本、支那人は租妻、
支那人の残忍性、支那人は似てゐる、
他百餘篇。

東京市本郷區 湯島二ノ五
日獨書院株式會社
振替東京六〇〇三一
電話銀座三四一二番
支那新聞の讀み方

二五八

横須賀軍港 帝國文武學會 (振替東京六九〇九二・横濱二八七五) 電話横須賀一六五四

二六〇

海軍志願兵 徵募兵 入團須知と訓練講義 定價金一圓九十錢 送料金十四錢

海軍各志願兵試驗問題集と模範解答 定價金九 十 錢 送料金九 錢

海軍各志願兵 試驗問題の研究と答案 作成法 定價金一圓九十錢 送料金十四錢

海軍志願兵(受験)講義錄 全三卷完了

各海軍工廠見習工 採用試験問題集と 模範解答 定價金一圓三十錢 送料金十 錢

海軍志願者・入團者の準備教育書!!!

(呈進録目書圖)

第三部 昭和十三年出版圖書目錄

二六一

一、哲學

哲學一般・西洋哲學

著者	書名	裝形	釘綴	書頁	定価	發行所	所行發	内容大意
青木 巖	イタリヤ哲學の主流	上四六	製入判	286	一、〇〇〇	第一書房	月一十	▲友邦イタリヤの哲學思潮を其の主流に於て把握して紹介せるもの。
石塚 松吉	ドシユタア・カントの目的論	上四六	製入判	218	一、八〇〇	出版部社	月二十	▲鬼才シユタアの「學位論文」カントの目的論及びその認識論的意義の譯。
江原 小彌太	科學的・人生觀	上四六	製入判	421	一、七〇〇	千倉書房	月四	▲實證的科學を基礎とする新しき人生觀を述べたもので人體篇、生命篇、精神篇其他。
中澤 毅一	神・人・動物	上四六	製入判	327	一、八〇〇	駿河河水産(北條)研究所	月六	▲生物學的立場より人生觀を述べたもので、神性に精通する人間、動物としての人間其他。
本莊 可宗	國家と個人	上四六	製入判	344	一、六〇〇	千倉書房	月二十	▲現日本の歴史的轉換期に於ける全體と個人との調和を述べ新しい人生原理を闡明す。
坂本 正義	國體と基督教及西洋思想の調整	上四六	製入判	326	一、〇〇〇	櫻民會	月二	▲我國體と基督教との關係及び西洋思想の調整に就て論述す。
渡邊 泰三	シユライエルマツヘル	上四六	製入判	342	一、三〇〇	弘文堂	月二十	▲シユライエルマツヘルの生涯を敘し彼の思想の全貌を體系づけたもの。
島影 盟	死生觀と死の實相	上四六	製入判	340	一、四〇〇	教材社	月四	▲死の意義、死の境地其他に於て死の實相とその觀念を把握し、如何に生るかを述べ。

哲學(哲學一般・西洋哲學)

二六三

◆本目録の分類方法は、大體書店本位に考へて、編輯部独自の立場から立案したものである。各種分類後の目録配列は書名の五十音順に従つた。

◆尙、本年度より部門を左の如く改正した。

一、「軍事・交通・通信」「統計・年鑑・要覽・名簿」「圖書」の部門を獨立させたこと。

二、従來「演劇」は「文學」の中に收めてゐるものを、「美術・音楽・演劇」と合併したこと。

三、本目録と「内務省納本摘録」「豫約配本目録」の分類方法を同形式に調整したこと。

◆本目録は分解して、各種類別に數ヶ年を集めて合本すれば「哲學」「文學」「語學」等獨立した各種書類の目録が出来るやう工夫し、各頁の上欄に、特別頁を附して置いた。

◆例へば「哲學」の部の上欄に(一〇〇)とあるは昭和十三年度發行の哲學書目録の第一頁といふ意味である。従つて十四年度の新聞目録は(一〇一)より始る。

哲	宗	教	文	美	語	歴	地	政	法	軍	統	財	商	工	農	理	運	婦	圖	兒	受	文	普	
哲學	宗教	教育	文學	美術	言語	歴史	地理	政治	法律	軍事	統計	財政	商業	工業	農業	物理	運輸	婦人學	圖書	兒童	受容	文藝	普及	
.....	
二六三	二七五	二八五	三〇五	三二五	三三五	三四五	三六五	三七五	三九五	四〇五	四一五	四二五	四三五	四四五	四六五	四七五	四八五	四九五	四一七	四二七	四三七	四四七	四五七	四六七

二六二

石原純	二瓶一次	有馬純清	ベルグソン著 吉岡修一郎譯	島地大等	佐藤慶二	大江精志郎	新島襄	綱島梁川	得能文人	武者小路實篤	樺俊雄	軍代高信
自然科學的世界像	生活の教ひ 充足と並び自然順應の生活	自然と人生の哲學	思想と動くもの	思想と信仰	新哲學大綱	人生觀學	人生觀學	人生觀學	人生觀學	人生觀學	世界觀の問題	世紀の論理
洋四六 布入判	並四六 製入判	上四六 製入判	洋四六 布入判	洋新 布入判	並四六 製入判	洋四六 布入判	布四六 製入判	布四六 製入判	布四六 製入判	布三六 製入判	布四六 製入判	上四六 製入判
437	233	435	356	331	345	256	372	384	387	216	255	300
一、八〇	一、四〇	二、五〇	一、八〇	一、四〇	一、六〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	五、〇〇	一、三〇	一、五〇
岩波書店	厚生閣	警醒社	第一書房	明治書院	同文館	第一書房	第一書房	第一書房	第一書房	岩波書店	三笠書房	三笠書房
三月	七月	二月	三月	一月	五月	一月	六月	六月	十一月	十一月	七月	八月
▲自然科學を通じてあらゆる事象を思考する事を目的とし、自然科學を平易に説く。	▲第一に「學問」第二に「生活」第三に「心境」と著者の人生觀を表はした生活法を述ぶ。	▲萬有有心論の立場より平易明快に大思想家の哲學説及一般哲學問題を解説す。	▲ベルグソンの思想の最近の動きを示すと共に彼の全思想の凝縮されたエッセンス。	▲島地大等の遺された未輯の文集から開信修徳の上に直ちに省らるべきもの二十七篇選輯。	▲日本固有の哲學、日本傳統の精神に依つて西洋印度支那哲學等を一貫的に統一す。	▲人生と世界を調和と統一のものとに解明せる書で、世界觀學の問題と考察方法其他。	▲開國日本の先覺者、明治時代の新知識として同志社の創設者たる新島襄の人生讀本。	▲明治の文豪綱島梁川の全思想を作品の中より抜萃収録して各月別に收む。	▲我が國哲學界の宿手得能博士の著作中より精粹を集めて分類し收めたもの。	▲著者の人生に對する切斷面を描いた人生論を收む。	▲知識社會學の課題、知識社會學と歴史主義社會法則について他二篇にて述ぶ。	▲廿世紀の黎明を識言し、建設を指示せしもので世紀入門、世紀の哲學其他。

林本語	岩永義男	秋澤修二	福富一郎	倉田百三	林本語	本莊可宗	堀口大學	紀平正美	田中美知太郎	石原謙	大月隆杖	黒田英一郎
生活の發見	生命辯證法講義	全體主義の原理	全體性の構造	祖國への愛と認識	續生活の發見	續不惑の人生觀	グウルモン對話と言葉	知と行	テアイテトス	哲學及び宗教と其歴史	哲學概論	哲學思想十七講
上四六 製入判	布四六 製入判	布四六 製入判	布四六 製入判	並四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判
380	162	347	311	300	371	322	275	502	577	593	244	374
一、八〇	一、〇〇	二、〇〇	一、五〇	一、五〇	一、八〇	一、六〇	一、五〇	三、〇〇	三、〇〇	三、六〇	一、三〇	一、八〇
創元社	錦正社	白揚社	同文書院	出版部社	創元社	千倉書房	第一書房	弘文堂	岩波書店	岩波書店	潮文閣	第一書房
七月	六月	七月	七月	二月	十一月	六月	十月	十二月	三月	九月	十月	五月
▲國民政府より退放された林氏の近著「The Importance of Living」の前半八章を完譯す。	▲辯證法に關する既成觀念の吟味、生命辯證法の梗概、生命辯證法の特長問題の三篇。	▲一九三四年に出版されたシュエパンの「戰國的科學」の社會學及哲學の二部を譯述す。	▲全體主義思想の史的概観、全體主義の現代他四篇にて全體主義を説述す。	▲祖國への愛と認識とに根ざせる思想と詩情とに就て叙述す。	▲林語堂の「The Importance of Living」の後半九章以後を邦譯す。	▲現在の歴史の動きの中にある知性を聞き出し、我々日常生活の指導と態度を探究す。	▲知性の擁護に其一生を捧げた哲人グウルモンの對話と言葉を譯したものである。	▲紀平哲學の諸論文を収めて其真相を把握せんとしたもので否定の論理、意志の論理其他トスの譯。	▲知識に就て研究したプラトンの「テアイテトス」の譯。	▲「オレステイア」に於けるポリスと家族との衝突の問題(和辻哲郎)他二十篇。	▲西洋哲學を中心にして哲學の一般を初學者向に判り易く述べたもの。	▲哲學史と哲學概論とを兼ねた入門書で、歴史篇、概論篇、東洋篇の三部。

哲學(哲學一般・西洋哲學)

遠水敬二編著	哲學者の言葉	洋政四六	布入判	298	二、三〇	小山書店	四月	▲六十餘名の希臘哲學者の思想を彼等の言葉から解説し、各哲學者の經歷を附す。
坂田徳男	哲學的人間學	洋政四六	布入判	383	二、七〇	岩波書店	六月	▲從來の理性中心の理性哲學とは別な人間を中心とする人間學的哲學を講述す。
本多謙三	哲學と經濟	洋政四六	布入判	426	二、八〇	出版部社	一月一十	▲最近十年間に書かれた通俗的論文十五篇を收めたもので哲學とは何か其他。
齋藤 响	哲學讀本	洋政四六	布入判	288	一、五〇	内田老鶴圃	四月	▲高等學校程度の哲學を敘述したもので、哲學的精神、存在及び認識の問題其他。
湯淺誠之助	哲學の根本問題	洋政四六	布入判	267	二、三〇	出版部社	四月	▲リツケルトの哲學體系の全貌を明らかにした晩年の著作を譯したものである。
上村 清	二十世紀の神話	洋政四六	布入判	563	二、八〇	中央公論社	八月	▲國民的聖典としてナチス運動の眞髓を語つたロ氏の「二十世紀の神話」を邦譯す。
アレキシス・カレル	人間	洋政四六	製判	402	一、六〇	岩波書店	八月	▲人間の生命を科學的に要説し、人間本來の法則による「人間の再建」を述べたものである。
坂田 徳男	人間喜劇	洋政四六	布入判	527	三、八〇	岩波書店	一月一	▲人間學的教授法、人間學的性情叙述の二部に分けて論述す。
大久保康雄	人間喜劇	洋政四六	製判	422	二、〇〇	三笠書房	九月	▲過去を追憶して此人生に如何なる態度を採るべきかを教へたロ氏の「人間喜劇」の譯。
高橋 里美	認識論	洋政四六	製判	371	一、八〇	岩波書店	十一月一	▲「哲學講座」中の認識論を増訂したもので認識論の諸説を體系的に説述す。
由木 康譯	パ斯卡ル小品集	洋政四六	製判	317	一、〇〇	白水社	三月	▲オヒュスキュルの譯で、戀愛の情念について、眞空論の斷片、幾何學的的精神について其他。
由木 康譯	パ斯卡ル隨想錄	洋政四六	布入判	227	一、三〇	新生堂	二月二十	▲「パ斯卡ル」の代表的著作「Pensées」の主要部
竹村 清譯	パスカル隨想錄	洋政四六	布入判	480	三、五〇	白水社	十月	▲「パスカル」の代表的著作「Pensées」の主要部

東洋哲學

安彦 孝次郎	人と人との間	上政四六	製入判	240	一、五〇	有光社	七月二十	▲人と人との間に生起する日常生活の形相を採り上げて其構造と生成過程を考察す。
泉井 久之助	フンボル	洋政四六	布入判	306	一、三〇	弘文堂	七月	▲哲人ヴィルヘルム・フォン・フンボルトの思想と生涯を述べた書。
桑木 殿翼	プラトニオン講話	洋政四六	製判	236	一、四〇	春秋社	四月	▲ラヂオにて放送講演されたものと、二三年來講演したプラトニオンに関するものを纏つたもの。
田中 晃譯註	プラトニオンテアイトリス	洋政四六	布入判	373	二、八〇	同文書院	一月一	▲プラトニオンの知識論「テアイトリス」を譯註す。
金子 馬治	文藝及哲學論集	洋政四六	布入判	405	二、八〇	出版部社	五月	▲金子博士の諸論篇中日本思想界に貢献した最も貴重な論文を蒐めた書。
重松 俊明	ホツツ	洋政四六	布入判	315	一、三〇	弘文堂	三月	▲ホツツの生涯を語り、彼の思想の全貌を描いたもの。
義田 胸喜	法哲學と世界觀	並 製判	130	九、五〇	原理日本社	十月	▲現東京帝國大學法學部長田中耕太郎氏の法哲學と世界觀原理を闡明せしもの。	
林 直二	有閑隨筆	上政四六	製入判	309	一、七〇	併成社	六月	▲支那で生れ米國で教育されたモリス・林語堂の思想及生活・經驗の個人的記述の譯。
永井 直二	有閑隨筆	上政四六	製入判	309	一、七〇	併成社	六月	▲支那で生れ米國で教育されたモリス・林語堂の思想及生活・經驗の個人的記述の譯。
下村 寅太郎	ライニッツ	洋政四六	布入判	339	一、三〇	弘文堂	六月	▲ライニッツの生活、思想、乃至業績等を解剖して彼の哲學の基礎概念を究明す。
齋藤 响	歴史哲學	洋政四六	製入判	322	一、五〇	高陽書院	三月	▲民族の本質を規定して現實的歴史生活としたところから一切の理論化の基礎を置いて論述す。
高楠 順次郎	アジア民族の中心思想	上政四六	製入判	468	二、〇〇	大藏出版	二月二十	▲支那の佛教、日本の佛教、血の文化と智の文化、新理學と佛教他十講を收む。
安岡 正篤譯註	爲政三部書	洋政四六	布入判	169	二、四〇	玄黃社	五月	▲元の名臣張養浩の著になる三事忠告を譯註し、卷末に原文を寫眞版にて掲ぐ。

哲學(哲學一般・西洋哲學・東洋哲學)

哲學(美學・藝術哲學・倫理學・國民道德)

美學・藝術哲學

内山 孝一	精神力といふもの	布四六 裝入判	327	一、六〇	千倉書房	月五	▲偉大なる精神力はどこより起るのか? 之を科學的に診斷し藝術的に直観綜合す。
黒田 亮	續 勘の 研究	布四六 洋入判	244	二、〇〇	岩波書店	月二十	▲回顧と展望、物の見方と那一點、心の力學——對象論、心の力學——本質論他六章。
武政 太郎	發達心理學	洋四六 布入判	662	五、五〇	培風館	月九	▲發達心理學の基礎を考察して新生兒、乳兒、幼兒、兒童、青年等の心的發達を述ぶ。
大槻 憲二	分析家の手帖	上四六 裝入判	234	一、八〇	岡倉書房	月五	▲雜誌「精神分析」のアブフアップ欄に掲載されたものを一冊に纏めたもの。
安橋 健能	美的教育論	洋四六 布入判	405	三、〇〇	岩波書店	月八	▲詩人でもあり哲學者でもあるシラーの美學的哲學的論文四篇を収めて解説す。
人生 社編	人生と藝術	洋四六 裝入判	127	九、〇〇	人生社	月七	▲生死といふことに就て(吉田絃二郎)七つの小さな物語(尾關岩二)他二十篇。
齋藤 信治	ヘルダーリンと詩の本質	洋四六 裝入判	36	三、〇〇	出版部	月三	▲ヘルダーリンの詩に關する五つの言葉に即して詩と詩人との本質を簡潔に叙述す。
池岡 直孝	國民道德要論	洋四六 布入判	253	二、〇〇	敬文堂	月四	▲初學者のため、國民道德の重要事項を網羅して、其要領を簡潔に述ぶ。
江原 小彌太	新日本の道德	洋四六 布入判	393	一、八〇	千倉書房	月二十	▲國家的の新しい道德でもあり我々の新時代に生きる道を説いた新日本の道德を説く。
馬場 文翁	道徳哲學	洋四六 裝入判	269	一、五〇	高陽書院	月三	▲倫理學に關する五論文を集めたものでカントに於ける「人格」と「人類性」其他。
伊藤 千眞三	倫理學綱要	洋四六 布入判	258	三、〇〇	大明堂	月二	▲生と死、神と人間、宗教と信仰、藝術と科學其他の倫理の問題を現實的意味を以て説く。

哲學(倫理學・國民道德・修養)

倫理學・國民道德

西村 陽吉	いのちの自覺	布四六 裝入判	360	一、八〇	厚生閣	月三	▲唯物から唯心へ、生命の現象と物質の現象プロレタリアートはあるか其他。
加藤 咄堂	偉人の言葉	洋四六 布入判	202	九、〇〇	春潮社	月六	▲聖徳太子、菅原道眞、平重盛其他の偉人の言葉を収めて解説す。
大戸 徹	偉人物語	布四六 裝入判	808	三、〇〇	國民協會	月七	▲東西古今の偉人十名を収め、彼等が刻苦勉勵して遂に成功するまでを描く。
谷口 雅春	一流の人・妻・子を作るには	上四六 裝入判	404	一、五〇	光明思想會	月四	▲一流の人となるには、一流の妻となるには一流の子を作るには他一篇。
大久保 修一	浮び上る力	上四六 裝入判	199	一、三〇	博聞堂	月六	▲逆境を克服して進まんとする若き人々の眞剣なる體驗記に加筆し纏めたもの。
谷口 雅春	教師夫婦愛兒の本	布四六 裝入判	438	三、〇〇	光明思想會	月三	▲幾多の新事例を以て最高にして優強なる次代國民を作る一切の秘訣を示す。
實業之日本社編	これからの立身相談	洋四六 裝入判	382	九、〇〇	日本業社	月五	▲立身出世に關する相談事項の中から百五十八項目を選び八章に分け解答す。
谷口 雅春	光明の生活法	洋四六 裝入判	255	九、〇〇	光明思想會	月二十	▲朝の時間を生かせ、朗らかに笑つて生きよ日時主義の生活其他の生活法を述ぶ。
谷口 雅春	力の泉 向上讀本	洋四六 裝入判	373	一、〇〇	光明思想會	月二十	▲人間の力を増し向上心を鍛へ立志の源を養ふ力の泉を述べたもの。

江原小彌太	大木陽象	谷口雅春	高山晴州編	折野浩太郎譯	秋山命澄	秋山命澄	富士書房編	安野口徳器編	前田藤	道久誠二	佐藤義亮	
人生のたための兵法	人生のたための兵法	人生のたための兵法	人生のたための兵法	人生のたための兵法	人生のたための兵法	人生のたための兵法	人生のたための兵法	人生のたための兵法	人生のたための兵法	人生のたための兵法	人生のたための兵法	
上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	
254	360	318	325	450	322	230	330	201	131	270	195	250
一、五〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、五〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
千倉書房	教材社	普光明思想	教材社	普光明思想	教材社	東學社	東學社	富士書房	生活社	潮文閣	玄同莊	新潮社
月一	月五	月十	月五	月六	月六	月三	月一	月二十	月一十	月十	月四	月二
▲人生に「永遠」を發見し「すべて吾によし」と連綿せんとする著者の人生觀。	▲人生行路の指針として古今東西の兵法とを關聯して述べたもの。	▲成功の根本を「徳」として古く東西の兵法とを關聯して述べたもの。	▲成功の根本を「徳」として古く東西の兵法とを關聯して述べたもの。	▲成功の根本を「徳」として古く東西の兵法とを關聯して述べたもの。	▲成功の根本を「徳」として古く東西の兵法とを關聯して述べたもの。	▲成功の根本を「徳」として古く東西の兵法とを關聯して述べたもの。	▲成功の根本を「徳」として古く東西の兵法とを關聯して述べたもの。	▲成功の根本を「徳」として古く東西の兵法とを關聯して述べたもの。	▲成功の根本を「徳」として古く東西の兵法とを關聯して述べたもの。	▲成功の根本を「徳」として古く東西の兵法とを關聯して述べたもの。	▲成功の根本を「徳」として古く東西の兵法とを關聯して述べたもの。	▲成功の根本を「徳」として古く東西の兵法とを關聯して述べたもの。

永井直二譯	W・チャールズ	谷口雅春	谷口雅春	増田茶	品川義介	常岡一郎	牧野元次郎	蓮沼門三	藤原準二	高橋史光編	山本瀧之助	小尾範治	伊藤隆彦
人間死んでも死なぬ	人間死んでも死なぬ	人間死んでも死なぬ	人間死んでも死なぬ	人間死んでも死なぬ	人間死んでも死なぬ	人間死んでも死なぬ	人間死んでも死なぬ	人間死んでも死なぬ	人間死んでも死なぬ	人間死んでも死なぬ	人間死んでも死なぬ	人間死んでも死なぬ	人間死んでも死なぬ
上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六
207	372	413	217	212	386	258	328	82	305	196	276	207	
一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
併成社	普光明思想	普光明思想	春潮社	大隣社	日實業社	問題社	日實業社	日本公論社	磯部甲陽堂	春潮社	創元社	併成社	
月二	月二	月二十	月三	月十	月七	月五	月五	月一	月五	月六	月六	月二十	
▲「笑つて生きる」精神を昂揚しつゝ、如何にすれば成功するかを具體的に述べた處世術書	▲「笑つて生きる」精神を昂揚しつゝ、如何にすれば成功するかを具體的に述べた處世術書	▲「笑つて生きる」精神を昂揚しつゝ、如何にすれば成功するかを具體的に述べた處世術書	▲「笑つて生きる」精神を昂揚しつゝ、如何にすれば成功するかを具體的に述べた處世術書	▲「笑つて生きる」精神を昂揚しつゝ、如何にすれば成功するかを具體的に述べた處世術書	▲「笑つて生きる」精神を昂揚しつゝ、如何にすれば成功するかを具體的に述べた處世術書	▲「笑つて生きる」精神を昂揚しつゝ、如何にすれば成功するかを具體的に述べた處世術書	▲「笑つて生きる」精神を昂揚しつゝ、如何にすれば成功するかを具體的に述べた處世術書	▲「笑つて生きる」精神を昂揚しつゝ、如何にすれば成功するかを具體的に述べた處世術書	▲「笑つて生きる」精神を昂揚しつゝ、如何にすれば成功するかを具體的に述べた處世術書	▲「笑つて生きる」精神を昂揚しつゝ、如何にすれば成功するかを具體的に述べた處世術書	▲「笑つて生きる」精神を昂揚しつゝ、如何にすれば成功するかを具體的に述べた處世術書	▲「笑つて生きる」精神を昂揚しつゝ、如何にすれば成功するかを具體的に述べた處世術書	▲「笑つて生きる」精神を昂揚しつゝ、如何にすれば成功するかを具體的に述べた處世術書

谷口 雅春 伸びる力	加藤 咄堂 美談逸話の泉	大嶺 豊彦 人は何故貧乏するか	伊福部 隆彦 福徳の眞理	尾崎 久彌 一行報徳聖典	諸橋 徹次 本を務めよ	根津 嘉一郎 世渡り體驗談	名取 夏司 若い人の爲に	赤尾 好夫 若き人々におくる	永井 柳太郎 私の信念と體驗	和泉 英助 相性の問題	水杜 鷹堂 運命の哲
並四六製	洋四六製	並四六製	布四六製	洋四六製	洋四六製	布四六製	洋四六製	上四六製	並四六製	布四六製	布四六製
166	426	110	260	454	170	248	232	225	379	204	446
五〇	三、九〇	六、五〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
光明思想會	明治圖書社	教材社	東學社	二宮徳翁全集刊行會	日黒書店	日實業社	日實業社	歐文社	岡倉書房	紀元書房	清教社
四月	三月	十月	一月	二月	十一月	九月	十一月	五月	九月	六月	二月
▲鐵山、工場、會社、商店等に於ける種々の實例を擧げ著者の光明思想の主張を述ぶ。	▲講演の資料として古今東西の書籍並に口傳傳説の中より美談逸話に關するものを蒐む。	▲實際に行はれた成功道、失敗道を述べて、起上るべき方法を説く。	▲人は如何にすれば貧乏を征服して福徳を自由につかむ事が出来るかを究明す。	▲徳二宮翁の語録全五卷中より一日一行三百六十五節を収めて説いたもの。	▲本年四月放送局にて朝の修養として四回に互つて放送した講演筆記を収む。	▲東武鐵道の社長として吾財界に活躍し幾多の事業に關係された根津氏の體驗談を蒐む。	▲最近十年間實業之日本誌上に發表した若い青年男女に對する教訓等を収む。	▲急所、機智、人をみて法をたけ、志望の確立、身分相應、社會人其他の感想隨筆を収む。	▲最近十年間に於ける感想文、追憶談、講演速記、身邊雜話集等を収めたもの。	▲男性と女性との調和を目的として其相性の問題を解説す。	▲易學、相學、四註、姓名學等の運命學の哲理を研究す。

心靈・性相・占術

現代哲學概論 (廿四版) 定價一・八〇 送料一・四〇

文學博士 金子馬治著

加藤 大岳 易學大講	加藤 大岳 易學大講	加藤 大岳 易學大講	汎日本易學協會編 易學發	石 龍 顔は性格と運命を語る	北村 澤吉 周易十翼精義	鹿島 大賢 大運を掴むお墓の直し方	平 竹 辰 手掌の生理と心理	近藤 芳一 日本古曆の教訓	近藤 芳一 日本古曆の神祕を語る
並四六製	並四六製	並四六製	布四六製	布四六製	洋四六製	洋四六製	布四六製	布四六製	並四六製
300	310	299	205	253	339	339	339	292	174
二、八〇	二、八〇	二、八〇	一、〇〇	二、五〇	二、三〇	二、三〇	一、七〇	二、五〇	六、五〇
紀元書房	紀元書房	紀元書房	紀元書房	不盡書院	富山房	會通社	モナス	大日社	日本古曆研究所
十一月	十一月	十二月	六月	四月	二月	十一月	三月	一月	十二月
▲第一卷は易の基礎的知識を説き乾、坤、爲地、水雷屯、山水蒙等を解説す。	▲第二卷は山水蒙(續)水天需、天水訟、地水師、水地比他四篇を収めて解説す。	▲第三卷は天地否(續)天火同人、火天大有、地山謙、雷地豫、澤雷隨其他を収む。	▲從來迷信化されて居た易學の正しい解釋をなして、實例を擧げて説明す。	▲脳髓の構造、心性作用を科學的に分析研究して、性相學の發達と成果とを説く。	▲文言傳、象傳上下、象傳上下、繫辭傳上下他三傳の周易十翼を収めて解説す。	▲あらゆる運命學の根元をなす墓相學を説いて其の建て方直し方を述ぶ。	▲多くの實驗を基とし科學的に手掌の生理と心理を研究す。	▲日本古曆の註する日時、方位の吉凶を明かにし、古曆の説を科學的に價值づけたもの。	▲現今世上に最も使用せられてゐる民間曆の正しい知識を説いたもの。

人学生哲學

廣瀨哲士著 ◆最新刊◆

四六判三八〇頁 定價金一圓八十錢
 挿繪八葉・上製函入 郵送料十四錢

本書は近代思想の祖たるジャン・ジャック・ルソーの思想體系の全貌を究明したものである。言ふ迄もなくルソーは單なる講壇の哲學者でなく、言はば大地に立つた野の哲人であり、迫害せられた人生人である。生れて孤兒、貧困艱苦の裡に社會に投げ出され、放浪者として人と成つた彼が、後にカントを動かし、ゲーテを動かした、近くはロシヤのトルストイをして徹頭徹尾私淑せしめたばかりか、世界の全部を動かすに至つたのである。今日は正に非常時であり、思想動搖の時代である。この難局の克服には、われらの魂を、精神を、この秘奥に徹して一新することが始めなければならぬ。幸に本書がその方面に幾分の貢獻を成すことができれば、著者と共に出版者の無上の喜びである。著者はルソーに傾倒することは多年、親しくスイス、サツアの邊地に到るまでその舊跡を訪ねたことは、本書を成す上に恐らく活きた何物かを付け加へずにはゐなかつたことであらう。切に愛讀を請ふ。

笑の哲學

夢と哲學

四六判洋布裝二五〇頁天金
 函入美本 定價二圓 送料十四錢
 四六判上製二五〇頁函入
 美本 定價一圓五十錢 送料十四錢

東京東九町 東九段 東九段 東九段 東九段 東九段 東九段 東九段 東九段 東九段

二、宗教

著者	書名	装形	訂體	數頁	定價	料價	發行所	月行發	內容大意
田川大吉郎	國家と宗教	洋布	布判	304	一、五〇	一、四〇	教文館	八月	▲西歐諸國に於ける國家と宗教の問題を論じ現下の我が國の趨勢及其動向を説く。
富士川	宗教の教養	洋布	布判	189	一、八〇	一、四〇	第一書房	六月	▲近代人に説かれた宗教的世界觀で、宗教の本質、佛敎の教理、宗教的教養の三篇。
佐藤定吉	民衆信仰讀本	四六	裝入判	298	一、五〇	一、四〇	日實本社	十月	▲國民精神の原動力たる國民信仰の問題を論じたもので皇國心、皇國の本質、人生の三篇。
谷口雅春	新百事如意	四六	裝入判	394	一、三〇	一、四〇	普光明會	九月	▲非人格的生命として觀たる宇宙の本體、人格的靈として觀たる宇宙の本體の二篇。
谷口雅春	生命の實相	布	裝入判	836	三、五〇	一、四〇	普光明會	八月	▲敎の卷は母・妻・娘の聖書、新しき智慧、家庭と敎育の基礎の三篇にて述ぶ。
谷口雅春	生命の實相	布	裝入判	962	三、五〇	一、四〇	普光明會	六月	▲風の卷は、天使の言葉、燃えさかる聖靈の火、生長の家の奇蹟に就いて他二篇。
谷口雅春	生命の實相	布	裝入判	942	三、五〇	一、四〇	普光明會	五月	▲行の卷は常樂宗敎の提唱、光明眞理の祈願、生命の敎育の原理・その成果他一篇にて述ぶ。
谷口雅春	生命の實相	布	裝入判	862	三、五〇	一、四〇	普光明會	十一月	▲信の卷は、いのちの解説、新約聖書の示す眞理、日本國の世界的使命他一篇にて述ぶ。

宗教(宗教一般)

二七九

二七八

宗教(宗教一般・神道)

谷口 雅春 生命の實相	谷口 雅春 生命の實相	谷口 雅春 生命の實相	加藤 咄堂 戦争と信仰	原田 嘉悦 天路を拓く	江原 小彌太 日本宗教史	平原 北堂 日本宗教史	三井 博博 日本宗教思想史	鳥井 博博 日本宗教思想史	豊田 武 日本宗教制度史の研究	谷口 雅春 人間・力は無限力	友松 圓諦 人間と死
布版半 裝入裁	布版半 裝入裁	布版半 裝入裁	布版半 裝入裁	布版半 裝入裁	布版半 裝入裁	布版半 裝入裁	布版半 裝入裁	布版半 裝入裁	布版半 裝入裁	布版半 裝入裁	布版半 裝入裁
856	879	948	247	125	416	169	311	297	406	260	214
二、五〇	二、五〇	二、五〇	一、四〇	一、〇七	一、七〇	一、五〇	一、八〇	一、五〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
光明思想會	光明思想會	光明思想會	大東出版社	教文館	千倉書房	勸語御下賜記念事業部	三笠書房	厚生閣	光明思想會	併成社	併成社
三月	七月	四月	四月	六月	七月	十一月	五月	二月	五月	二月	二月
▲地の巻は七つの光明宣言、光明の眞理、「生長の家」の生き方、「生長の家」の教育法收載。 ▲生長の家の歌(聖詩篇)、「大生長の家」地湧の淨土(萬教歸一論)他一篇。 ▲「甘露の法雨」講義、神聖觀實修本義、新生活への出發其他。 ▲神國日本の信念、佛教の戦争観、武士と信仰、新興精神と信仰其他にて論述す。 ▲月夜のトンネル(自傳)恩恵の藤、信仰と治病について其の他の宗教隨筆を收む。 ▲神道・佛教・基督教生成の由來教義の本質を理解せしめ三教の融合たる日本宗教を説く。 ▲日本に於ける神道十三派、佛教各宗、基督教及回教を網羅して史的に解説す。 ▲中央集權國家確立の過程に於ける佛教の役割、奈良王朝時代他四篇。 ▲宗教制度史に關する諸論文を収めて體系づけたもので宗教制度の變遷概要他七篇。 ▲人間の内在力に就て述べたもので、七つの光明宣言の解説、光明の眞理の二篇。 ▲死の迷を解決し、死のきとりに就て述べたもので人間と死、死の意味、日本人と死其他											

宗教(神道・佛教)

小倉 舞榭 神道の話	小倉 舞榭 神道の話	宮地 直一 神社の要	大倉 精神文化 大藏講義	研 究 所 編 大藏講義	六人部 是香 日中神事	小林 一郎 勝鬘經講義	清水 谷 善照 觀音生活を語る	遠山 諦觀 教行信證精解	小林 一郎 心の建て直し	太田 熊藏 坐禪讀本	常盤 大定 支那佛教の研究	加藤 芳咄 死生禪	清泉 巖堂 死生禪
布版半 裝入裁	布版半 裝入裁	布版半 裝入裁	布版半 裝入裁	布版半 裝入裁	布版半 裝入裁	布版半 裝入裁	布版半 裝入裁	布版半 裝入裁	布版半 裝入裁	布版半 裝入裁	布版半 裝入裁	布版半 裝入裁	布版半 裝入裁
248	209	156	251	772	334	845	286	287	520	436	436	436	
一、八〇	一、八〇	二、五〇	一、五〇	三、五〇	一、七〇	二、五〇	一、四〇	一、八〇	三、八〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	
錦正社	錦正社	東洋圖書株式會社	大倉精神文化研究所	五色屋書房	大乗佛教會	磯部甲陽堂	新潮社	日本實業社	中央佛教社	春秋社	磯部甲陽堂	併成社	
三月	三月	三月	六月	三月	三月	六月	十一月	九月	五月	六月	三月	三月	
▲國體の精華、日本精神の根本たる神道を平易に説いたもの。 ▲日本全国の官國幣社の祭神の御護解をなし各社に關する記事をも收む。 ▲國家神道思想の主流を辿る事を主眼として神社の一般に就て叙述す。 ▲神宮奉齋會長今泉定助翁の十二回に亙る大藏講義を補訂し一冊に纏めたもの。 ▲藤末神道家の異彩六人部是香翁の「日中神事記」を復刻せるもの。 ▲大乗佛教の根本精神を最も簡明に説かれてある勝鬘經を講義す。 ▲慈悲を仰ぐ、淨念を追ふ、同信と語る、御經について、佛像について其他。 ▲淨土眞宗の祖親鸞上人の撰述になる「教行信證」を註釋せるもの。 ▲大乗佛教について語つたものを集めたもので信仰の生活、佛と佛弟子、其他。 ▲總説、坐禪の仕方、大乘經典と坐禪の三編に就て述べた坐禪讀本。 ▲佛教の立場より支那文化を研究せし論文を纏めたもので支那佛教史大觀他十五篇。 ▲死生問題の禪によつて解決せんとするもので、生か死か、新生への轉向其他。													

宗教(佛教)

平井 巽	指導原理としての佛教學	洋装	385	二、五〇	大東出版社	三月	▲人生問題、宗教と一般文化との關係等により實生活に即した佛教學を究明す。
高階 瑞仙	要諦乃清談 金剛經	和装	309	二、〇〇	中央佛敎社	八月	▲雜誌「大乘禪」に連續掲載された金剛經に關する通俗話談を纏めたもの。
古川 確悟	僧侶妻帯論	並六判	77	五〇	中央佛敎社	五月	▲昨秋文部省の干渉まで受けた佛敎界の大問題僧侶妻帯論を根本的に究明す。
加藤 友康	追善供養の心得	布装	181	一、八〇	東學社	十月	▲葬儀・供養等に於ける諸知識を判り易く述べたもので供養篇、建墓篇の二篇。
宇野 圓空	佛敎が要求する宗教生活	布装	194	一、〇〇	大東出版社	四月	▲佛敎思想大意、佛敎的生活、解學と生活態度他一章にて説述す。
高瀬 承巖	佛敎國文讀本	並装	268	一、四〇	大東出版社	六月	▲佛敎思想が國文學の發達に如何に影響したかを述べたものでかぐや姫(竹取物語)其他
宇井伯壽	佛敎辭典	並装	1148	特四、五〇	大東出版社	六月	▲一般向に佛敎の用語、其他全般の事項を網羅して解説をなす。
小松 雄道	佛敎傳道史	布装	538	四、〇〇	刀江書院	四月	▲印度に興り支那、朝鮮、日本等に傳播せる佛敎の傳道發展を組織的、系統的に闡明す。
高島 米峰	佛法と世法	布装	302	一、五〇	春潮社	二月二十	▲新聞雜誌に發表したものや放送せる舊稿を佛法と世法の二篇に分け収めたもの。
夢殿論誌編纂所編	南都七大寺行事	和装	72	一、三〇	鶴故郷舎	五月	▲藥師寺、法隆寺、興福寺、東大寺、西大寺唐招提寺、新藥師寺等七寺の年行事を収む。
林 岱雲	日本禪宗史	布装	708	五、五〇	大東出版社	五月	▲我國禪宗史上の最盛期鎌倉時代を中心にして禪宗の傳來より南北朝初期までを叙述す。
原 雪	日本佛敎史研究	布装	716	二、三〇	大東出版社	八月	▲雜誌に發表せし論文を集めたもので佛敎傳來考、初期の佛敎傳教と歸化人他二十一篇。

宗教(基督教)

池谷 敏彦	天路歷程	洋装	634	三、〇〇	新生堂	五月	▲宣敎の書であり、修身の書である宗教的大文學パンヤンの「天路歷程」を全譯す。
經塚 清司	現代神學の諸問題	布装	274	一、〇〇	新生堂	十月	▲アルトハウスの神學思想中特色ある論文七篇を撰出して譯述したもの。
黒崎 幸吉	舊約聖書略註	洋装	998	四、〇〇	日英堂	二月二十	▲上は舊約聖書中の創世記より士師記までを収めて註解を施したもの。
比屋根 安定	基督教の日本的展開	布装	233	一、三〇	叢書刊行會	六月	▲日本に於ける基督教が今後如何なる展開をなさねばならぬかを述ぶ。
中村 獅雄	基督教の哲學的理解	洋装	351	二、五〇	敎文館	二月二十	▲人間學的觀點から基督教の理解を試み、たので宗教哲學への途、絶體論理解其他。
竹村 清譯	完全生活の榮	布装	150	一、〇〇	新生堂	七月	▲一三七九年に生れ一四七一年に没するまでの一生を神に捧げた聖トマス宗教書を譯す。
額賀鹿之助	神の言と現代人	布装	170	一、〇〇	新生堂	三月	▲現代の思想を嚴密に分析批判し、人間不可觸の誌を解き神の眞理を現代語にて説く。
出 隆	神の思ひ	並装	270	一、三〇	岩波書店	十一月	▲世は彼を知らざりき、ヘラクレイトスの口ゴス、シロアムの櫓他三篇の説敎集。
松本 卓夫	カルヴイン説敎集	上装	288	一、九〇	日獨書院	二月二十	▲カラテヤ書に現れた使徒パウロの信仰と人格とを正確、率直、鮮明に再現したもの。
竹森 滿佐	海老名禪正先生	洋装	323	一、八〇	新生堂	七月	▲從來等閑に附されてゐたカルヴインの説敎を譯したものにて降誕に關する説敎其他。
渡瀬 常吉	カルヴイン説敎集	洋装	508	三、〇〇	龍吟社	二月二十	▲我が國基督教界の大先達として令名の高かつた故海老名禪正先生の一生を叙述す。
小出 正吾	ウエスレーの信仰	上装	320	一、六〇	建設社	四月	▲ジョン・ウエスレーの信仰に對して述べたもので、多角形のウエスレー他六章。
徳 義	ウエスレーの信仰	並装	110	五、〇〇	新生堂	四月	▲ルツ記物語、祈りの人サムエル、サウル王物語、ダビデ王物語、ソロモンの榮華其他。

宗教(基督教・諸教)

比屋根 安定	日本基督教史	四六	一、〇〇	教文館	五月	▲最初に日本基督教史を概説し、基督教の傳來より京都に開教するまでを述ぶ。
比屋根 安定	日本基督教史	四六	一、〇〇	教文館	九月	▲永祿三年ゲイレラの京都開教後より慶長二年二十六聖人の殉教前までを述ぶ。
山岸 外史	人間キリスト記	四六	一、五〇	第一書房	十二月	▲基督の人間性のすべてを描いたもので耶蘇の生涯、耶蘇の母マリヤ、耶蘇の信仰其他。

諸

教

外務省調査部編	回教	一〇〇	五〇	改造社	五月	▲回教國及回教問題に關する正確なる紹介を目的としたものでソ聯邦内の回教民族其他。
外務省調査部編	回教	一〇二	六〇	改造社	八月	▲中國回教史の一編、中國西北回教徒の赤化傾向、回教の教義・寺院・宗派其他を收む。
外務省調査部編	回教	一〇〇	九〇	改造社	十一月	▲四川西康の回教徒、イデル・ウラル運動とアドゥラ・トウカイ其他の資料彙報を收む。
久野 豊彦	天理教の本義	二七〇	一、〇〇	生活社	七月	▲全國に八百萬の信徒を持つ天理教を解説したもので天理教は異色ある宗教其他。

ルナン著 廣瀬哲士譯
耶 蘇普及版
 世界的名著の完全譯
 定價一・五〇
 送料一・四〇
 東京堂版

三、教育

教育學・教育一般

著者	書名	裝形	訂體	頁數	送定	料價	發行所	月行發	內容大意
大久保 勇市	教學淺見綱齋の研究	布函裝	裝入判	三一九	三、三〇	協一會出	八月	▲崎門の逸足、培猷遺言の著者淺見綱齋の其教育精神と生涯を叙す。	
上田 庄三郎	新らしき教育への出發	上函裝	裝入判	二五一	一、四〇	啓文社	十一月	▲教育の聖書であり論語と云はれるエミールの中より教育の要點となるところを解説す。	
寺田 彌吉	母と教師エミール讀本	並函裝	製入判	三八二	一、三〇	第一書房	三月	▲日本精神の教育、英雄教育法、我子を天才にする法の三篇を收めたもの。	
勅語御下賜記念事業部編	英雄教育法	並函裝	製入判	三五七	九、九〇	勅語御下賜記念事業部	十一月	▲専門學校程度の學生に教育の一般を解説したもので教育本質論他二篇。	
山極 眞衛	代訊學校教育學	布函裝	裝入判	三五三	三、三〇	賢文館	十一月	▲ラザオと教育、學校放送の發達、學校放送の實際とその利用の三篇にて説く。	
小尾 範治	學校放送の實際とその利用	洋函裝	布入判	二四九	一、五〇	日本放送協會	九月	▲新教育論(長田新)言語と教育(稻富榮次郎)獨逸教育政策の發展(皇至道)他一篇。	
廣島文理科大學教育學研究室編	教育學科學	並函裝	製入判	二〇九	一、〇〇	岩波書店	十一月	▲民族教育學の根本問題(長田新)新學習指導形態の建設(石山脩平)他六篇を收む。	
國民調育聯盟編	戰時教育革新方策	布函裝	裝入判	二七〇	二、〇〇	協一會出	十月		

教育(教育學・教育一般)

伏見 猛 彌	上田 庄三郎	武田 勘 治	藤原 助 市	帆 足 理 一 郎	小 西 重 直	上 田 庄 三 郎	吉 田 熊 次	水 野 成 晃	浅 野 惠 之 助	小 川 正 行	小 塚 新 一 郎	
カントの教育學其他	教育現象學	教育國防論	教育哲學概論	教育哲學概論	小西重直教育讀本	教育のたための戦	教育目的論	アラン教育論	教式と教壇論	現下の教育問題	現代文化と國民教育	
洋商編	布商編	布商編	洋商編	洋商編	布商編	布商編	洋商編	洋商編	布商編	洋商編	洋商編	
布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	
403	304	200	211	526	372	266	298	375	200	238	110	
三、三〇	二、八〇	一、三〇	一、二五	三、八〇	一、五〇	一、四〇	二、八〇	二、〇〇	一、〇〇	二、〇〇	三、三〇	
岩波書店	賢文館	調尋生活社	版協會	寶文館	第一書房	啓文社	日黑書店	創元社	同志同社	日黑書店	岩波書店	
月一十	月四	月二	月三	月七	月一十	月一十	月二十	月十	月五	月一十	月三	
▲カントの教育學に關する断章をリンクが編纂したもの他一篇の論文を譯載す。	▲教育現象の研究、教育現象の形態、教育現象の内容。附録日本教育學の課題と方法。	▲非常時教育國防の第一線にある教師におくる精神の書。	▲二宮尊徳と佐藤信淵の教育説を選載せるもの。	▲嘗て發表した教育に關する論文を纏めたるので民族と教育、自由と愛其他。	▲フェウイの教育哲學の譯で生活の必要としての教育、社會機能としての教育其他。	▲教育學の權威者小西博士の全著作中より抜萃編輯して其教育精神・教育思想を闡明す。	▲著者の教育觀の序論と過去の戦ひの記録をまとめたもの。	▲昭和十年八月帝國教育會の夏季講習會に於ける講演を纏めて増訂せるもの。	▲アランの "Propos sur l'Education" (教育語錄) を邦譯したもの。	▲教式と教壇に關する著者の體験談で、緒言事實、教式、教壇、結語より成る。	▲現下我國の教育上最も革新と決定とを要する二、三の具體的問題を論究す。	▲著者が日本に於て試みた教育學並に心理學に屬する講演の翻譯で、性格教育他七章。

上 田 久 七	岩 瀬 六 郎	田 中 寬 一 監 修	熊 平 源 藏	三 木 英 太 郎	佐 藤 熊 治 郎	佐 藤 熊 治 郎	講 話 揭 示 部 編 教	育 編 輯 示 部 編 教	長 田 新	山 崎 博	上 沼 久 之 一 監 編	松 浦 俊 吉	上 田 庄 三 郎
皇民訓育の實踐	高等小學教育總論	國勢の伸張と學校増設	國民教育の諸問題再檢討	國民教育の諸問題再檢討	國民教育の諸問題再檢討	國民教育の諸問題再檢討	國民教育の諸問題再檢討	國民教育の諸問題再檢討	國民教育の諸問題再檢討	國民教育の諸問題再檢討	國民教育の諸問題再檢討	國民教育の諸問題再檢討	國民教育の諸問題再檢討
洋商編	洋商編	洋商編	洋商編	洋商編	洋商編	洋商編	洋商編	洋商編	洋商編	洋商編	洋商編	洋商編	洋商編
布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判
275	387	468	321	426	298	140	371	461	522	397	388	395	
一、八〇	二、〇〇	二、八〇	一、〇〇	三、六〇	二、四〇	一、〇〇	二、八〇	二、八〇	三、三〇	二、九〇	二、六〇	三、六〇	
太白書房	三友社	成美堂	春陽堂	明式會社	目黑書店	目黑書店	啓文社	岩波書店	明式會社	明式會社	明式會社	明式會社	啓文社
月二十	月二十	月五	月五	月三	月七	月一	月一	月一	月二	月四	月三	月三	月三
▲現在行はれてある皇民の發生とその發展とを綜合的に述べその存在理由を検討す。	▲國體の本義に基づいた眞の教育を述べたもので日本教育と皇民教育其他。	▲國民教育大系に於ける高等小學の地位(田中寬一)高等小學の陶治材(海後勝雄)他	▲國勢發展の源泉たる國民教育の重要を説き學校増設に就て述ぶ。	▲修身、讀本、書方、算術、國史、地理書の編纂趣意を解説す。	▲重大時局の國民教育を再檢討して起る種々の問題を究明す。	▲職責に促される理論的反省、國民教育の目的原理、方法原理、方法的區分他一章。	▲小學校、青年學校教職員の講話資料として關係各官省等の該運動に就ての資料を蒐集す	▲全體觀の教育學、辨證法的教育學、現象學的、教育學、教育科學其他にて教育哲學を説く	▲事變と日本躍進、國家總動員、國民精神總動員、時局美談其他の講話資料を收む。	▲國民精神總動員下に於ける小學校教育を説き配當表を附し各學年の教授法を説く。	▲教育概説、陶冶論、教師論、養護論、化育論、教育論、訓育論の七篇にて教育學を説く	▲時勢と教師論、社會的教師論、近代教師論、文學教師論、教師論、地方教師論收載	

教育(教育學・教育一般)

加藤 仁平	野崎 泰秀	小原 國芳	本間 俊一	大日本學術協會編	岡本 成 蹊	上田 庄三郎	久保 田 清	渡部 政盛	橋田 保之助	佐々木 秀一	海太 郎	
新興報徳教育	新講映畫教育	戦後の教育	戦後の教育改造	全體主義と教育	大學革新論	大地に立つ教育	魂の教育實踐記録	日本教育學原義	日本教育統計	日本教育之將來	日本教育への反省	
洋文四六	洋文四六	洋文四六	洋文四六	洋文四六	洋文四六	洋文四六	洋文四六	洋文四六	洋文四六	洋文四六	洋文四六	
布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	
440	180	211	259	154	226	277	412	360	405	1968	497	
三、五〇	一、〇〇	一、五〇	一、五〇	六、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	二、八〇	四、三〇	三、〇〇	四、三〇	
同文書院	培風館	版第	出版	問今	モ	海書房	版第	啓文社	松	目黒書店	成美堂	
月一	月一	月一	月九	月二	月九	月九	月一	月二	月十	月十	月七	
▲二宮尊徳の報徳教育を理論的に究明し、新興報徳教育の原理と方法を叙述す。	▲映畫教育に關する一般を説述したもので教育と映畫、映畫教育についての企畫他五章。	▲青年教師論、時局と青年教師論及新裝青年教師の途、青年教師と人生問題他一篇。	▲日本の使命、爲政者と國民に、教育改造の具體問題の三篇にて論述す。	▲戦後經營の基本的な重要國策としての教育改造案を説く。	▲全體主義の本質、全體主義の哲學觀、全體主義の社會觀他五篇にて述ぶ。	▲現在のアメリカ教育界、學生校友等を解剖したシカゴ大學總長ロ氏の著書を邦譯す。	▲一小學教師の地位にあつた著者の思想的軸とも云ふべき野性的教育觀を述べたもの。	▲過去十數年間の教育生活の教育手記・體驗記録等を收めたもの。	▲日本文化價值、日本兒童青年の陶冶性を基として日本教學の原義を記述す。	▲明治五年學制頒布以來大發展せる我國教育に關する論策・研究を統計的に研究す。	▲著者の抱ける日本教育の將來に關する全般的意思を發表せるもの。	▲非常時局下にある日本教育を再檢討したもので性格陶冶、實踐力鍛錬他二篇。

教育(教育史・教育思想史・教育心理學・兒童研究)

教育心理學・兒童研究

石川 謙	岡田 怡川	守内 喜一郎	海後宗臣・伏見猛彌	大日本學術協會編	霜田 靜 志	安藤 圭助	野口 援太郎	武田 勘 治	谷 本 富								
近世日本社會教育史の研究	現代教育思潮	現代教育思潮統一の研究	日本教育史	日本大教育家の生涯及思想	問題の學校	明治天皇の教育	先づ教育を革新せよ	吉野松平不滅の教育魂	非常時の教育と宗教								
洋文四六	洋文四六	洋文四六	洋文四六	洋文四六	洋文四六	洋文四六	洋文四六	洋文四六	洋文四六								
布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判	布入判								
774	318	370	336	437	324	343	332	229	734								
三、八〇	三、〇〇	三、五〇	三、七〇	二、八〇	一、五〇	一、八〇	一、五〇	一、八〇	二、八〇								
東洋圖書株式會社	春陽堂	目黒書店	目黒書店	目黒書店	刀江書院	千倉書房	弘學社	版第	協一								
月一	月三	月十	月二十	月一	月七	月六	月八	月九	月二								
▲近世社會教育史の若干問題、石門心學史に關する研究、心學に關する文獻の三篇。	▲今日及び明日の教育活動に規制原理を提供するに至るところの教育思潮を叙述す。	▲明治以來の混流せる教育思潮を日本人教育の立場から統一研究せるもの。	▲事實的側面より見た日本教育史を六期に分けて簡略に敘述せるもの。	▲中江蘇樹、具原益軒、伊藤仁齋、山鹿素行、吉田松陰他六氏を收めて其生涯と思想を説く。	▲ニールの經營するサンマールヒルの全貌を明かにした "That beautiful School" の譯。	▲教育勅語漢發の由来を中心に、明治天皇の教育に關する報旨並に御事蹟を謹記す。	▲國史を背景に國民性に立脚した國體の本義に基づく誠の教育を解説す。	▲日本民族の理想、國民的生活から見た我が國民性、一般方策、教育の革新の四篇を收む。	▲國史を背景に國民性に立脚した國體の本義に基づく誠の教育を解説す。	▲教育勅語漢發の由来を中心に、明治天皇の教育に關する報旨並に御事蹟を謹記す。	▲ニールの經營するサンマールヒルの全貌を明かにした "That beautiful School" の譯。	▲非常時に當り應務を與へたるもの。	▲吉野松平不滅の教育魂を以て子弟を教育した松陰の述作及記録等を收めたもの。	▲日本民族の理想、國民的生活から見た我が國民性、一般方策、教育の革新の四篇を收む。	▲國史を背景に國民性に立脚した國體の本義に基づく誠の教育を解説す。	▲教育勅語漢發の由来を中心に、明治天皇の教育に關する報旨並に御事蹟を謹記す。	▲ニールの經營するサンマールヒルの全貌を明かにした "That beautiful School" の譯。

教育(教育心理學・兒童研究・專門教育・特殊教育)

大日本學術協會	大沼直輔	松田友吉	竹田浩一郎	山下德治	波多野完治	河上民祐	前田偉男	山下俊郎		
異常兒童教育法の新研究	學校少年團の理論と訓練	兒童教育心理學	子供から見た愛と懲罰	兒童教育基礎理論	兒童社會心理學	母への兒童の安全教育	少年人生行路	幼兒心理學		
布版 裝入判	布版 裝入判	洋版 布入判	洋版 布入判	洋版 布入判	洋版 布入判	洋版 布入判	洋版 布入判	洋版 布入判		
250	304	528	342	225	283	282	340	410		
一、七、モ	一、五、三	二、五、〇	一、八、〇	一、六、〇	一、〇、三	二、〇、〇	二、〇、〇	二、五、〇		
モナス	三省堂	大同館	北斗書房	建設社	同文館	目黒書店	明治圖書社	巖松堂		
月三	月六	月二十	月三	月一十	月三	月七	月五	月七		
▲低能兒、劣等兒、不良兒の教育に關する内外諸學者の研究を集成す。	▲兒童の校外生活としての學校少年團の理論と實際指導法を説く。	▲從來の心理學綱目に從ひつゝ、兒童生活の具體的事實を中心として生活心理を研究す。	▲現代心理學に關する論文八篇と、教育的見地より兒童の精神力學的的研究をも收む。	▲實生活に即した立場より子供の心理を研究し、子供に對する愛と懲罰に就いて述ぶ。	▲兒童教育學に關する基礎的論議を收めたもので兒童期と學齡問題其他。	▲第一子供に於ける社會性の問題第二子供と現實社會との交渉の二篇にて説明す。	▲兒童教育の直接的責任者たる教師と母のたみに兒童安全教育の理論と實際を説く。	▲兒童の個性と教育、兒童教育と教師愛、兒童と言語、兒童と藝術教育他十篇。	▲少年審判所に於ける體驗を基として青少年の進むべき正しい道を指示す。	▲幼兒の心理、乳兒の心理、幼兒の精神検査の三篇にて説き、幼兒に對する知識を述ぶ。

專門教育・特殊教育

教育(專門教育・特殊教育・社會教育・公民教育・青年教育)

田中保平	片山暉廣	關寬之	大河原欽吾	金井十郎平	千葉敬止	大倉邦彦	長倉鳩介	日本青年教育會編	日本青年教育會編	岡田怡川	佐藤隆徳
商業教育論	商業教育論	日本宗教教育	盲教育概論	行脚の足跡を踏進青年學校の研究	普通學校教授及訓練要目解説	勤勞教育の理論と方法	公民教育の本質	修身及公民科精義	修身及公民科精義	集團勤勞の本質及方案	集團勤勞教育の實際
洋版 布入判	洋版 布入判	洋版 布入判	洋版 布入判	洋版 布入判	洋版 布入判	洋版 布入判	洋版 布入判	洋版 布入判	洋版 布入判	洋版 布入判	洋版 布入判
208	221	250	264	271	236	218	413	498	505	188	224
一、〇、〇	二、〇、〇	二、五、〇	二、五、〇	一、〇、〇	九、〇	一、〇、〇	三、〇、〇	三、〇、〇	二、〇、〇	一、〇、〇	一、〇、〇
成美堂	東京實業社	東洋圖書社	培風館	實業青年教育研究會	日本青年會	三省堂	明治圖書社	日本青年會出版部	日本青年會出版部	モナス	啓文社
月二	月八	月十	月四	月三	月一十	月十	月六	月二	月七	月七	月七
▲商業教育とは如何なるものを指し、其の眞に在るべき本質に就いて述ぶ。	▲三分類法を以て體系づけられたロマツクス博士の「商業教育論」を譯す。	▲日大にて講義せし宗教教室の講義案を集めたもので發達論、本質論、條件論他二論。	▲視力と失明原因、盲人の定義、盲教育總説盲教育の段階、點字他二篇にて述ぶ。	▲全國行脚の見聞を基調として青年學校を研究した書で、校長專任教諭を主として述ぶ。	▲本年八月公布された普通學科の要目を解説して指導す。	▲近來全國的に實施せられつつある勤勞奉仕集團勤勞の宗教的探究をなしたるもの。	▲公民教育の意義、公民教育諸論の重點、制度教育、公民道徳主要教材其他に及ぶ。	▲青年學校修身及公民科第二年度の教授及訓練要目を各項に亘り詳説行義す。	▲青年學校修身及公民科の教科書第三年度の各課を収めて解説指導す。	▲集團勤勞とは何か、ドイツに於ける集團勤勞の發達及現況其他にて解説す。	▲時局下に提唱された集團的勤勞作業運動の要項を解き其方法及諸注意を述ぶ。

社會教育・公民教育・青年教育

教育(學校・學級經營・教授法・教材・學習指導)

藤田 軍三	佐藤 末吉	小 林 巖	村 田 正博	大 島 誠	宇留野 弘	永 井 照	國民訓育聯盟編	三浦 輝男	長岡 輝男	相島 龜三郎	
單位間 尋五の學級經營	尋三の學級經營	尋三の學級經營	單位間 尋三の學級經營	單位間 尋四の學級經營	單位間 尋二の學級經營	單位間 尋六の學級經營	教育 日本人の訓育	小學校 日々の揭示教育	青年學校 日々の揭示教育	私の學校訓練	
洋政四六 布入判	洋政四六 布入判	洋政四六 布入判	洋政四六 布入判	洋政四六 布入判	洋政四六 布入判	洋政四六 布入判	洋政四六 布入判	洋政四六 布入判	洋政四六 布入判	洋政四六 布入判	
396	437	335	238	257	269	271	274	376	376	396	
一、八〇	二、九〇	二、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	二、〇〇	二、七〇	二、七〇	二、八〇	
版第一會出	株明治圖書	式合資會社	版第一會出	版第一會出	版第一會出	版第一會出	版第一會出	啓文社	株明治圖書	株明治圖書	
月五	月六	月四	月五	月五	月五	月六	月十	月四	月四	月四	
▲體験の記録を中心として尋五學級經營の理論を説き各月の實際指導を述べ	▲體験を基として尋三學級經營の理論と實際とを述べ、各月の教材をも掲ぐ	▲基礎篇、實際篇に大別して、小學三年の學級經營を一年間の實際記録を掲げて説く	▲訓育を主體として尋三の學級經營を説き、各月に配當表を附し指導解説す	▲尋四の學級經營の理論を説き、各月に教材を掲げて指導解説をなす	▲週間を單位として尋二學級經營の概念を説き各月の教材を掲げて指導解説す	▲現時の小學教育の動向を説き、尋六學年の一年各月の學級經營法を説く	▲「教育と行」の講習會の講演速記録を収めたもので師道と親心(小西重直)他九篇	▲小學、青年學校に活用出来る千數百篇の實例を一學期、二學期、三學期に分け収む	▲經驗に基づき、實際方面に重きを置いて、小學校に於ける學校訓練について述べ	▲各科目指導の諸問題を實際的の立場から専門家が分擔執筆せしもの	▲形體をとり居るかを解明す

教授法・教材・學習指導

大日本學藝協會	藤 治	各 科 授 課 體 系
新 數 授 課 體 系		
洋政四六 布入判	洋政四六 布入判	洋政四六 布入判
409	385	385
二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
株明治圖書	株明治圖書	株明治圖書
月六	月六	月六
▲各科目指導の諸問題を實際的の立場から専門家が分擔執筆せしもの	▲形體をとり居るかを解明す	▲形體をとり居るかを解明す

教育(教授法・教材・學習指導・修身教育)

中等教育研究會編	東京府教育會編	石山 脩平	齋 藤 要	鳥津 新治	綿貫 數夫	小 林 巖	内 田 安久	倉 澤 剛	倉 澤 剛	小 林 巖	堀之内 恒夫
各科 諸問題の實際的取扱	小學校 各科教授法	新學習指導要論	小學 神社教材の解説と研究	尋一合科教育指導細案	尋一の綜合教育	低學年合科教育の方法	「場」の問題と指導過程	高二修身教材研究	高一修身教材研究	國體本義に基づく修身教育	小學 修身指導書
洋政四六 布入判	洋政四六 布入判	洋政四六 布入判	洋政四六 布入判	洋政四六 布入判	洋政四六 布入判	洋政四六 布入判	洋政四六 布入判	洋政四六 布入判	洋政四六 布入判	洋政四六 布入判	洋政四六 布入判
312	373	390	336	408	373	400	331	620	620	258	337
二、〇〇	二、五〇	二、三〇	二、八〇	二、〇〇	二、六〇	二、五〇	二、四〇	二、八〇	二、八〇	一、〇〇	二、三〇
目黒書店	株明治圖書	目黒書店	厚生閣	株明治圖書	株明治圖書	株明治圖書	長宗書房	成美堂	成美堂	三友社	式合資會社
月三	月三	月四	月五	月三	月二	月三	月九	月四	月四	月十	月五
▲各科目指導の諸問題を實際的の立場から専門家が分擔執筆せしもの	▲修身科、國語科、算術科、國史科、地理科、理科、圖畫科其他にて各科教授法を解説す	▲理論と實踐との結合を主眼として小學校教育に重要な學習指導を述べ	▲神社と神道を概説し、高等科、尋常科の各學年に於ける神社教材に就て解説す	▲尋一合科教育の體系、理論を説き、合科指導細案を示す	▲尋一兒童の如何なるものかを述べ、綜合教育の價値と本質及び實踐に就て叙説す	▲低學年合科教育の理論と實際の全般に亘つて研究す	▲實踐的指導過程の諸問題の凡てを包含せる「場」を理論と實踐の兩面より説述す	▲高一修身書の各課を主眼、教材觀、教法の三篇に分けて解説研究す	▲教師用参考書として改正された高等小學校修身書の各科を綜合研究す	▲國體の本義に基き修身教育の據つて立つべき根本を究明せるもの	▲改正された小學校尋五修身書の綜合解説をなし全課の取扱を解説す

教育(國語・綴方・書方教育)

西原慶一	西原慶一	西原慶一	西原慶一	西原慶一	飛田多喜雄	東京朗讀研究会編	鶴田常吉	秋田喜三郎	大槻芳廣	原上直吉	原上直吉	原上直吉	丸山良二	馬淵冷佑											
教材解説 実践綴方教授細目 尋常科三學年前期用・巻五	教材解説 実践綴方教授細目 尋常科四學年前期用・巻七	教材解説 実践綴方教授細目 尋常科五學年前期用・巻九	教材解説 実践綴方教授細目 尋常科六學年前期用・巻十一	低學年綴方教育要義	讀本指導と朗讀法 巻十一	讀本の體系的的研究	讀本の體系的的研究	小學讀方教育の心理	小學讀方教育の心理	模範指導書 尋常科第六學年前期用	模範指導書 尋常科第六學年前期用	模範指導書 尋常科第六學年前期用	讀方教育の學年的發展	讀方教育の學年的發展											
並判	並判	並判	並判	並判	並判	並判	並判	並判	並判	並判	並判	並判	並判	並判											
79	104	83	99	477	327	234	228	153	564	579	214	302	355												
吉	吉	吉	吉	三、八〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇											
啓文社	啓文社	啓文社	啓文社	啓文社	成美堂	成美堂	成美堂	小學出版社	小學出版社	日黒書店	日黒書店	日黒書店	日黒書店	日黒書店											
五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月											
▲小學國語讀本卷五の指導精神を把握し、全課の解説をなして指導の實際を述べ、教材を掲げて全課の解説指導をなす。	▲小學國語讀本卷七の指導精神を把握し、教材を掲げて全課の解説指導をなす。	▲小學國語讀本卷九の指導精神を把握し、教材を掲げて全課の解説指導をなす。	▲小學國語讀本卷十一の指導精神を把握し、教材を掲げて全課の解説指導をなす。	▲低學年の國語教育、低學年國語教育の基本課題、低學年國語教育の問題を他二章と併せて解説法をも説く。	▲小學國語讀本卷十一の全課の解説指導をなす。	▲國語の言語單位、語根、單語、言の格と法體言の全語構成其他にて國語構造を要説す。	▲改正された小學國語讀本全十二巻の體系的實踐研究で新讀本編纂の特色其他。	▲小學國語讀本十二巻の教材を全面的に説いたもので本編は文字に就いて述べ、	▲改訂された小學六學年の國語讀本の内容を新らしき教材に立脚して指導す。	▲小學國語讀本卷十二の編纂趣旨を解き、讀本各課の指導解説をなす。	▲客觀化と主觀化の心理學、ヘルバートの心理學其他にて兒童の讀方學習心理を解説す。	▲小學國語讀本卷十一の編纂趣旨及教材機構を述べ各課の解説をなす。	▲新制の小學國語讀本卷十二の編纂趣旨を述べ第十課までを指導解説をなす。	▲讀方教育上直接日頃の授業に關係する具體的問題のうち、缺く事の出来ないものを論述す。	▲讀本教材の學年的發展、學習態度の學年的考察、各學年の讀方教育に就て記述す。	▲讀方教育に於て重要な理論と實踐との媒介をなす指導過程を詳述す。	▲教壇に於ける體驗を基として小學校綴方教育を指導す。	▲海外の日本小學校二十三校の第二世兒童の綴方作品を初・中・高・補習の四部にて收む。	▲綴方教育の本質を究明し其實踐的方法に就て述べたもので指導目的の思索他三篇。	▲著者の抱ける綴方教育思想の原理篇を收めたもので綴方の常道、綴方の本體其他。	▲最近の綴方教育全般の問題を論評したもので、新綴方教育論、生活環境と綴方其他。	▲綴方教育の眞目的を研究して、實踐本位に教室本位に綴方教育を解説す。	▲下巻は十・十一・十二・一・二・三各月の作品を収めて解説及批評をなす。	▲著者が北海道石狩小學校に五年、東京矢日東小學校に三年間指導された作品を收む。	▲隨筆・小品・通信、綴り方生活、全國兒童文選の三篇を収めたもの。

教育(國語教育)

馬淵冷佑	德田進	田中豐太郎	山内才治	岩瀬法雲	鈴木七郎編	林義男	下山懸	百田宗治編	百田宗治	百田宗治	木村不二男	小砂丘忠義
綴方教育(巻十一)	綴方教育實踐問題	綴方教育の學年的發展	綴方教育の指導過程	第一義の綴方教育	海外第二世の綴方集	純正綴方教育	綴方教育の常道	綴方教育	綴方讀本	綴方讀本	綴方讀本	綴方讀本
並判	並判	並判	並判	並判	並判	並判	並判	並判	並判	並判	並判	並判
355	254	236	248	427	337	385	530	526	364	426	413	670
一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇
日黒書店	日黒書店	日黒書店	日黒書店	日黒書店	日黒書店	日黒書店	日黒書店	日黒書店	日黒書店	日黒書店	日黒書店	日黒書店
五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月
▲新制の小學國語讀本卷十二の編纂趣旨を述べ第十課までを指導解説をなす。	▲讀方教育上直接日頃の授業に關係する具體的問題のうち、缺く事の出来ないものを論述す。	▲讀本教材の學年的發展、學習態度の學年的考察、各學年の讀方教育に就て記述す。	▲讀方教育に於て重要な理論と實踐との媒介をなす指導過程を詳述す。	▲教壇に於ける體驗を基として小學校綴方教育を指導す。	▲海外の日本小學校二十三校の第二世兒童の綴方作品を初・中・高・補習の四部にて收む。	▲綴方教育の本質を究明し其實踐的方法に就て述べたもので指導目的の思索他三篇。	▲著者の抱ける綴方教育思想の原理篇を收めたもので綴方の常道、綴方の本體其他。	▲最近の綴方教育全般の問題を論評したもので、新綴方教育論、生活環境と綴方其他。	▲綴方教育の眞目的を研究して、實踐本位に教室本位に綴方教育を解説す。	▲下巻は十・十一・十二・一・二・三各月の作品を収めて解説及批評をなす。	▲著者が北海道石狩小學校に五年、東京矢日東小學校に三年間指導された作品を收む。	▲隨筆・小品・通信、綴り方生活、全國兒童文選の三篇を収めたもの。

教育(國語教育・數學教育)

竹田津 永安	竹田津 永安	小書方手本新指導書	尋常科六年上	洋政編	布入判	247	三、九〇	東洋圖書株式會社	五月	▲小學科六年上書方科の綜合解説をなし、一學期、二學期、三學期の各學期の教材を收む。三學期の教材を收む。附録として三十條一、二、三各學校に於ける書道を科學的論理的方法によつて究明し理論と指導法を述ぶ。
石橋 啓十郎	石橋 啓十郎	教育書道の理論と實際	甲種川、尋常科六年下	洋政編	布入判	270	三、九〇	東洋圖書株式會社	六月	▲書道教育に關する論稿を收めて理論的に體系づけんとしたものである。
各務 虎雄	各務 虎雄	道 教育	文部省國語監修官	洋政編	布入判	331	三、五〇	東洋圖書株式會社	六月	▲新制の小學科六年上書方科の概説をなし、一學期、二學期中頃までの教材を收む。
水島 修三	水島 修三	新編 尋常科六年上書方科の新指導書	新編	洋政編	布入判	292	三、四〇	株式會社	五月	

教育(數學教育)

池松 良雄	池松 良雄	高二新算術指導精義	東京高等師範學校教授	洋政編	布入判	543	三、五〇	明治圖書株式會社	六月	▲改正された高等小學算術書の實踐原理を説き内容各課の解説指導をなす。
武井 勇喜	武井 勇喜	高二新算術の指導	東京高等師範學校教授	洋政編	布入判	418	三、五〇	株式會社	六月	▲改正された高二新算術書の代數式、幾何圖形、總括の三篇を解説して指導す。
香取 良範	香取 良範	算術指導の原理と實踐	東京高等師範學校教授	洋政編	布入判	175	一、五〇	株式會社	七月	▲従来の算術教育に於ける形式算に對する事實算を述べたもので作問指導の目的其他。
初等教育研究會編	初等教育研究會編	算術科教授細目	初等教育研究會編	洋政編	布入判	81	四、五〇	培風館	五月	▲尋常科三學年の算術科の教授細目を一學期二學期、三學期に分けて收めたもの。
中野 恭一	中野 恭一	算術教育實踐諸問題	東京高等師範學校教授	洋政編	布入判	374	二、〇〇	培風館	五月	▲尋常科一學年、二學年、三學年、五學年、六學年の各學年の算術科の教授細目を收む。
池内 房吉	池内 房吉	算術教育の學年的發展	東京高等師範學校教授	洋政編	布入判	228	一、五〇	株式會社	八月	▲算術教育實踐上の諸問題を實行・實踐の立場から解明したものである。
佐藤 良一郎	佐藤 良一郎	算術教育の動向	東京高等師範學校教授	洋政編	布入判	225	一、五〇	株式會社	八月	▲我國及歐米各國の從來の算術教育を檢討し數學教育の根本動向を明示す。
香取 良範	香取 良範	算術指導型態の研究	東京高等師範學校教授	洋政編	布入判	220	二、〇〇	株式會社	九月	▲算術科各教材の類型に即應する指導の一般形式を理論と實際の二方面より説述す。
高木 佐加枝	高木 佐加枝	算術問題の類型と指導	東京高等師範學校教授	洋政編	布入判	182	一、五〇	株式會社	九月	▲從來の算術教育で等閑に附された問題の種類、内容を説き指導法を明示す。
山下 兼秀	山下 兼秀	算術指導の原理	東京高等師範學校教授	洋政編	布入判	324	二、五〇	株式會社	七月	▲兒童數學を再檢討し國數指導兒童數學の原理と實際を叙述す。
佐藤 武	佐藤 武	算術指導の指導演	東京高等師範學校教授	洋政編	布入判	370	一、八〇	株式會社	七月	▲算術教育に於ける形式算に對する事實算を解説したもので事實算の指導他一篇。
藤野 了祐	藤野 了祐	算術指導の指導演	東京高等師範學校教授	洋政編	布入判	501	四、三〇	株式會社	八月	▲指導者のために算術教育に於ける正式・計算法の全般を解説す。

比企 光雄	岩下 吉衛	池松 良雄	香取 良範	香取 良範	仲本 三二	高木 佐加枝	津々 美教	津々 美教	津々 美教	津々 美教	二階 源玄	山崎 源玄	東京市 算術教育
珠算式暗算指導法	小學算術教授書	新算術指導精義	新算術書の研究と指導細案	新算術書の研究と指導細案	新算術書の指導精神	新算術の指導と補充	小學算術の編纂趣旨	小學算術の編纂趣旨	小學算術の編纂趣旨	小學算術の編纂趣旨	小學算術の編纂趣旨	小學算術の編纂趣旨	新小學算術指導書
洋政菊	洋政菊	洋政菊	洋政菊	洋政菊	洋政菊	洋政菊	布政四六	布政四六	布政四六	布政四六	布政四六	布政四六	布政四六
製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判
160	400	731	469	498	330	380	235	240	236	183	378	278	278
一、五〇	一、〇〇	三、三〇	二、六〇	二、九〇	二、四〇	二、五〇	一、八〇	一、八〇	一、八〇	一、六〇	二、六〇	二、六〇	二、六〇
渡邊書店	株式會社	モナス	小學	小學	株式會社	成美堂	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社
月九	月四	月一十	月六	月二十	月四	月六	月五	月五	月五	月五	月四	月四	月五
▲珠算式暗算の指導法を述べ、尋常五學年同 六年高等科一・二學年の練習問題を収む。 ▲改正された小學四學年の算術科の半々年の 教案を掲げて實際の指導解説をなす。 ▲小學校四學年新算術書下巻の實踐原理及實 踐指導を解説す。 ▲改正された尋四算術書上巻の綜合解説をな し、各課の取扱法に就て述ぶ。 ▲教師のために尋四新算術書下巻の機構を述 べ各課の指導細案を示す。 ▲改正された尋四上の算術書の指導を述べた もので大きい數、小數、圖形と面積其他。 ▲改正された小學校四學年算術書の機構を述 べ、各課の解説指導をなす。 ▲小學校尋一學年の算術書の編纂精神を究明 し、讀本各課の取扱法を述ぶ。 ▲小學校二學年の算術讀本の編纂趣旨を把握 せしめ、其取扱法に就き説く。 ▲小學三學年算術書の編纂趣旨・教授法に就 て述べたもので小學算術の本質其他。 ▲小學校四學年算術書の編纂精神を述べ、實 際の取扱法を説く。 ▲尋常四學年の算術を兒童生活に結びつけて 指導することを眼目として述ぶ。 ▲尋常小學校に於ける算術の重要性及一般を 解説し、各學年の教材配當表を附す。													

理科教育

中山 野本 恭孫	中山 野本 恭孫	中山 野本 恭孫	佐藤 武	佐藤 武	佐藤 武	佐藤 武	萩原 義雄	關根 忠	池松 良雄	榊原 孫太郎	仲本 善三	仲本 善三	中山 野本 恭孫	中山 野本 恭孫	中山 野本 恭孫
新定小學算術模範指導書	新定小學算術模範指導書	新定小學算術模範指導書	算術教育實踐講座(5)	算術教育實踐講座(6)	算術教育實踐講座(7)	算術教育實踐講座(8)	算術教育實踐講座(9)	算術教育實踐講座(10)	尋四新算術指導精義	新算術の尋四實踐珠算	尋三算術實踐細目	尋三算術實踐細目	新定小學算術模範指導書	新定小學算術模範指導書	新定小學算術模範指導書
洋政菊	洋政菊	洋政菊	布政四六	布政四六	布政四六	布政四六	布政四六	洋政菊	布政四六	布政四六	布政四六	布政四六	布政四六	布政四六	布政四六
製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判	製判
299	499	483	147	147	147	147	147	147	711	346	607	192	223	197	182
二、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
目黒書店	目黒書店	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社	株式會社
月五	月二十	月六	月三	月三	月三	月三	月三	月三	月五	月一十	月二十	月二十	月五	月九	月八
▲尋四學年の算術書の教材機構、指導上の要 論を述べ四月より十月までの教材を収む。 ▲新定された小學校四學年算術書の日日の 教案を収めて指導なしたるもの。 ▲高等科二學年の算術科の指導要項を述べ、 各課の解説・取扱に及ぶ。 ▲教案を兼用し日案式にせる尋三算術書の實 踐細目。 ▲今回改正制定せられた小學四學年の珠算の 解説指導法を説述す。 ▲改正の尋四學年算術書の實踐原理を明かに して教材を掲げて指導解説をなす。 ▲數理思想の問題、興味、數理の内容、生活 的態度に就て叙述す。 ▲本年度より小學校に於いて必須科目となつ た珠算の心理學を解剖す。 ▲第八巻は代數の指導、幾何の指導の二篇を 収めて解説す。 ▲度量衡の指導、其他の測定教材の指導の二 篇にて度量衡指導の理論と實際を説く。 ▲比例の指導、歩合算の指導、倍數・約數の 三章にて説述す。 ▲分數の指導、小數の指導の二篇にて理論と 實際の兩方面より解く。															

教育(地理教育・圖畫・手工教育)

高橋 勝	榎本 昌一	高橋 勝	佐藤 保太郎	尾野 作次郎	山本 幸雄
高等小學修正地理書解説	東京省地理調査報告 榎本中心小學校地理教授指針 第五・六年生分冊	改正小學地理書解説	地理教育原論	地理教育新講	地理教授原論
洋商六 布八判	洋商六 布八判	洋商四 布八判	布商六 裝八判	布商六 裝八判	洋商六 布八判
602	309	477	696	280	177
二、六〇	二、〇〇	二、九〇	五、八〇	三、〇〇	二、〇〇
明治圖書株式會社	富山房	明治圖書株式會社	賢文館	東洋圖書株式會社	中文館
月六	月四	月四	月十	月八	月五
▲高等一學年の地理書の教材を教師用に解説し、指導法を述べ。 ▲小學校五、六年の地理を區域、地勢、産業交通、都邑等に分けて圖を挿入して説明す。 ▲改正された尋五地理書の概説を述べ、各地方に分けて指導細案を掲ぐ。 ▲體験を基礎にして地理教育全般の理論を講述したもので地理學と地理科他十五章。 ▲最近の地理教育の動向、地理的環境論、郷土地理の取扱他九篇にて説述す。 ▲歐米及我國に於ける地理學の歴史を究明し以て其の本質を明かにして教授法を説く。					

教育(家事・裁縫・手藝教育・體育・遊戯)

松尾 まきた	成田 順	木下 竹次	齊田 コト	高橋 イネ子	常見 育男	佐々木 由子
日本精神を現代家事教育の基調とせる裁縫科教授法	裁縫科教授法	裁縫學習法の建設	小學校に於ける手藝教材並にその指導法の研究	新裁縫教授法	日本家事教育發達史	私の裁縫教育
洋商六 布八判	洋商六 布八判	洋商六 布八判	洋商六 布八判	洋商六 布八判	洋商六 布八判	洋商六 布八判
336	198	630	338	284	196	380
三、五〇	二、〇〇	四、五〇	二、〇〇	二、三〇	一、〇〇	三、八〇
東洋圖書株式會社	大成書院	育英書院	啓文社	文書堂	創文社	賢文館
月六	月十	月五	月三	月一十	月九	月一十
▲現在女學校に於ける家事科を檢討し、新時代に立脚せる家事教育の理論と實際を説く。 ▲東京女高師にて講義せる裁縫科の教材を主として一般裁縫科の教法を指導説く。 ▲現在の學習時間によつてより多くの効果をあげる事が出来るか、現行の裁縫科を檢討すにその實際上の取扱を説述す。 ▲従来の教授法を檢討し材料を整理して新しい立場にある新裁縫の指導法を説く。 ▲明治初頭に於ける女子教育の勃興と家事教育の發生より現代に至る迄の發達を述べ。 ▲日本の女性として知らねばならぬ裁縫の要領を述べ各種の作製指導をす。						

教育(體育・遊戯・唱歌・舞踊)

川口 池田 吉雄	久本 彌吉	徳島 富田 校	大谷 武一	柔道教授研究会編	研究社 體育部編	北井 柳太郎	齊藤 山理男	宮田 覺造	石島 井田 豊	
小學校體操科教程	全學年用 小學校體操指導要領	改正唱歌・行進遊戯の實際	新教育體操	文部省 新制柔道教範	小學校常體操科教材配當	全時局即應 體操研究會の新指標	體操 汎論	跳躍運動	唱 歌 舞 踊	
洋布 158	洋布 265	洋布 212	洋布 460	洋布 154	洋布 132	洋布 286	洋布 179	洋布 225	洋布 283	
一、二〇	一、三〇	二、〇〇	三、五〇	四、〇〇	九、〇〇	一、五〇	二、〇〇	二、四〇	三、〇〇	
目黒書店	三友社	目黒書店	目黒書店	盛林堂	教文社	目黒書店	中央O.D	東洋圖書株式會社	共益商社	
四月	五月	九月	一月	五月	六月	十月	五月	二月	十一月	
▲小學三年生の體操科を綜合解説し、教材を掲げて指導の實際を説く。	▲新要目の體操機構を概説し小學校、高等科の各學年に教材を掲げて指導を説く。	▲改正された小學校唱歌・行進遊戯の基本動作を述べ各學年の種目を収めて解説す。	▲體操の歴史、教育體操の指導理論、運動の實際を研究叙す。	▲中等學校青年學校の教科書を目的に文部省新要目に準據して解説せる柔道教範。	▲尋常小學校各學年各學期の體操科の教材を収めて指導す。	▲體験を基として新らしき時代に處する、體操研究會の理論と實際を説く。	▲寫眞を多數挿入して圖解し、テンマーク體操の理論と指導法を説く。	▲學校體操教授要目の材料を中心に跳躍運動の組織を明かにし系統を論じ批判をなす。	▲日本精神涵養の目的から國史上に現れた勳卓傑士を描いた學校舞踊を収む。	▲教育研究誌上に發表した音樂教育に關する小論文を纏めたもの。

教育(唱歌・舞踊・學校劇・學藝會)

山下 兼秀	須藤 克三	長谷山 峻彦	小出 浩平	日本兒童協會編	竹越 和夫	齋田 喬	齋田 喬	齋田 喬	日本學校劇聯盟編	山内 千代子
兒童劇 エデンの園	兒童學校劇 珠玉集	小學會用 軍國美談劇集	兒童劇 童劇	兒童劇 脚本集	兒童劇脚本と演出指導	兒童劇 選集	兒童劇 選集	兒童劇 選集	日本學校劇集	リトミツクの授け方
洋布 154	洋布 264	洋布 177	洋布 90	洋布 77	洋布 61	洋布 345	洋布 370	洋布 439	洋布 436	洋布 66
一、八〇	一、五〇	二、〇〇	六、五〇	一、〇〇	七、〇〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	三、〇〇	七、〇〇
新出版教育	三成社	大正書院	三友社	シンフォニー社	シンフォニー社	啓文社	啓文社	啓文社	教文社	シンフォニー社
七月	二月	一月	二月	四月	六月	十一月	十一月	十一月	三月	十一月
▲桃太郎(二幕)お賢者ごっこ(一幕)エデンの園(三幕)他五篇の兒童劇を収む。	▲防空演習、遠めがね、強、弱、虫干し、出征兵の途つ朝他十五篇の學校劇集。	▲小學校の低、中、高學年用の軍國美談劇を収む。	▲日本人、二人一脚、龍宮城の會議、戦争ごっこ、わしの裁判、楠公父子の六篇を収む。	▲兒童劇集であると同時に演出臺本ともなる様説ける書で、寶さがし他七篇を収む。	▲獨逸にて好評を博した少年探偵團を収めて實際に上演出来るやう演出指導す。	▲小學校低學年に於ける兒童劇二十三篇を収めたもので三匹の兎、名前其他。	▲小學校中學年程度の學校劇二十一篇を収めたもので鐵道開通、わたり鳥其他。	▲小學校高學年用の兒童劇二十一篇を収めたものでお地蔵さんは知つてゐるか其他。	▲西原康氏の「釣り」一幕、佐藤富雄氏の「小さい傳令使」一幕他廿一篇及び論説を収む。	▲小學校の學藝會運動會に於ける基礎的なりトミツクに就て指導をなす。

教育 (學校園・學校衛生・家庭教育・幼稚園教育)

三一三

學校園・學校衛生

草野 徳治	學校園藝十二月月	洋紙編 布入判 477	三、八〇 一、四〇	啓文社	三月	▲小學校に於て學習園を如何に經營するかに就き教材植物栽培上から經營法を明かにすに▲児童の健康生活訓練法を記述し、著者の經營せる學校健康道實踐記録を収む。
木村 貞雄	健康教育の實踐	洋紙編 布入判 342	二、五〇 一、〇〇	創文社	九月	▲國家的全體性に立脚せる新學校衛生に就て述べたもので新學校衛生と全體性の考察其他
大西 永次郎	全體性と新學校衛生	洋紙編 布入判 144	一、〇〇 一、〇〇	右文館	九月	

家庭教育・幼稚園教育

厚生閣編輯所編	一二年母と教育問答	上 四六判 製入判 328	一、五〇 一、四〇	厚生閣	二月	▲修身、國語、算術其他一二年の各教科を夫の教科の權威者の先生が説明す。
長澤 末次郎	子供の生活と家庭教育	洋紙編 布入判 254	二、〇〇 一、〇〇	目黒書店	四月	▲子供の生活に於ける家庭教育の重要性を説き家庭に於ける教育の實際を述べ。
厚生閣編輯所編	五六年母と教育問答	上 四六判 製入判 286	一、五〇 一、四〇	厚生閣	二月	▲五六年の各教科を夫々の先生が説いた書で修身(野瀬寛顯)國語(田中豊太郎)其他。
厚生閣編輯所編	三四年母と教育問答	上 四六判 製入判 261	一、五〇 一、四〇	厚生閣	二月	▲三四年の各教科を夫々の權威者の先生が説明したもので、修身(野瀬寛顯)其他。
厚生閣編輯所編	受驗準備 母と教育問答	上 四六判 製入判 298	一、五〇 一、四〇	厚生閣	二月	▲受驗生を持つ父兄に對し小學校、中學校の先生が受驗に就ての有効適切な意見を述べ。
上村 哲彌	生命を育むもの	布紙編 製入判 444	二、三〇 一、四〇	再教育協會	六月	▲最近四五年來著者の兩親教育に關する思索を凝めたもので兩親教育と家庭教育其他。
厚生閣編輯所編	入學前母と教育問答	布紙編 製入判 286	一、五〇 一、四〇	厚生閣	二月	▲幼児の心理、養育、保健、幼稚園、メンタル・アスト等入學前の幼稚園教育を説明す。
上村 哲彌	再教育協會	布紙編 製入判 255	一、五〇 一、四〇	再教育協會	二月	▲家庭制度家庭及び兒童教育、教育機關と、家庭に關する其他の諸問題を説述す。

改訂増補普及版

昇メレジュニコーフスキイ著
曙夢 譯

トルストイとドストエーフスキイ
(その生涯と藝術)

四六判五六〇頁・フランス装函入美本
定價金一圓六十錢・送料金十四錢

第一等の書 宇野浩二

作品だけで視しんで此の二大文豪の「生涯と藝術」に就いて書かれた此のメレジュニコーフスキイの評論を讀んだ時の感激は、今でも忘れることが出来ない。それは、私がその後讀んだ如何なるトルストイやドストエーフスキイの評論よりも私の頭に残つてゐる。言ひ換へると、トルストイとドストエーフスキイの一人と藝術を論じた幾つかの私の讀んだ評論の中で、このメレジュニコーフスキイ評論は、或る意味で第一等に位すると思ふ。(以下略)

やはり光つてゐる 小林秀雄

耶蘇

四三六頁判
定價一・五〇

ルナン著・廣瀬哲士譯 普及版出来!

「ルナンの耶蘇以上に最早耶蘇傳を書く餘地なし」とは、多くの批評家の間に一致した言葉である。佛文學中、最大の名文を以て知らるる原書の直接譯。

使徒

四五六頁判
定價二・八〇

ルナンの「耶蘇」は世界に於ける最も美しい傳記の一つであるが、その後を受けた本書は、イエス昇天後パウロの大傳道に至るまでの十二使徒の生活を麗しい筆で綴つたもの。「耶蘇」の續篇である。

ドストエーフスキイに關する外國の研究書は、僕の語學の中心をかきりひろい讀んでみた。メレジュニコーフスキイの「トルストイとドストエーフスキイ」も昔讀んだので最近讀み返してみた。そして、やはりこの論文は光つてゐると思つた。ことにトルストイの分析は鮮かであると思つた。

東京 町下 東九
東京 東七 振二
東京 〇七 堂京東

優等書

松根は著

還曆記念出版

世人芭蕉の偉大を語つて俳人却て述作に芭蕉を遺る。茲に芭蕉に添うて俳諧本道を奮進するもの「澁柿」なり。東洋城先生其機關誌「澁柿」に毎號其體驗に基く含蓄ある訓言を垂れ、門下之を巻頭語と呼び愛誦し且服膺す。本書實に其集大成にて、大正四年「澁柿」創刊以來滿二十三年間の輯録なり。則ち本書は俳諧道の最高指針と謂ふべく、俳諧學徒必修の經典たるは勿論、又非常時下の日本國民の精神鍛鍊上何人にも至高至深の必讀書たり。こゝに人間本來の相を知りその眞の相に立ちて意義深き人生を遂ぐるの資に供せられんことを。

「どこかの本屋さん曰く「此本は廉い、これは定價五圓でも高くない」

書店よりの御注文は
岩波書店
東京市品川區上大崎一丁目四七〇

（振替東京）澁柿社
（三井四三三）

〔ヨ看ヲ頁九四二〕

菊版絹綉裝幀極美
箱附三百三十餘頁
定價冊 金參圓
送料（内地）二十錢
（樽、郵）三十錢

四、文學

文學一般・文藝評論

著者	書名	裝形	訂價	巻頁	送料	發行所	日付	内容大意
和田篤憲	郷土の思想	並四六製	一、五〇	300	〇	日本公論社	五月十日	▲郷土に滲透せる日本精神の發露たる郷土愛と庶民教育とを基に述べたもの。 ▲藝術の思想、文藝批評の危機、ロレンスのこと、雨と雪、冬の風景其の他評論を收む。
伊藤整	藝術の思想	並四六製	一、五〇	253	〇	砂子屋書房	五月十日	▲川端康成論、横光利一論序説、秋聲の藝術、尾崎一雄論、「沃土」の作者其他。
淺見淵	現代作家論	並四六製	一、五〇	120	〇	赤塚書房	七月十日	▲最近十年間の文學思潮を敘述したもので最近の文藝思潮變遷の要點他九景。
板垣直子	現代小説論	上四六製	一、五〇	280	〇	第一書房	七月七日	▲問題史的考察、現代作家作品論の二篇にて現代文學を敘す。
横木枝	現代文學研究序説	洋綴布入判	一、五〇	450	〇	東洋圖書株式會社	七月七日	▲四年間に亘る獄中生活記録で耳語懺悔、因敵、獨房日記の三篇。
山田清三郎	語懺悔	上四六製	一、五〇	317	〇	六藝社	十月十日	▲児童と文學とを關聯せしめた幾多の評論を收めたもので綴方の中の子供其他。
坪田讓治	児童文學論	上四六製	一、五〇	273	〇	日月書院	九月十日	▲時代と運命、戦ひに於ける美の擁護者、明治の浪漫派其他の評論及從軍記を收む。
淺野晃	現代と運命	並四六製	一、五〇	302	〇	白水社	十二月二十日	

文學（文學一般・文藝評論）

古谷	網武純情の精神	上四六	製入判	348	一、二〇〇	砂子屋書房	月一十	▲純情の精神、純粹性と通俗性、純文學の萎縮、會話のリアリティ其他の文藝評論集。
谷川	徹三神話と科學	布四六	製入判	363	一、一八〇	河出書房	月三	▲如何に生きるべきか、映畫の内容、槍騎兵神話と科學其他の評論を収む。
波多野	完治創作心理學	上四六	製入判	470	三、一八〇	巖松堂	月九	▲創作心理學を科學的に研究したもので文章と將棋の創作心理、作家の創作心理の二篇。
保田	與重郎戴冠詩人の御一人者	上四六	製入判	352	一、一八〇	東京堂	月九	▲戴冠詩人の御一人者、大津皇子の像、白鳳天平の精神他十篇を収めた文藝評論集。
後藤	末雄東西の文化流通	洋四六	布入判	371	三、一八〇	第一書房	月九	▲東西の文化を比較對照して其文化交流の綜合的把握をなす。
北山	隆夏目漱石の精神分析	上四六	製入判	286	二、〇〇〇	岡倉書房	月十	▲明治の大文豪夏目漱石の精神分析をなしたもので不可思議なる文學他五篇。
谷川	徹三日本人のこころ	上四六	製入判	412	二、〇〇〇	岩波書店	月十	▲日本人のこころ、再説日本人のこころ、覺書、民族と傳統との問題其他の評論集。
岡倉	天心日本の覺醒	上四六	製入判	231	一、〇〇〇	聖文閣	月九	▲日本の覺醒を正しく正確に把握した天心の日本、永遠への思ひ其他の評論を収む。
中河	與一日本への回帰	並四六	製入判	291	一、〇〇〇	白水社	月六	▲萬葉の神々とギリシヤ、ドイツへの關心その他、永遠への思ひ其他の評論を収む。
萩原	朝太郎日本への回帰	並四六	布入判	333	一、一五〇	白水社	月三	▲日本への回帰、日本の軍人、秋宵記、我が故郷を語る其他を収めた評論、隨筆集。
伊豆	公夫批評精神	並四六	製入判	348	一、一五〇	白揚社	月四	▲一九三六・七年の間に書いた藝術評論を集めたもので一般的藝術理論に關するもの其他
杜	牧雄現代表現の研究	並四六	製入判	127	六〇〇	出版華社	月二十	▲如何に表現すべきか現代作家の實例を収めたもので「房」利一・直・成古其他。
小林	秀雄文學批評	上四六	製入判	271	一、〇〇〇	創元社	月二十	▲文學批評の行方、文學者の思想と當世生活、戰爭について、菊池寛論其他の文藝評論集。

光	葉會編文學遺跡	並四六	製入判	274	一、一五〇	光葉會	月十	▲名著を出し不朽の作品を遺した學者文豪を生んだ郷土・家庭・環境等を探究したもので
古	谷綱武文學紀行	並四六	製入判	292	一、〇〇〇	竹村書房	月一	▲批評について、岸田國士氏と小説、雜誌帖年節の額其他の評論及び感想を収む。
本	間久雄文學碑記	布四六	製入判	283	二、〇〇〇	人文書院	月五	▲批評といふもの、再檢討時代、古典研究、萬葉の現實味其他のエッセイを収む。
新	明正道文化の課題	脊四六	布入判	286	一、〇〇〇	河出書房	月二	▲知識人の性格、科學と文學、文化の課題に大別して二十六篇の評論を収む。
谷	崎精二文學の諸問題	上四六	製入判	208	一、〇〇〇	日月書院	月二	▲文藝評論や感想を纏めたもので、純粹小説の問題、文學の一方、文學と時代其他。
三	枝博音文學のフイジカとメタフイジカ	洋四六	布入判	357	一、一八〇	河出書房	月三	▲文學の自然と反自然、日本の文學、文學と構想力、文學の諸問題に就て叙述す。
正	宗白鳥文壇的自敘傳	上四六	製入判	278	一、一八〇	中央公論社	月二十	▲文壇的自敘傳、獨り合點、河上博士のこと久米正雄論、西園寺公の心境他四篇。
野	上豊一郎翻譯論	洋四六	布入判	236	一、〇〇〇	岩波書店	月一	▲翻譯の理論、翻譯の態度、日本文學の翻譯論曲の翻譯に就て論述す。
柳	田國男昔話と文學	上四六	製入判	342	一、一三〇	創元社	月二十	▲昔話の正しい知識を説いて我國の昔話を収めて研究をなしたもので。
星	野天知歩七十年	上四六	製入判	412	二、一五〇	聖文閣	月十	▲自己の一生を問答體にて敘したもので生家と一族、幼年時期、青年時期其他。
有	海久門現れたる英詩の研究	洋四六	布入判	292	二、一五〇	有朋堂	月一十	▲中等學校英語讀本に現れる英詩の取扱方を中心に藝術的・文學的に英詩を研究す。
熊	澤復六譯戲曲の本質	並四六	製入判	237	一、〇〇〇	清和書店	月一	▲文藝百科全書のドラマの項を譯出したもので、戲曲論及戲曲史の入門書。

木村 謹治	ゲ	1	テ	洋 菊	499	三、〇〇	弘文堂	月二十	▲ゲイテに關する諸論講を纏めたもので「若きゲイテ」素描、ゲイテと東方思想他十五篇までの分を収む。
エツカールマン著	ゲ	1	テ	洋 菊	539	三、三〇	改造社	月一	▲下巻は千八百二十二年より千八百三十二年までの分を収む。
神保光太郎著	ゲ	1	テ	洋 菊	287	一、五〇	三笠書房	月三	▲佛文學の流れを究明しそれから凝集した作家を吟味し世界の作家が與へた感化を検出す
羅波イ・レイノオ著	現	代	文	上 新	332	一、三〇	創元社	月二十	▲ロシヤ寫實主義文學の父と呼ばれる「ゴオリ」の評傳をなす。
宇野 浩二	自	然	文	上 新	233	一、〇〇	興文社	月四	▲題材を主として英詩に採りそれに現れた種
野津 文雄	自	然	文	上 新	310	一、二〇	創元社	月二十	▲知性、理想、歴史、音楽、風俗、社會理論、其他社會全般を批評したものゝを譯述す。
ハクスレイ著	思	想	の	上 新	278	一、八〇	育生社	月十	▲探偵小説の本質、歴史、技巧等に全面的な考察をなしたフオスカの著を邦譯す。
西村 孝次	探	偵	小	上 新	286	一、五〇	河出書房	月九	▲カザノグアとスタンダールの生き方の問題を幸福哲學のメスで別決した書。
長崎 八郎	知	性	と	上 新	125	一、〇〇	有朋堂	月二	▲ナチス演劇の動向(新關良三) 現代獨逸文學雜録(古川尙雄) 其他。
青柳 瑞穂	知	性	と	上 新	127	一、〇〇	有朋堂	月五	▲クライストに於ける近代性(秋山六郎兵衛) グイルヘルム・テル(米原穰) 他七篇。
東京帝國大學	獨	逸	文	上 新	126	一、〇〇	有朋堂	月九	▲シラーの遺作「デメトリウス」の作意に關する一考察(野上巖) 他十一篇。
東京帝國大學	獨	逸	文	上 新	180	一、五〇	平原社	月五	▲人間生活上のあらゆる諸問題に關するフロオベールの觀察を斷片的に集録したもの。
東京帝國大學	獨	逸	文	上 新	342	一、五〇	白木社	月六	▲アンリ・モニエの場合、本郷に現れたクロ
向田 悌介	フ	ロ	オ	上 新	287	一、五〇	白木社	月六	▲アンリ・モニエの場合、本郷に現れたクロ
波邊 一夫	フ	ロ	オ	上 新	287	一、五〇	白木社	月六	▲アンリ・モニエの場合、本郷に現れたクロ

石川 孟	文	學	的	散	歩	287	一、三〇	春秋社	月一	▲ゲイテの文學的散歩の中心から二三篇を選び譯す。
堀口 大	文	學	論	論	論	309	一、八〇	第一書房	月七	▲ボオム・ヴァレリの詩論及び文學論の全貌を収めたもの。
熊澤 復六	リ	ア	リ	ズ	ム	177	九〇	清和書店	月三	▲バルムの僧院に對するバルザックの批判とスタンダールの反駁とルカウツの解説を収む
宮田 戊子	一	茶	の	精	神	353	三、五〇	岡倉書房	月六	▲一茶の生涯、思想より觀たる一茶、作品から觀た一茶の三篇にて一茶を分析す。
大槻 憲二	宇	津	保	物	語	298	三、〇〇	至文堂	月五	▲平安朝文學に於て重要な宇津保物語の研究で文化の自叙傳としての宇津保物語其他。
富澤 美穂子	宇	津	保	物	語	278	一、四〇	新潮社	月三	▲放送講話「奥の細道の心」と「奥の細道を語る」を収めたもの。
藤原 井泉水	語	奥	の	細	道	398	二、五〇	人文書院	月二十	▲一般人教養の書として明治文學の略輪郭を描いた諸論文を纏めたもの。
鹽田 良平	概	観	明	治	文	503	四、五〇	中文館	月五	▲鎌倉時代の初等に當り我國文學上に不滅の業績を残した鴨長明に就ての研究。
兼瀨 一雄	鴨	長	明	の	新	217	一、〇〇	倭書院	月六	▲其角(作家の道) 栗山理一、物語の形成、和泉式部日記を中心として、清水文雄他二篇。
日本文學の會編	古	典	新	生	263	一、二〇	中文館	月二	▲古事記偽書説を駁す(倉野忠司) 古典教育の基礎理念(眞川淳) 其他。	
廣島文理科大学	國	文	學	新	生	273	一、五〇	中文館	月九	▲構成を中心として見た「本朝醉菩提」(鈴木敏也) 他十一篇の論講を収む。
國語學會編	國	文	學	新	生	319	二、五〇	三省堂	月二十	▲支那經學文學に關する概觀的著述を系統的に收めたもので先秦時代の學術其他。
長澤 規矩也	支	那	學	術	文	319	二、五〇	三省堂	月二十	▲支那經學文學に關する概觀的著述を系統的に收めたもので先秦時代の學術其他。

文學(國文學研究)

岩城準太郎	齋藤清衛	後藤丹治	福井久藏	高木武	菊池寛	山元都星	板垣市藏	藤田徳太郎	久松潜一	大場俊助	内念先生	志田義秀
新修日本文学史	精神美としての日本文学	太平記の研究	戸澤正合侯と其著作	日本精神と日本文学	日本文学案内	日本文学史	日本文学新抄	日本文学の精神と研究史	日本文学評論史	日本文学様式論史	日本文学論攷	日本文学論攷
洋装	洋装	洋装	洋装	洋装	洋装	洋装	洋装	洋装	洋装	洋装	洋装	洋装
布八判	布八判	布八判	布八判	布八判	布八判	布八判	布八判	布八判	布八判	布八判	布八判	布八判
338	353	548	644	540	357	371	391	320	687	500	641	289
三、〇〇	三、五〇	四、五〇	六、〇〇	三、〇〇	一、六〇	二、〇〇	一、五〇	二、五〇	六、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	二、五〇
目黒書店	人文書院	河出書房	厚生閣	富山房	モダニ	白揚社	明治書院	玄海書房	至文堂	啓文社	文藝社	河出書房
月六	月十	月八	月七	月五	月一	月九	月四	月九	月二	月十	月一	月十
▲國文學を鳥瞰し其史的展開を叙述したもので、原始國文學、國文學の文化其他。	▲二三年來に亘つて發表した日本文學研究の論文を纏めたもので國民的文學其他。	▲歴史・文學の兩方面に及ぶ太平記四十卷の概略を述べ、實證的研究をなす。	▲東北新庄藩主戸澤能登守正合侯の生涯を敘述し、其著作を網羅して解説す。	▲雑誌、講座等に發表した日本精神、日本文學に關する二十篇の論文を収む。	▲上代より現代までの日本文學の全般に亘つて説き、小説と戯曲の關係をも述べ。	▲第一卷は中央集權的封建社會と稱されてゐる奈良時代から平安時代の終り迄を収む。	▲各時代の代表的な作品に觸れしめる事を目的として述べたもので古事記、萬葉集其他。	▲古典精神、俳句精神、研究精神の三篇にて日本古典文學の精神を説述す。	▲日本文學評論の意義と位置、日本文學思潮及評論の展開他七章。	▲日本文學に於ける様式に關する研究で體系的構成、様式現象論、様式性格論他二篇。	▲言語形象學の成立(飛田峯)變字法に就いて(高木市之助)其他の論文收載。	▲大學にて講義せしものに加筆増訂したもので、戦前時代、戦後時代、戦時時代其他九篇。

文學(國文學研究)

石田元季	福井久藏撰輯	福井久藏撰輯	明治文學研究会編	佐伯梅友	萬葉三水合編	井上通泰	川田順	野村八良	柳田泉	柳田泉	岡野他家夫	鹽田良平
俳文學考	幕朝年中行事歌合註	幕朝年中行事歌合註	正岡子規	萬葉語研究	萬葉集研究年報	萬葉集	室町時代小説論	室町時代小説論	明治文學	明治文學	明治文學研究誌	山田美妙研究
洋装	洋装	洋装	洋装	洋装	洋装	洋装	洋装	洋装	洋装	洋装	洋装	洋装
布八判	布八判	布八判	布八判	布八判	布八判	布八判	布八判	布八判	布八判	布八判	布八判	布八判
755	94	170	326	322	176	358	285	545	666	540	488	561
六、〇〇	一、三〇	一、五〇	一、四〇	二、八〇	二、三〇	二、五〇	一、五〇	四、八〇	二、八〇	二、〇〇	四、〇〇	三、〇〇
至文堂	厚生閣	厚生閣	大都書房	文藝社	岩波書店	岩波書店	第一書房	巖松堂	春秋社	春秋社	武蔵野書院	人文書院
月二	月一	月一	月十	月十	月二十	月三	月七	月六	月八	月八	月二十	月五
▲韻へられた文藝、蕉風とその流移芭蕉の紀行文、俳文概説其他より成る。	▲江戸城に於ける恒例臨時の行事を北村季吟が百首の歌に詠み、儀禮の歌を二首宛組合す。	▲黒田樂善侯の本草啓蒙補遺の動物篇と植物篇を収む。	▲明治の俳聖正岡子規の代表的作品を抜萃蒐集して解説し小傳・年表をも収む。	▲萬葉集の歌の語法や調釋に關する研究を集めたもので萬葉集の助詞二種他二十一篇。	▲昨年中に刊行せられた萬葉集に關係ある論文・講演・彙報等を蒐録せるもの。	▲昭和七年七月から十二年十月までの萬葉集に關する著作を纏めたもの。	▲南朝の柱石宗良親王の御事歴を敘述し、後編にて親王の御歌を究む。	▲室町時代の小説研究法を述べ、代表的作品を網羅して分析解剖す。	▲嘗て發表せし明治文學に關する隨筆を集めたもので政治篇、文學篇、人物篇其他。	▲續篇に研究篇、人物篇の二篇に分け收めたもので政治小説研究、山田美妙其他。	▲初學者向に明治文學研究の出發に於ける基礎的事項を解説したもの。	▲傳記篇、文學篇の二篇にて明治の文豪山田美妙齋の一生及其業績を敘述す。

川田 順	吉野朝の悲歌	布四六 裝入判	289	一、五〇〇	第一書房	二月	▲吉野朝に仕えた公卿と武臣の和歌を掲げ解説せるもの。
相馬 御風	良寛と貞心	上四六 裝入判	302	一、七〇〇	六藝社	七月	▲良寛と最愛弟子の貞心の生涯、交遊を敘し、書き遺した文獻歌集を収む。
藤田 徳太郎	和歌史論	洋四六 布八判	336	二、五〇〇	アルス	七月	▲嘗て雑誌、講座等に發表したものを纏めたもので和歌史の思潮、撰集と歌集其他。

國文學校訂・註釋

吉村 重徳校註	一の谷鐵軍記	洋四六 布八判	420	二、三〇〇	大同館	六月	▲妹背山婦庭女訓、伊賀越道中雙六、一の谷鐵軍記、の三篇を収めて註釋を施す。
吉村 重徳校註	假名手本忠臣藏	洋四六 布八判	432	二、四〇〇	大同館	六月	▲假名手本忠臣藏、義經千本櫻、菅原傳授手習鑑の三淨瑠璃芝居を校註す。
世良 亮一	懷風藻詳釋	洋四六 布八判	191	一、五〇〇	教育出版社	六月	▲漢詩として我國始めての集でもあり國文學に深い關係のある懷風藻を釋す。
小泉 夢三	志新勳王詩歌評釋	洋四六 布八判	332	二、〇〇〇	出版部	六月	▲明治維新勳王志士百二十二人の詩歌を撰んで之に評釋を加へ、作者の略傳を添ふ。
與謝野 品子	新新譯源氏物語	上四六 裝入判	519	特三、三〇〇	金尾文淵堂	十月	▲桐壺、帶木、空蟬、夕顔、若紫、末摘花、紅葉賀、花宴、葵迄を収めて解説す。
與謝野 品子	新新譯源氏物語	上四六 裝入判	481	特三、〇〇〇	金尾文淵堂	十月	▲第二巻は神、花散里、須磨、明石、落葉、蓬生、關屋、繪合其他を収めて解説す。
與謝野 品子	新新譯源氏物語	上四六 裝入判	527	特三、〇〇〇	金尾文淵堂	十月	▲第三巻は乙女、玉鬘、初音、胡蝶、雲、常夏、篝火、野分、行幸其他を収む。
遠藤 興資	正氣歌新釋	洋四六 布八判	275	二、〇〇〇	大同館	九月	▲國民精神の眞髓であり日本民族發達の貫眼である正氣歌を平易に解釋せしもの。
橋 純一	草通釋	洋四六 布八判	200	一、〇〇〇	瑞穂書院	九月	▲徒然草の序につれられたる草通、二巻より第八十五回「人心すなはたむらさき」迄を校註す。

橋 純一	正つれく草通釋	洋四六 布八判	252	一、〇〇〇	瑞穂書院	二月	▲中巻は第八十六段從權中納言より第六十段までを収めて釋す。
徳本 正俊	最新徒然草詳解	洋四六 布八判	955	二、五〇〇	芳文堂	三月	▲口譯、語釋を附し徒然草を新らしく解き巻末に語句索引を掲載す。
佐佐木 信綱補著	口譯土佐日記	洋四六 布八判	173	一、〇〇〇	人文書院	三月	▲明治十七年九月梓行された土佐日記假言解を修補したもの。
白田 甚五郎	古典文學叢書 土佐日記の鑑賞	上四六 裝入判	198	一、〇〇〇	興文閣	三月	▲紀貫之の「土佐日記」を學生のために判り易く解釋したもの。
大同館校訂	新石讀史餘論	洋四六 布八判	394	二、〇〇〇	大同館	三月	▲新井白石が殿中に於て古今大勢の變遷を講述した「讀史餘論」を校訂せるもの。
坂口 利夫	日本外史論文詳解	洋四六 布八判	311	一、五〇〇	大同館	三月	▲日本外史全二十二巻中より論文のみを盡く抜萃して詳解をなしたもの。
飯田 季治	日本書紀新講	洋四六 布八判	673	三、三〇〇	明文社	五月	▲日本書紀全三十巻中の重要な部分を抜萃して調み方、解釋を施したものの。
萩原 井泉水	芭蕉讀本	布四六 裝入判	324	一、八〇〇	日本評論社	八月	▲芭蕉の紀行、俳句、連句中から代表的なものを選んで註釋を施したもの。
佐々木 八郎	平家物語講説	洋四六 布八判	510	四、〇〇〇	三省堂	五月	▲平家物語中の著名な章、五十章を撰び、種の點より考察し、解説と鑑賞批評す。
永田 義直	方丈記新講	洋四六 布八判	118	一、三〇〇	大同館	三月	▲方丈記の原文を通釋、要旨、語釋、參考の四項目に分けて講述す。
佐成 謙太郎	増鏡通釋	布四六 裝入判	790	六、〇〇〇	星野書店	三月	▲大鏡と共に歴史物語の雙璧と稱へられる「増鏡」を語釋・口譯なしたものの。
齋藤 茂吉	萬葉秀歌	並三六 裝入判	259	五、〇〇〇	岩波書店	十一月	▲萬葉集巻一より巻七中から秀歌百七十首を撰出して簡単な評釋を施したもの。

大澤章丘の書	内田百間の橋	正宗白鳥の思ひ出すまゝに	三宅雄二郎の面白くならう	浦本新潮の科學と文化	八幡關太郎撰の畫禪室隨筆	高田保馬の回想記	中川一政の隨筆集	三好學の學軒集	宮島幹之助の蝸牛の角	吳文炳の楓	岸田日出の壁	米山壽吉の看雲
上四六 製入判	上四六 製入判	布四六 製入判	布四六 製入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	上四六 製入判	洋四六 布入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判	上四六 製入判
345	363	257	443	311	574	248	324	597	334	244	311	282
二、二〇〇	一、七〇〇	二、〇〇〇	二、一〇〇	一、八〇〇	三、八〇〇	一、五〇〇	一、四〇〇	三、〇〇〇	二、一〇〇	一、〇〇〇	二、四〇〇	一、六〇〇
岩波書店	新潮社	人文書院	帝都日日社	日本評論社	春陽堂	改造社	中央公論社	岩波書店	人文書院	巖松堂	相模書房	千倉書房
月七	月五	月三	月二	月三	月五	月二十	月九	月五	月十	月三	月二十	月八
▲丘の手記、ハントイントン圖書館、或る人の仕事、一つの生涯其他の隨想紀行を収む。	▲朝の雨、蒙秀少尉の出征、軍歌の悲哀、吉野艦、支那瓦、留學生其他の隨筆を収む。	▲北遊記、北京印象記、魯領通過、思ひ出すまゝに、郷愁其他の追憶と隨筆を収む。	▲二つのどちら、「女道鏡」とは、尻笑ひ、健康の低下、運命の謎其他の隨想を収む。	▲文化への主張や隨想を纏めた書で、日本文化の動向、旅人芭蕉への斷想其他。	▲明の文人畫家董其昌の自撰せし書禪室隨筆全四卷を邦譯す。	▲過去數年間の隨想を纏めたもので海峽記、三日月村のこと、旅とどこどこ其他。	▲食慾、倒れたモデル、佐伯祐三、碁と將棋空テューヴ、自分の地圖等其他の隨筆集。	▲名所の櫻、櫻草、採植物於駒岳記、熱帯旅行談、犬山城と村瀬太乙其他を収む。	▲思出草、偲ぶ草、宵人草、養ひ草の四篇に分け収めた隨想集。	▲早春、舌の三昧、漫漫談、能樂の起源、腰越雜筆、相模平野の傳説其他の隨筆を収む。	▲過去一年間の隨筆・評論を纏めたもので新春建築三題、白砂、戦争と建築其他。	▲實業界引退後の隨想を纏めたもので亂風、國支那、米國獨立當時の政治家其他。

岡本かの子	梅若萬三郎	井川定慶	稲田昌枝	齋藤昌三	高神覺昇	坂本清編	里見葆	小池秋草	尾崎喜八	詩浦春吾	高野辰之	矢の倉書店編
隨想集	隨想集	隨想集	隨想集	隨想集	隨想集	隨想集	隨想集	隨想集	隨想集	隨想集	隨想集	隨想集
314	361	303	376	265	353	440	379	329	266	314	419	288
三、〇〇〇	二、五〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	二、〇〇〇	二、三〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	二、五〇〇	一、〇〇〇
人文書院	積善館	平凡社	六藝社	書物展望社	第一書房	子文書房	相模書房	書物展望社	朋文堂	今題社	東京堂	矢の倉書店
月六	月五	月七	月二	月八	月二十	月六	月四	月一十	月七	月十	月二十	月六
▲人工と自然、ガの子抄、心ある人、日本の女性、樹の花盛り其他の隨想隨筆を収む。	▲家系の事ども、演能二千五百番、御前能の數々、子供の頃、裸の稽古其他を収む。	▲雙眼録、榮雅記、閑話休題、話の落葉、近衛關白と松花堂昭乘其他を収めた隨筆集。	▲スキイ界に盡す事約三十年に及ぶ著者の其の間に於ける論文と隨筆を収む。	▲小雨莊の第五隨筆集で前者「紙魚供養」以後のものに纏めたもの。「特製十景」。	▲若き青年男女のために著者の人生旅日記を發表したものでエウストツプの哲學其他。	▲獨歩の生涯を叙し、代表的作品の一部を収めて、註及鑑賞批評を附す。	▲青春回顧、舊き鎌倉、回復期、秋も亦よしスキイ第一課日記、其他の隨筆を収む。	▲方竹謹話、茶杓の銘、咬來餘筆、手巾、北信の墨氣、酒仙栗野其他の隨筆集。	▲山の繪本發刊後の隨筆紀行を集めたもので青い遠方、休みの日、行人の歌其他。	▲米壽庵夜話、書道を語る、日本固有の處世道、日本人としての心の鍛錬他四篇。	▲新聞雜誌に發表せる感想隨想類三十餘篇集録せるもので惑溺の思出、山谷餘韻其他。	▲巖嶽(長岡半太郎)藥九層倍(慶松松誌)實驗(竹内時男)他五十三篇。

杉山平助	現代日本觀	布函四六 製入判	390	一、八〇	三笠書房	三月二	▲春の圓卓、私の戦争觀、忘れられた樺太、滿洲だより其の他の評論、隨想を収む。
松田解子	子供ととも	並四六 製入判	325	一、〇〇	扶桑閣	三月六	▲社會、子供、婦人、教育等に關聯した感想評論、隨筆を集めたもの。
和田傳	五風十雨	並四六 製入判	267	一、五〇	砂子屋書房	三月五	▲村境の話、案山子と鳥追、且那、生一本の米の飯、酔へぬ酒其他を収めた隨筆集。
豊田實	語學畑の副産物	布函四六 布入判	254	一、八〇	富山房	三月八	▲嘗つて發表せし隨筆、小品、英詩等を纏めたもので日本とシエクスピア其他。
大草實編	好日記	並四六 製入判	344	一、五〇	矢の倉書店	三月四	▲訪郷の旅(松山基範)淋しさを喜ぶ(上田貞次郎) 遍路と共に(菊池剛芳) 其他を収む。
松岡静雄	ささらの舎黙語	布函四六 布入判	234	二、〇〇	書物展望社	三月二	▲俗言と禁忌、神さま物がたり、銷夏漫筆、反古紙の中より其他の隨筆を収む。
山崎一芳編	財人隨想	布函四六 製入判	347	一、六〇	東海出版社	三月四	▲父の言葉と繪(鮎川義介) 禪學と私のシマツタ宗(安宅彌吉) 其他の隨想隨筆を収む。
川田順	山海居閑語	布函四六 製入判	330	二、〇〇	人文書院	三月三	▲大阪朝日に掲載された隨筆「山海居閑語」を纏めたもの。
岩本素白	山居俗情	布函四六 製入判	237	一、六〇	砂子屋書房	三月一	▲讀我書屋雜筆、田舎のうら、ゆく雪、山居俗情、遊行三昧他二篇の隨筆集。
澤村幸夫	支那草木蟲魚記	布函四六 製入判	244	一、〇〇	東亞研究會	三月四	▲支那特有の珍奇な自然物數十種に就て述べた考證的隨筆集で、茶他二十篇。
淺見淵	市井集	布函四六 製入判	270	一、六〇	砂子屋書房	三月二十	▲三宅島、眞夏の夜の夢、白鷺、山口剛先生と「都市紀行」、晝酒其他の隨筆集。
小林龍雄	詩人の日記	並四六 製入判	300	一、〇〇	白水社	三月七	▲佛蘭西浪漫派全盛期の詩人ヴィニイの系統的哲學を作つた感想録を邦譯す。
丸山侃	變下の本	布函四六 製入判	314	一、八〇	人文書院	三月二	▲佛蘭西浪漫派全盛期の詩人ヴィニイの系統的哲學を作つた感想録を邦譯す。
石川湧	失業インテリの日記	並四六 製入判	364	一、五〇	春秋社	三月二	▲大毎、東日の「観瀆」を纏めたもので、從軍記者論、蘆溝橋事件其他。
島崎藤村	草屋	布函四六 製入判	653	二、三〇	新潮社	三月十	▲現代フランスの新進評論家が身を以て體驗した安價生活法。
松枝茂夫	周作人隨筆集	布函四六 製入判	418	二、三〇	改造社	三月六	▲飯倉だより、春を待ちつゝ、市井にありて、桃の華、山陰土産その他の隨筆紀行文集。
丸山義二	銃後の土	布函四六 製入判	250	一、五〇	日本公論社	三月二十	▲大魯迅の弟として支那文壇に著名な周作人の隨筆集を邦譯したもの。
金原省吾	隨筆春爐	布函四六 製入判	310	二、〇〇	古今書院	三月三	▲春・夏・秋・冬・故郷の五篇にて樂しき懐かしい農村を描いた隨筆集。
辰野隆	書齋閑談	並四六 製入判	290	一、〇〇	白水社	三月九	▲かたち、美術、日本の視點、背後、平衡、心の形、新古、現出、身邊其他を収む。
宇垣一成	身邊雜話	布函四六 製入判	299	一、四〇	今題社の	三月七	▲晩夏隨想、人造人間、亂讀記、旅のおもひで、新萬葉集管見、俳諧妄談其他を収む。
双雅房編	新裝	布函四六 製入判	358	二、〇〇	双雅房	三月一十	▲非常時外務大臣に就任した宇垣氏の語られた隨筆集を纏めたもの。
吉田統二	人生隨筆	布函四六 製入判	127	九〇	人生社	三月十	▲木綿(錦木清方) ほか七十四篇。
外田餘氏	人生隨筆	布函四六 製入判	358	二、〇〇	双雅房	三月一十	▲生死といふことに就て(吉田統二) 都會に於ける中流婦人の生活(豊島與志雄) 其他
相馬御風	郷土人生隨筆	布函四六 製入判	358	二、〇〇	双雅房	三月一十	▲郷土生活の意義、本質、目的等に關する考察及び體驗に基く觀察感想と詞藻とを収む。
尾崎士郎	撰隨筆	布函四六 製入判	236	一、三〇	野田書房	三月五	▲悲劇の大關大の甲、大關清水川、玉錦について、土俵精神其他の相撲隨筆を収む。
山崎剛平	郷記	布函四六 製入判	259	一、六〇	砂子屋書房	三月十	▲鷗山の家、くこの部屋、上野すまゐ、登別水郷記、尾崎一雄抄等を収めたもの。

丸山侃	變下の本	布函四六 製入判	314	一、八〇	人文書院	三月二	▲大毎、東日の「観瀆」を纏めたもので、從軍記者論、蘆溝橋事件其他。
石川湧	失業インテリの日記	並四六 製入判	364	一、五〇	春秋社	三月二	▲現代フランスの新進評論家が身を以て體驗した安價生活法。
島崎藤村	草屋	布函四六 製入判	653	二、三〇	新潮社	三月十	▲飯倉だより、春を待ちつゝ、市井にありて、桃の華、山陰土産その他の隨筆紀行文集。
松枝茂夫	周作人隨筆集	布函四六 製入判	418	二、三〇	改造社	三月六	▲大魯迅の弟として支那文壇に著名な周作人の隨筆集を邦譯したもの。
丸山義二	銃後の土	布函四六 製入判	250	一、五〇	日本公論社	三月二十	▲春・夏・秋・冬・故郷の五篇にて樂しき懐かしい農村を描いた隨筆集。
金原省吾	隨筆春爐	布函四六 製入判	310	二、〇〇	古今書院	三月三	▲かたち、美術、日本の視點、背後、平衡、心の形、新古、現出、身邊其他を収む。
辰野隆	書齋閑談	並四六 製入判	290	一、〇〇	白水社	三月九	▲晩夏隨想、人造人間、亂讀記、旅のおもひで、新萬葉集管見、俳諧妄談其他を収む。
宇垣一成	身邊雜話	布函四六 製入判	299	一、四〇	今題社の	三月七	▲非常時外務大臣に就任した宇垣氏の語られた隨筆集を纏めたもの。
双雅房編	新裝	布函四六 製入判	358	二、〇〇	双雅房	三月一十	▲木綿(錦木清方) ほか七十四篇。
吉田統二	人生隨筆	布函四六 製入判	127	九〇	人生社	三月十	▲生死といふことに就て(吉田統二) 都會に於ける中流婦人の生活(豊島與志雄) 其他
外田餘氏	人生隨筆	布函四六 製入判	358	二、〇〇	双雅房	三月一十	▲郷土生活の意義、本質、目的等に關する考察及び體驗に基く觀察感想と詞藻とを収む。
相馬御風	郷土人生隨筆	布函四六 製入判	358	二、〇〇	双雅房	三月一十	▲悲劇の大關大の甲、大關清水川、玉錦について、土俵精神其他の相撲隨筆を収む。
尾崎士郎	撰隨筆	布函四六 製入判	236	一、三〇	野田書房	三月五	▲悲劇の大關大の甲、大關清水川、玉錦について、土俵精神其他の相撲隨筆を収む。
山崎剛平	郷記	布函四六 製入判	259	一、六〇	砂子屋書房	三月十	▲鷗山の家、くこの部屋、上野すまゐ、登別水郷記、尾崎一雄抄等を収めたもの。

森田	三宅	武田	下村	倉田	三宅	高橋	北原	野上	吉川	夏目	松岡	夏目	松岡	東海
たま	郷太	麟太郎	村海	百三	雄二郎	健二	白秋	豊一郎	英治	漱石	漱石	漱石	漱石	東海
隨筆	隨筆	世間	生活	青春	戦争	戦後	全	草衣	邊	文藝	文藝	文藝	文藝	東海
きぬ	綿業	ばなし	改善	の痕	と生	學生	戦後	集	雜	讀	讀	讀	讀	東海
た	報	し	善	痕	活	の手紙	貌	草	草	本	本	本	本	東海
上四六	上四六	上四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六
製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判
329	303	275	435	326	456	194	645	290	403	381	411	341	341	341
一、七〇	一、五〇	二、〇〇	一、八〇	一、〇〇	二、〇〇	一、〇〇	三、八〇	二、〇〇	二、五〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
中央公論社	雄生閣	相模書房	第一書房	大東出版社	帝都日報	岩波書店	アルス	相模書房	育生社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	東海
月八	月十	月九	月二十	月二十	月十	月十	月七	月六	月七	月二十	月八	月八	月八	月八
▲七草、紙、いとばん、年賀状、初春の香、 ▲長期戦に對する執後の覺悟、組上の支那、 ▲落日の日本、一筆申上候其他を収む。 ▲落語家たち、少女歌劇について、白衣の聖 城、演舌、世帯其他の隨筆を収む。 ▲時局斷想篇、體位向上篇、白雲流水篇、時 事解説篇の四篇に収めた評論隨筆集。 ▲二十二歳より二十七歳迄病氣療養中二友人 に宛てた手紙を全部収録せるもの。 ▲天下を擾すもの、眞名將と偽名將、判檢事 科會的の優劣其他の隨感隨想を収む。 ▲世界大戦に出征し戦死した學生の手紙を纂 録したもの、拔萃邦譯せるもの。 ▲十二年度に於ける氏の詩、短歌、散文等の 全作品を収め、總目錄をも併載す。 ▲金剛山、藤栗毛、平壤、高句麗の古墳、扶餘 廣州、佛國寺其他の隨筆を収む。 ▲鉛筆通信、戦線拾遺、視滴、窓邊雜草、旅 と舌、の五篇を収めた隨筆集。 ▲漱石自身が選定して漱石文學を體系づけた 小説・小品・評論・講演等を収む。 ▲夏目漱石の代表的作品十一篇中より其の粹 を抜萃輯集して解説をなす。 ▲北原白秋と小林一三氏へ明石町男一侍は 上手の人、有島健助、其他。														

村松	竹中	荻原	井上	安倍	小堀	河合	針ヶ谷	石井	加藤	徳富	木村	林
相風	慶太郎	井泉水	紅梅	能成	杏奴	良成	谷鐘	鶴三	將之	猪一郎	太	安
續支那	大地	命	華	暮	妻	帝人	庭園	凸凹	哲學	然と	田園	繁
漫談	起	書	鏡	抄	紙	境	襖	おぼ	氣	人	エツ	腐
談	ン	書	鏡	抄	紙	境	襖	おぼ	質	間	セイ	萍
上四六	上四六	布四六	上四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六	布四六
製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判
470	201	276	276	508	227	544	306	263	400	316	286	302
一、六〇	一、〇〇	二、〇〇	一、八〇	三、三〇	一、五〇	一、八〇	二、〇〇	一、八〇	一、八〇	一、〇〇	一、六〇	一、六〇
改造社	野崎書房	砂子屋書房	改造社	岩波書店	岩波書店	アシア書房	西行會	光大社	第一書房	民友社	大河書院	日本
月八	月五	月十	月九	月十	月十	月四	月九	月一	月四	月七	月七	月八
▲宋美齡、萬里の長城を遊んで、美術家、然 河、北京遊記、濟南管見其他を収む。 ▲農村を中心とする種々の小説、戯曲等を収 めたもので農家こよみ、田園短句其他。 ▲エテイプスの微笑、制動、飛躍、蜜柑の皮 茶席、庭園、庭坪、杓其他を収む。 ▲支那の暗黒面を抽出して解説したもので老 酒、猫魚、螃蟹、火腿、田螺、茶館其他。 ▲隨筆を書く心持、一高時代の交友、前川君 の遺難、小さい思ひ出其他の隨筆集。 ▲明治三十七年出征中の海外より妻宛に書か れた手紙百七十七通を収めたもの。 ▲幽囚四年、無罪の判決を受けた筆者の公判 陳述と心境とを輯録したもの。 ▲造園關係の諸雜誌に發表したもの、纏めた もので明治時代の洋風庭園其他。 ▲山の幻影、旅の追憶、凸凹の妖怪、泥鰌人 獨語、挿繪の話其他の隨筆を収む。 ▲哲學者氣質、哲學者小説、逸話のカントの 三篇を収めた哲學隨筆集。 ▲蒲公英、佛國革命史、餘話、蓮獄八面觀、 孔子を語る其他の隨筆を収む。 ▲雄鳩の記、北國の花、野の生物、鳥獸談、 花三十八題、日本の花其他を収む。 ▲豆腐のから、政界異變、西國三十三番の御 詠歌、旅から旅、日本人の同化力其他。												

住田 正一	桃 園 雜 記	並四六	一、五〇	海文堂	月十	▲物の考へ方、田毎の月、廿年一昔、觸媒、酒落、人間の價値其他の隨想集。
川部 重治	峠と高原	並四六	一、〇〇	新潮社	月七	▲峠や高原の紀行と山に關する隨筆を収めたもので山を憶ふ、木曾駒ヶ岳其他。
釋 蕪 齋	毒つれづれ	並四六	二、〇〇	人文書院	月三	▲米騒動、如是因氏、今弘法、溪仙佛、盧子さんと碧さん、大原問答其他を収めた隨筆集
矢の倉書店編	讀 隨 筆	上四六	一、六〇	矢の倉書店	月三	▲飽くづ(姉崎正治)「大言海」を覗いて見る(牧野富太郎)其他の隨筆集。
東京日日新聞社編	友を語る	上四六	一、八〇	東京日日新聞社 大阪毎日新聞社	月七	▲東京日日新聞に連載して好評を博したものを纏めたもので七十四氏執筆。
成瀬 無極	南船北馬	並四六	一、六〇	白水社	月五	▲淺間温泉から、北平の新進女優、天津の一夜、土佐日記、俳優の死其他の隨筆を収む。
川崎 克	日本趣味を行く	上四六	一、八〇	日本評論社	月十	▲大雅と蕪村、餘技の日本畫、茶趣味と伊賀焼、日本の木造建築其他を収めた隨筆集。
有馬 頼寧	農人形	上四六	一、〇〇	岡倉書房	月二十	▲農民文學に理解のある有馬農相の第二隨筆集で私の少年時代、性格の改造其他。
小川野和好	パイロン・手紙と日記	並四六	一、六〇	青木書店	月二十	▲十九世紀に於ける情熱の詩人「パイロン」の手紙と日記を譯せるもの。
佐田 秋聲	隨筆集 灰皿	上四六	一、六〇	砂子屋書房	月八	▲灰皿、雜音騒音、花・水郷、猫、風呂桶、生活斷片、俗談平語、心頭涼味其他。
土岐 善磨	滿目抄	有六六	二、〇〇	人文書院	月六	▲殘鶯記、對座、歌論歌話、旋律一、旋律二能樂・謠曲、其他の隨筆を収む。
蒲原 有明	飛雲抄	有六六	二、〇〇	書物展望社	月二十	▲經の木は匂ふ、序文三篇、龍土會の記、蟲惑的書家、虛妄の眞實其他の隨想集。
吉田 結二	旅抄	並四六	一、〇〇	改造社	月十	▲旅二十日、秋心録、芙蓉散華、旅人のこゝろ、旅の實、秋風落葉其他を収めた隨想集。

小 崎 重 一	拓 け 行 く 道	並四六	二、〇〇	相模書房	月一十	▲天變地異、音樂の思想、謠曲と義太夫、搖籃の歌、房南閑居其他の隨筆集。
重 徳 潤 水	フ ラ ン ス を 中 心 に	上四六	一、〇〇	人文書院	月五	▲折れ行く道、年の首に、試みらるゝもの、折焚く枝其他の隨筆を収む。
尾崎 行雄	風雲閣閑話	上四六	一、〇〇	岡倉書房	月六	▲フランスを中心にした大戦後の歐洲政局の回想録で、巴里隨筆をも収む。
諺 井 孝 作	風 物 誌	有六六	二、〇〇	砂子屋書房	月八	▲憲政の巨人尾崎翁の語られし事を集録したもので、濤聲松籟、客と語るの二篇。
中 谷 宇 吉 郎	冬 の 華	上四六	二、〇〇	岩波書店	月九	▲志賀直哉對談日記、座右寶について、我孫子の思出、文學的自叙傳其他の隨筆を収む。
樋 口 一 葉	文 學 讀 本	有六六	一、五〇	第一書房	月六	▲物理學周邊、科學生活周邊、旅の手帖よりのことどもの三篇に分け収めた隨筆集。
室 生 犀 星	文 學 讀 本	有六六	一、五〇	第一書房	月五	▲明治文壇に特異な存在として其筆名をうたはれた一葉女史の作品を採録した讀本。
尾崎 紅葉	文 學 讀 本	有六六	一、五〇	第一書房	月六	▲著者の作品のあらゆる分野に亘つて集録したもので女三人、夜の挨拶、閑居其他。
室 生 犀 星	文 學 讀 本	有六六	一、五〇	第一書房	月一十	▲明治の大文豪尾崎紅葉の全作品中より代表的なものなを採録集録す。
相 馬 御 風	文 學 讀 本	有六六	一、五〇	第一書房	月七	▲著者の全著作中より代表的なものなを撰んで秋冬の二期に分け収む。
北 條 民 雄	文 學 讀 本	有六六	一、五〇	第一書房	月六	▲二十数年間に發表した郷土生活に關する文章詩歌約五十篇を集めたもの。
北 條 民 雄	全集	有六六	二、〇〇	創元社	月六	▲下巻は未發表の遺稿や、隨筆、感想、日記書簡、年譜、追悼記等を収む。

岸田 國士	北支物情	並四六	305	一、〇〇〇	白水社	月五	▲事變後の北支の事實を親たまいに述べたもので英國士官、女宣教師、親日家其他。
平井 泰太郎	街に拾ふ	並四六	330	一、九〇〇	創元社	月五	▲嘗つて雑誌等に發表せし隨想を集めたもので、時代相雜記、街頭偶話、診療學餘話其他。
薄田 精一	萬年史	並四六	281	一、五〇〇	富強日本社	月七	▲著者の軍人時代の隨想、隨筆を集めたもので白馬將軍、泣蟲新兵、鞭其他。
冠 松次郎	峰・溪々	並四六	332	三、〇〇〇	書物展望社	月七	▲昭和十二年初夏より十三年初夏までの間に書いたものを纏めたもの。
佐久間政一	名家名文選	並四六	98	一、八〇〇	南江堂	月二十	▲ドイツの文豪ゲーテ・シルレル・ニーチェ等七氏の代表的名文を十篇纂録したもの。
下村 海南	物の糧心の糧	並四六	539	一、八〇〇	第一書房	月五	▲時局斷想篇、體位向上篇、白雲流水篇、時事解説篇其他に分け收めた評論、隨筆集。
田部 重治	山路の旅	並四六	275	一、三〇〇	新潮社	月十	▲昭和十一年秋より十三年夏までの山に關する感想を收めたもので上信の旅、雪の山其他。
正宗 白鳥	子が一日一題	並四六	258	一、六〇〇	人文書院	月二十	▲讀賣新聞夕刊一日一題紙上に掲載された短文百篇を選んで收めたもの。
三好 達治	夜沈々	並四六	396	一、五〇〇	白水社	月八	▲小動物一・二・三・四、淺間山、山小屋、鷺、鷺、鷺其他の隨筆を收む。
岸田 國士	ルナ・ア・ルナ日記	並四六	316	一、八〇〇	白水社	月七	▲第二巻は一八九四年一月一日より一八九六年十二月三十日までを收む。第七巻配本。
朝比奈 知泉	老記者の思ひ出	並四六	431	一、〇〇〇	中央公論社	月三	▲報知、東京新報、東日、萬朝報の記者として活躍せる著者の思ひ出を纏めたもの。
野村 米次郎	われ日本人なり	並四六	318	一、五〇〇	竹村書房	月五	▲われ日本人なり、廣野に潮を入れる、問題ば更に深い、詩く言葉(詩)其他を收む。
津川 幸徳	れは中	並四六	307	一、六〇〇	砂子屋書房	月五	▲國木田獨歩の生前に於ける小説家としての入筆、田山花袋氏の印象其他の隨筆を收む。

林 美美子	私の昆蟲記	並四六	224	一、三〇〇	改造社	月七	▲南京行、靜安寺路邊憶、私の從軍日記、露の夜、夫婦其他の隨筆を收む。
吉田 絃二郎	我れひとり思ふ	並四六	304	九〇〇	新潮社	月六	▲旅人寂光、芙蓉涅槃、草庵に枯坐して、初冬靜宵、鳩、妻亡し其他の隨想を收む。
徳富 猪一郎	我が交遊録	並四六	333	一、七〇〇	中央公論社	月三	▲著者と交遊ありし人々のうち政治社會方面の人のみを自他の對照に於て語る。
高橋 新吉	詩集雨雲	並四六	167	一、五〇〇	版畫莊	月四	▲發生、石、夢、遊行、一つ、海、雲、打殺、蝸、ひとたびは、荒冷其他の詩を收む。
小島 秀一	詩集海流	並四六	188	一、四〇〇	詩洋社	月十	▲潮岬斷章、海邊日記、海流篇、白い花片、山上傷心、母の圖、妻と童子其他。
草野 心平	蛙	並四六	70	一、四〇〇	三和書房	月二十	▲聲のりる、鼻と蛙、たまごたちのある風景、さようなら一萬年其他の詩集。
三好 凌石	漢詩作法	並三五	136	五〇〇	松雲堂	月九	▲初學者向に五言絶句と七言絶句とを説いて直に作詩出来るやう述ぶ。
佐久 節編	漢詩大觀	並四六	963	八、〇〇〇	關書院	月九	▲索引第一は一畫より九畫までを收めたもの。
北原 白秋	藝術の圓光	並四六	366	二、〇〇〇	アルス	月二	▲藝術の圓光、民謡私論、森鷗外先生、詩と俳句、石川啄木について其他の詩論收載。
松本 國風	國風詩吟集	並四六	121	五〇〇	出版部	月二十	▲既往五年間に教授した詩什の中から朗吟に適したものを選び註解をなしたもの。
岩佐 東一郎	詩集三十歳	並四六	78	二、〇〇〇	文藝汎論社	月二	▲三十歳、寫眞術、自嘲、稻妻、秋の灯、嘘のメオル、ハカキ回答其他の詩を收む。
永井 荷風	詩集珊瑚	並四六	130	一、四〇〇	第一書房	月四	▲死のよるこび、憂悶、暗黒(ボオドレエル)その他のよるき(ランボオ池)ヒカアル其他を收む。

詩

文學(詩・短歌)

及川均	詩集 横田家の鬼	四六倍判	101	一、五〇	平澤節子家	月十	▲抗議、旗、斷崖、肋の見える風景、横田家の鬼、吹雪の日の手紙其他を収む。
吉村岳城選者	朗吟詩	並三六判	439	一、〇〇	愛國新聞社	月十	▲吟する人達のために吟じ易い詩歌を収めて解釋を施したものである。
高尾豊吉編	和漢詩	洋四六判	233	一、五〇	培風館	月十	▲邦人漢人の作になる漢詩三一二篇を収めて分類し頭註を施したものである。
藤澤省吾	詩 我れ汝の足を洗はずば	並四六判	376	一、五〇	第一書房	月三	▲新しき詩精神を盛つた藤澤氏の長篇詩を収めたものである。

短

歌

山利貞三	歌の正しい作り方	上四六判	303	一、五〇	新潮社	月三	▲正しい短歌の作り方を説明した書で、歌はかうすればまとまる。短歌の用語他七篇。
北原白秋	多磨(多磨詩集)	洋四六判	214	一、五〇	ア・ス	月五	▲短歌雑誌「多磨」誌上で北原白秋氏が初學者の爲に指導した添削實例を収録したものである。
高田浪吉	歌人赤彦の鑑賞	上四六判	275	一、八〇	三省堂	月一	▲鳥木赤彦の歌風と歌論、赤彦の短歌評釋、切火を研究し、赤彦先生追憶文を附す。
高田浪吉	歌人中村憲吉	並四六判	212	一、三〇	三省堂	月二十	▲中村氏の代表歌三百三十七首を引用しそのうち八十八首を評釋す。
若山牧水遺著	歌集	上四六判	312	二、七〇	改造社	月九	▲大正十二年より昭和三年没する迄の歌千首を収めた最後の歌集。
岡山巖	現代短歌論	上四六判	342	三、〇〇	人文書院	月一	▲現代短歌に關する種々の問題に就て論じたもので、短歌と文學、短歌と現實他五部。
大日本歌人協會編	支那事變歌集	並四六判	418	二、八〇	三省堂	月二十	▲讀賣新聞紙上に連載された齋藤・佐佐木兩博士の選になる事變歌を録めたものである。

文學(短歌)

伊藤嘉夫編	傷痍軍人聖歌集	並四六判	208	一、〇〇	人文書院	月二十	▲第一陸軍病院に療養中の勇士及衛生兵、看護婦等の作になる短歌を集録したものである。
聖歌集編輯部編	聖歌短歌集	並三六判	285	八五	成史書院	月十	▲今事變により北支・中南支に又支那海に從軍活躍せる皇軍勇士の歌を収めたものである。
北原白秋編	多磨第一歌集	並四六判	346	二、三〇	ア・ス	月九	▲多磨創刊以來三ヶ年間に亘る作品中より選出したものを集めた第一歌集。
黒岩一郎	濁水抄	並四六判	25	三、三〇	東亞書院	月一十	▲今事變に從軍し酷熱と闘ひ、濁水にむせびながら作つたものを収めた歌集。
岡山巖	短歌鑑賞論	洋四六判	333	一、〇〇	人文書院	月二十	▲短歌の批評と鑑賞に關する諸論文を纏めたもので批評・鑑賞の根本問題其他。
岡野直七郎	短歌新論	上四六判	312	二、〇〇	人文書院	月十	▲新浪漫主義をはじめ提唱した昭和十年以後の短歌論を五篇に分けて収む。
宮崎茂	短歌入門	洋四六判	214	一、三〇	潮文閣	月二十	▲歌に關する全般知識を最も判り易く述べた短歌入門書。
山下陸奥	短歌の表現と技巧	上四六判	313	二、〇〇	人文書院	月九	▲短歌の表現と技巧に就て雑誌「一路」誌上に發表した作歌餘録中より輯集したものである。
高木志乃夫編	現代より註釋女流名歌選集	洋四六判	226	一、三〇	潮文閣	月四	▲萬葉より現代までの女流歌人の歌六七〇首を収めた簡単な註釋を施す。
村野次郎	香蘭詩集	並四六判	277	二、三〇	香蘭詩社	月六	▲昭和二年より昭和十年までの五百八十首を収めたもので病後閑居集其他。
高須芳次郎	乃木將軍詩歌物語	並四六判	328	一、四〇	新潮社	月九	▲乃木將軍の詩歌の粹を年代順に収めてその出所、動機、内容、精神等を解説す。
アララギ同人編	アララギ年刊歌集	上四六判	367	一、五〇	岩波書店	月十	▲昭和十二年中に於けるアララギ作品中より二千八百二十三首を撰出して収めたものである。
佐伯仁三郎	歌群	上四六判	287	二、〇〇	槻の木會	月二十	▲大正九年より昭和十三年までの長短歌三百七十首を収録したものである。

俳句・川柳

千葉 胤明	明治天皇御製謹話	上四六 製入判	360	一、〇〇〇	講談社	月二	▲人倫の大本を示し治政の要諦を論させ給うた明治天皇の御製を謹解す。一冊二冊一
水原 秋櫻子	自解句秋	並四六 製入判	217	一、三〇〇	河出書房	月十	▲自作句二百句を収めて分類し、句作の動機材料の掘み方等句の出来るまでをも述ぶ。
山口 誓子	句集炎	上四六 製入判	213	一、五〇〇	三省堂	月十	▲昭和十年馬酔木加盟以来の作品四百有餘句を収めた第三句集。
岡崎 清一郎	句集花鳥品	和菊半 製入判	30	三〇〇	文藝汎論社	月七	▲「春の日の頻りにふいてるほこり風」其他を収めた俳句集。限定版百部
横山 白虹	句集海	上四六 製入判	214	一、〇〇〇	沙羅書店	月六	▲新情緒主義を標榜して新興俳壇の一角に君臨する横山白虹氏の自選句集。
日野草城選輯	句集	上四六 製入判	146	一、五〇〇	旗艦發行所	月二十	▲本輯は二五九八年版で西谷榮行、安住あつし、縣耕史、秋山青紀其他諸氏の作品を収む。氣象に關係のある俳句の季語を氣象學的に解釋せるもの。
布村 重次郎	現代新進俳句集	上四六 製入判	340	一、八〇〇	艸書房	月一	▲十二年度に於ける作品及作者住所録、俳句雑誌目録、俳書レギュラー等も収む。
新進俳句集	現代新進俳句集	上四六 製入判	80	一、〇〇〇	艸書房	月六	▲今事變に従軍し戰場にて作った俳句を集めた句集
島 東吉編著	新戰場俳句と作法	並菊半 製入判	115	三〇〇	教材社	月二十	▲江戸時代の岡場所を川柳を通じて研究したもので深川の岡場所其他。
大曲 駒村	川柳岡場所考	上四六 製入判	395	三、五〇〇	書物展望社	月七	▲古川柳を主として各月別に収め其の各々を解説したもの。
渡邊 原三	川柳十二ヶ月	布四六 製入判	561	一、五〇〇	テンセン社	月二十	▲昭和九年より十三年までの作品を収めた句集。
松本 たかし	句集	上四六 製入判	196	一、八〇〇	龍星閣	月一十	

水原 秋櫻子	冬林抄	布四六 製入判	274	一、八〇〇	人文書院	月二十	▲作家小論、隨筆、新進作家の句、俳句、俳句の評釋、以上五篇の俳句短文を収む。
松根 東洋城	俳諧道	布四六 製入判	331	三、〇〇〇	澁柿社	月四	▲俳諧「澁柿」の巻頭に毎號東洋城氏が俳諧道の指針として述べた短章を輯録せるもの。
水原 秋櫻子編	新俳句季語解説	洋菊半 布入載	385	二、〇〇〇	交蘭社	月五	▲俳句に必要な季語を五十音順に排列して註釋を附す。
現代俳句普及會編	俳句講習録	並菊半 製入判	688	三、〇〇〇	現代俳句普及會	月六	▲俳句に必要な全般の知識を平易に述べたもので、作法講義、季語解説、俳句評釋其他。
山口 誓子	俳句論	並四六 製入判	318	一、六〇〇	河出書房	月一十	▲俳句鑑賞、季題、寫生、競争俳句等の論文研究・感想等を集めたもの。
白田 小菴浪	俳句の第一門	並四六 製入判	125	九〇〇	交蘭社	月三	▲漫然と俳句の作り方を教へるだけでなく俳句の根本を説ける入門書。
高濱 虚子	俳句・俳文・俳話	布四六 製入判	369	二、〇〇〇	河出書房	月八	▲二、三年來に發表した俳文、俳話等を収めたもので冬日、雪の小村の話其他。
加藤 鞆郎	俳句表現の道	並四六 製入判	184	九〇〇	交蘭社	月六	▲俳句道に於ける表現を述べたもので、表現といふこと、内的表現、主觀と客觀其他。
高濱 虚子選	ホトトギス雜詠選集	布四六 製入判	584	五、〇〇〇	改造社	月八	▲明治四十一年十月號から昭和十二年九月迄の雜詠春の部三千餘句を選抜蒐集す。
麻田 椎花編	ホトトギス同人句集	布四六 製入判	513	三、五〇〇	三省堂	月二十	▲ホトトギスに關係ある作家八十五氏の句五十句づつを収めたもの。
松瀬 青々	句集松	布四六 製入判	322	一、五〇〇	徳島社	月二十	▲故青々氏の二十七年間中の近作中より春之部を撰んで纏めたもの。
新井 辟風編	定本木歩句集	上四六 製入判	271	一、三〇〇	交蘭社	月八	▲薄倅な天才俳人木歩の十八歳(大正三年)より二十七歳歿する迄の句を収む。

丸山 義二	伊藤 蕪	里見 蕪	中岡 宏夫	伊藤 永之介	林 房	永井 荷風	美川 きよ	室生 犀星	久保 菜	前田河廣一郎	横光 利一	徳田 秋聲
小説田舎	石を投げる女	荊棘の冠	長篇小説浮世の果	小説浮世の果	美しき五月となれば	おもしろか	恐しき幸福	小説女の一生	火の山灰	火の山灰	家族會	假裝人
上四六	上四六	並三六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六	上四六
製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判
229	294	215	362	387	345	247	349	389	347	402	456	453
一、五〇	一、四〇	一、六〇	一、四〇	一、八〇	一、四〇	一、二〇	一、六〇	一、四〇	一、四〇	一、八〇	一、五〇	一、三〇
砂子屋書房	竹村書房	岩波書店	改造社	第一書房	岩波書店	版畫莊	出版部	新潮社	六藝社	創元社	中央公論社	中央公論社
月二十	月二十	月二十	月二十	月二十	月二十	月二十	月二十	月二十	月二十	月二十	月二十	月二十
▲非常時局下に於ける貧乏の農村女性を描いた長篇小説。	▲石を投げる女、蹠踏、崖の道、街上で、轉身、宇津の手記、斑點他三篇の短篇集。	▲天才少女ピアニスト五九子の周囲を三人の手記・備忘録・日記によつて描いた中篇。	▲事變直前の大東京を背景に學者、實業家、娼婦等のあらゆる階級を描いた長篇の一部。	▲梟、鶯、燕、鴉の四篇を収めた小説集。	▲因襲の殻を破らんとして歌舞伎團に叛旗を翻した市川小十郎と其の周囲を描いた長篇。	▲おもかげ、女中のほなし(短篇小説) 葛飾情話(歌劇脚本) 鐘の聲、郊外(小品) 其他	▲著者が目下三田文學に連載中の「女流作家」の前編を成す長篇で、この三人以下六章。	▲古い鐵鎧を解き放つて、敢然と人世の第一歩を踏み出した女性群を描いた長篇。	▲火山灰地帯を背景に農産實驗場を中心とする學説と農民達の生活を描いた長篇戯曲。	▲火田、老人(スタリキ) 兄貴の女、女のなない三人、娑婆の掟他二篇を収めた小説集。	▲東京・大阪兩都の商人氣質、習慣、家法、男女の道義と愛情等を描いた長篇。	▲日本評論誌上に連載され好評を博したものを纏めた長篇。

大谷 旬佛	羽田清次編著	北原 白秋	なむらひさいちろ	間宮 茂輔	富澤 有爲男	川口 松太郎	岡田 三郎	濱本 浩	藤澤 恒夫	中山 義秀
俳句集我	佐渡歌謡集	日本	童謡鳩	あ	愛	愛	秋	浅草の灯	新し	厚
布四六	洋四六	洋四六	洋四六	上四六	並四六	並四六	並四六	上四六	並四六	上四六
製入判	布入判	布入判	布入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判
325	176	278	133	369	524	332	308	360	381	353
二、三〇	三、〇〇	一、九〇	一、〇〇	一、七〇	二、二〇	一、〇〇	一、〇〇	一、四〇	一、〇〇	一、〇〇
書物展望社	佐渡歌謡會	アールス	鳩居書房	小山書店	中央公論社	講談社	竹村書房	新潮社	竹村書房	小山書店
月十	月二十	月三	月八	月三	月十	月十	月四	月二	月十	月九
▲新年、春、夏、秋、冬の五季に千六百七十句を分け収めた句集。	▲佐渡音頭集、佐渡俚謡集、佐渡の船唄、佐渡國名所歌集の四篇にて佐渡歌謡を説く。	▲岬の夕焼、鳥の燈明、朝立つ虹、パパヤの花、別れ霜其他に分け収めた民謡集。	▲鳩のお話、おもちゃの兵隊、山車、馬車と子供、ガラスのお部屋其他の童謡を収む。	▲鑛山を背景にそこに働いてゐる人々の氣質や生活や種々の事件を描寫した長篇小説。	▲夢多き多感な二處女と年少なる一兄弟の交情を中心にして近代的戀愛を描いたもの。	▲年若く良人を失ひ火の如き男の純愛も斥け愛兒を抱いて男々しく生きる女性を描く。	▲玩具の勳章、秋、冬、冬去りなど、指環、舞臺裏、三枝子、寒夜を収めた短篇小説集。	▲オペラ役者の生活を題材として浅草の榮屋裏に發生した悲しき戀と友情を描く。	▲鴛はりの生活に憫んだ美しき人妻が、敢然として眞の愛に生きる途を描いた長篇。	▲厚物咲、鶯、二僧侶、榮耀、乾氏の稱の五篇を収めた小説集。

文學(現代小説)

高見順編	堀辰雄	片岡鐵兵	伊藤永之介	賀川豊彦	里見弴	窪川稻子	夏目漱石	柳田泉	外村繁	金谷完治	石川達三	佐々木三郎
第二學生生活短篇集	風立ちぬ	風の女王	長篇鴉	説小キリ	求心ス	くれなゐ	美人草	苦命	草	小説集雲	結婚の生	身
並四六	上四六	上四六	上四六	並四六	上四六	並四六	並四六	上四六	上四六	上四六	上四六	並四六
製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判
322	195	346	178	551	333	278	493	300	343	382	296	161
一、五〇	二、〇〇	一、五〇	一、〇〇	一、八〇	一、四〇	一、八〇	一、五〇	一、五〇	一、四〇	二、〇〇	一、五〇	一、八〇
矢の倉書店	野田書房	新潮社	版畫莊	改造社	竹村書房	中央公論社	春陽堂	砂子屋書房	砂子屋書房	野田書房	新潮社	赤塚書房
月二十	月四	月一	月五	月十	月八	月九	月九	月四	月十	月九	月十	月十
▲夏やすみ(森山啓)或る師弟(高木卓)青春の奇術(石川達三)他八篇。	▲書、風立ちぬ、冬、死のかげの谷の四篇の短篇を収む。	▲現代女性の心理と男心の赤裸の姿を描いた長篇小説。	▲東北農村に取材して、貧農の子女が必然的に落ちて行く過程を描いた書下し長篇。	▲聖キリストの眞を傳へたる長篇小説で、マラス城の裏門、嵐の前、流言蜚語其他。	▲求心力、今夜、海の上、道草、山のかへりの五篇を収めた短篇小説集。	▲涯しない無明の間に微光を求めてのたうつ魂の悲劇を描いた長篇小説。	▲朝日新聞入社後の第一回作品で東京大阪兩朝日新聞紙上に連載されて好評を博したものを、恐怖の記録、苦命、困った弟子、或時期の語、小事件其他の短篇を収めた小説集。	▲明治末年より大正初年にかけて美しい江州琵琶湖畔を舞臺に一豪商の内面を描く。	▲雲間、娼、奇術師、焚惑、おろかなる契、女客人等十三篇の小説集。	▲著者自身の生活を解剖し愛と結婚の生を痛烈に描寫した書き下し長篇小説。	▲献身、愛、孤獨の計、あそびの五篇を収めた小説集。	▲芥川賞第三回受賞作品「ヤマイン」記と二短篇小説を収む。

文學(現代小説)

鶴田知也	眞杉静枝	坪田讓治	古木鐵太郎	岸田國士	竹田敏彦	大江賢次	山本有三	尾崎士郎	坂部護郎	葉山嘉樹	武田麟太郎	片岡鐵兵
コシヤマイン	小魚の心	子供四季	子の死と別れた妻	福の森	紅	曠野涯なく	福	去る日來る日	最後の蠟燭	山谿に生くる人々	小説山脈	思慕
並四六	並四六	上四六	並四六	上四六	並四六	並四六	並四六	上四六	並四六	並四六	上四六	並四六
製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判
194	317	523	139	268	436	602	187	487	224	300	398	296
一、二〇	一、四〇	二、三〇	一、八〇	一、四〇	一、〇〇	一、九〇	一、五〇	一、四〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
新書物展望社	竹村書房	新潮社	赤塚書房	三笠書房	講談社	パブリ社	岩波書店	講談社	朋文堂	竹村書房	支海書房	竹村書房
月七	月二十	月八	月一十	月五	月一十	月一十	月一十	月一十	月二十	月三	月十	月二
▲芥川賞第三回受賞作品「ヤマイン」記と二短篇小説を収む。	▲小魚の心、話しかける人、風わたる、松山氏の下駄、女主人、婚姻他六篇の短篇集。	▲純眞な涙ぐましい少年善太、三平の兄弟を中心にして社會悪を描いた長篇。	▲子の死と別れた妻、昔日、仲秋の三篇を収めた小説集。	▲夫たる男の悩み、妻たる女の悩みを描き現代に於ける幸福の本體を究めた長篇小説。	▲無實の罪に泣いて社會悪と闘ふ牧野青年を繞つて起る悲戀な物語。	▲六連を背景にし一處女を繞つて、亡命の白系ロシヤ人、密輸入者等を描いた戀愛小説。	▲痛、子役、チヨコレイト(短篇)兄弟(小品)雪(シナリオ)以上を収む。	▲日本の性格を持つた村高橋平と其の父不山子喬山との宿命を描いた長篇。	▲スキーに關する短文を集めたもので天上のスキーヤー、ナンセンとヨハンセン其他。	▲登音、出發、馬鹿氣話、萬福道想、映底水路、裸の命、窮實の八篇を収めた創作集。	▲山脈、成功者(短篇)東京環狀線、裸婦(中篇)宵待草、繪看板(長篇)他短篇三篇。	▲壓迫、光、最も楽しい時間、思慕、男だらけの世界、眉を讀ふ其他の小説を収む。

門脇 正男	屍體に關する覺書	四六倍刊	40	一、八〇	文求堂	月六	▲旅先きの宿で悪夢を見てゐる主人公の幻想を散文詩風に描いた短篇。
山下 三郎	小説室	前編洋布刊	187	三、五〇	沙羅書店	月五	▲略血まで、朝、僕とばあや、びろりと、花戀愛、室内、思ひ出、一人の役者の七篇。
和田 傳	濕地	上四六刊	322	一、二〇	新潮社	月三	▲濕地、遺言、家長、同胞、祖父、嫁、松序の七篇の農村小説集を収む。
徳田 一穂	縛られた女	布四六刊	355	一、八〇	砂子屋書房	月六	▲縛られた女、鯨ヶ澤、白い姉妹、通信員、花影、遊び仲間他九篇を収めた短篇集。
横光 利一	春園	布四六刊	352	二、〇〇	創元社	月四	▲雑誌主婦之友に連載された長篇小説を一冊に纏めたもの。
張 赫	春香	上四六刊	303	一、三〇	新潮社	月三	▲朝鮮古典文學中の名作を戯曲化せるもので愛憎人生、愛憎の園の二小説をも掲ぐ。
久保田 万太郎	春泥・花冷	並三六刊	250	六、五〇	岩波書店	月一	▲春泥、花冷の二篇を収めた小説集。
正木 不如丘	處女地帯	並四六刊	650	一、五〇	中央公論社	月三	▲不治のレツテルを張られた結核の根本觀念を是正して、治療法と豫防を描いた長篇小説
内川 片帆	小女學校寄宿舎の犬	洋四六刊	162	一、五〇	大同館	月五	▲寄宿舎の番犬ジョンにより一女學校の年中行事、先生の噂話、生徒の氣風等が述べられる
里 見 淳	小女	上四六刊	373	一、八〇	青木書店	月七	▲賣出しの花形女優を中心に興行師、奥役、旦那等彼女をめぐる人々の色と慾とを描く。
川端 康成	抒情	並三六刊	237	五、〇〇	岩波書店	月一	▲伊豆の踊子、温泉宿、童話、鶯歌、抒情歌の五篇を収めた小説集。
別院 一郎	介	並三六刊	390	一、四〇	教村社	月一	▲支那革命の總帥、今事變の抗日の根柢たる蔣介石の波瀾重疊の一生を描く。
小田 基夫	外	並三六刊	185	一、三〇	新書館	月六	▲第一回芥川賞受賞作品、城外と、泥河、ますら

樋田 研一	島崎 藤村	上四六刊	398	一、八〇	新潮社	月六	▲藤村の學生時代より詩集若菜集を市場へ送り出すまでの十年間を描いた傳記小説。
豊島 與志雄	白朝	上四六刊	329	一、五〇	河出書房	月七	▲小悪魔の角度から眺めた都會の知識階級の物語集で、南さんの戀人其他。
海上 福三郎	白顔	並四六刊	254	一、〇〇	竹村書房	月五	▲一人の理解者もなく、壓迫の中にその日その日を送る寂しき少年の生活記録。
初見 靖一	短編集	上四六刊	250	一、五〇	懷風堂	月七	▲白椿、鶴鶴、或夫婦、牡丹雪、或日の茶の間、伊香保のこと、山の雲其他。「限定版」
舟橋 聖一	新胎	上四六刊	449	一、九〇	青木書店	月二	▲新胎、木石の二篇を収めた小説集。
大谷 藤子	小説集	並四六刊	322	一、五〇	版畫莊	月二	▲信次の身の上、由利、伯父の家、立去る日その後、血縁、村の夜鷹、顔他二篇。
三角 寛	裾野の山窩	並四六刊	339	一、〇〇	講談社	月一	▲神祕に包まれた富士の湖を中心に怪奇・愛情を織りまぜた山窩小説。
和田 傳	生活の盃	上四六刊	364	一、六〇	新潮社	月一	▲國家總動員の體制下に立ち上りつゝある目醒しき農村の理想を描いた書き下し長篇。
瀧井 孝作	積雪	上四六刊	323	一、八〇	改造社	月二	▲積雪、金鐵の夢、住宅、山女魚、彼の周圍風流人、河骨、醉蜂君其他の短篇集。
山本 有三	戦争と二人の婦人	上四六刊	214	〇、六〇	岩波書店	月四	▲南北戦争に重大な役割を持つたクララ嬢とストウ夫人を描いた二小説を収む。
坪田 譲治	善太と三平のはなし	上四六刊	758	二、五〇	版畫莊	月一	▲風の中の子供、お化けの世界其他の小説と童話を小説集、童話集の二冊に分け収む。
石川 達三	蒼氓	洋四六刊	192	一、二〇	新書館	月五	▲第一回芥川賞の受賞作品たる石川達三氏の「蒼氓」を収め附録として「葛葛」併載す。
間宮 茂輔	あらがね	上四六刊	362	一、七〇	小山書店	月一	▲敏は飛躍的發展を遂げた滿洲事變以後の鐵山産業の全貌を描いた長篇。

尾崎 一雄	竹中 吉郎	室生 犀星	翁 久九	中本 たか子	賀川 豊彦	富澤 有爲男	宮内 寒彌	林 芙美子	宇野 千代	長塚 節	松田 甚次郎	中河 與一
續 暢 氣 眼 鏡	小説 大陸の良人	大陸の亡者	大陸の亡者	耐火煉瓦	第三紀層の上に	地中海	中央高地	月夜	月夜	土	愛土に叫ぶ	小説 天の夕顔
並四六判	上四六判	布面刷	上四六判	並四六判	布四六判	洋四六判	上四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	上四六判
262	201	393	392	454	384	189	280	330	251	592	393	174
一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
砂子屋書房	時日代本社	新潮社	高志書房	竹村書房	講談社	新書物展望社	砂子屋書房	竹村書房	中央公論社	春陽堂	羽田書店	三和書房
月二十	月一十	月二	月二十	月七	月六	月九	月七	月九	月一十	月五	月五	月九
▲住居について、男兒出生、母からの小包、玄關風侶、逆さ時計其他の隨筆集。	▲長篇小説「大陸の良人」の前篇と、以前發表せる各種の小短文をも収めたもの。	▲満洲を放浪する美しき女性を中心に幾多愛戀の男の浮き沈みを描ける長篇小説。	▲大陸に生活せる同邦を描いた短篇小説集で燈臺鬼、大陸の亡者、ある町の幻影他三篇。	▲大工業の蔭に寄生蟲的存在をなす「耐火煉瓦會社の内幕を赤裸々に描いた長篇。	▲東北の貧農の子として生れ、不屈不撓の精神を以て生活して行く「青年を描いた長篇。	▲芥川賞第四回受賞作品「地中海」と他に短篇三篇を収む。	▲中央高地、白い焔、贖回教徒の三篇を収めた小説集。	▲杜鵑、川、黄昏の席、牡丹、とかげ、遠い朝、明日の花、多摩川等他二篇の小説集。	▲月夜、その家、未練、空漠、女の生活、子供、私と子供、稻妻他三篇の創作集。	▲天逝した熱血の歌人長塚節の貧農を題材とした長篇小説。	▲農村にあつて體驗せし諸事實を叙述したもので恩師宮澤賢治先生、村芝居其他。	▲舊來の倫理に束縛された男女の二十三年間の激情的戀愛の心理的經過を描寫す。

田畑 修一郎	丹羽 文雄	赤沼 三郎	間宮 茂輔	橋 外男	中本 たか子	川端 康成	前田 河廣一郎	高 見 順	尾崎 一雄	中村 地平	徳 永 直	岡本 かの子
雙葉集 鳥羽家の子供	跳ぶ	怒濤 時代	突棒 船	ナリン殿下への回想	南 部 鐵 瓶 工	日本小説代表作全集	小説 人	小説 人間	猫・父祖の地	熱帯柳の種子	はたらく一家	里 祭
上四六判	並四六判	並四六判	並四六判	上四六判	上四六判	上四六判	上四六判	並四六判	上四六判	上四六判	上四六判	上四六判
317	109	332	278	352	321	569	433	292	172	227	331	410
一、〇〇〇	九〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
砂子屋書房	赤塚書房	日本文學社	竹村書房	春秋社	新潮社	小山書店	六藝社	竹村書房	新書物展望社	版畫莊	三和書房	青木書店
月六	月九	月二十	月十	月八	月三	月十	月十	月一十	月十	月三	月二十	月二十
▲相似、鳥羽家の子供、郵便、悪童、五年間ふさ江の話、南方他三篇の短篇を収む。	▲跳ぶ女、聰明、隣の戀人の三篇を収めた小説集。	▲怒濤時代、地獄繪、狐靈、解剖された花嫁戦雲、獨體譜、脱走九年他一篇の短篇集。	▲朽ちゆく望樓、毒鳴、突棒船、途上、白い清、夕焼の窓の六篇を収めた小説集。	▲ナリン殿下への回想、新版三原山遊記、「死の蔭」探検記他二篇の事實小説を収む。	▲自然の冷害凶作に苦しみ、人爲的な苦境に陥れる南部鐵瓶生産者達を描いた長篇小説。	▲朝の草(武田麟太郎)榮耀(中山義秀)晩い結婚(里見淳)他十九篇を収む。	▲主人公久平の一生涯を通じて「人間とは何ぞや」を解かんと試みた長篇。	▲人間、湯たんぼ雀、机上生活者、神經、盛り場、雲の影、以上六篇の小説集。	▲第五回芥川賞受賞作品「暢氣眼鏡」其他の作品中の猫・父祖の地等を収めたもの。	▲熱帯柳の種子、廢れた港、祭、教會の人達きつつき、人類創世他三篇を収めた創作集。	▲はたらく一家、彼岸、最初の記憶他五篇の小説集。	▲金魚擦亂、巴里祭、落城後の女、愛、編蝠狂童女の戀、みちのく他三篇の短篇集。

横光利一	丹羽文雄	中本たか子	藤澤桓夫	丹羽文雄	大佛次郎	廣津和郎	島崎藤村	小島政二郎	戸川貞雄	林美美子	石川淳	打木村治
薔薇	薔薇	白衣作	ある米	花	花	母は護	春待	半處	妻眞	氷	普	落
並三六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六
製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判
230	344	288	302	302	327	369	535	412	465	343	209	350
一、五〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、六〇	一、四〇	一、四〇	一、六〇	一、八〇	一、五〇	一、四〇	一、五〇
岩波書店	竹村書房	六藝社	竹村書房	竹村書房	青木書店	三笠書房	新潮社	新潮社	玄海書房	竹村書房	新書展望社	砂子屋書房
一月一十	一月一	二月二十	二月二	二月九	二月十	二月六	二月八	二月四	二月八	二月三	二月八	二月一十
▲薔薇、雪解、榛名、比叡、歴史、時間、機械の六篇を収めた小説集。	▲下巻は「狂馳の子」より「結末と發端」までを収む。	▲白衣作業、未成年達、獄中の統制者、の三篇を収めた小説集。	▲花ある米河、茶人、籤、世話の四篇を収めた小説集。	▲妻の作品、自分がしたこと、花戦の三篇を収めた小説集。	▲文明開化を背景にして時代の波に追はれた士族是枝金四郎を中心にして描いた長篇。	▲母は護る、純情、愛の廻轉路、女ならでば埠頭の白薔薇、花椿他二篇の小説を収む。	▲本輯は小説集春待つ宿第一部・第二部と童話集玉あられを収む。	▲大阪毎日、東京日日兩新聞に連載して好評を博した長篇小説。	▲只一度の過失のために社會の荒浪に翻弄されつつも最後に男々しく生きた一女性を描く。▲黄鶴、大阪の雁、晩春、雨、紅襟の燕、或る女、米河他五篇を収めた小説集。	▲芥川賞第四回受賞作品「普賢」と他に「曾呂利咄」を収む。	▲封建的な小作制度に苦しみなから新らしい生活を發見せんとする農村青年層を描く。	▲理知の苦惱と現代人の新らた悲哀を描き盡した長篇小説。

坂口安吾	和田傳風	庄野誠一	火野葦平	阿部知二	丸尾長顯	小島政二郎	北條民雄	片岡鐵兵	島崎藤村	島崎藤村	小島政二郎	伊藤永之介
吹雪	風	肥つた紳	尿	北	小説變	牡丹くづる	北條民雄	炎	道	道	緑の騎	娘
並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六	並四六
製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判	製入判
445	312	309	317	281	210	473	480	385	575	557	656	336
一、八〇	一、四〇	一、七〇	一、五〇	一、三〇	一、三〇	一、六〇	一、三〇	一、六〇	二、〇〇	二、〇〇	一、八〇	一、五〇
竹村書房	教村社	砂子屋書房	小山書店	第一書房	太白書房	六藝社	創元社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社
二月一	二月一十	二月二十	二月三	二月四	二月六	二月七	二月四	二月六	二月五	二月六	二月二	二月二
▲「風土、牧歌、花嫁祭、物置と納屋、鶴供養」	▲「シロさんの米曳き」他五篇の農村小説集。	▲「暖房、年齢の煩、呼吸器、異人館、仔猫と三人、フーガ、肥つた紳士他一篇の短篇集。	▲「芥川賞を得た「費尿譚」と「河豚」「山芋」「修驗道」「帝釋神記」の四短篇を収む。	▲「修驗道」「帝釋神記」の四短篇を収む。	▲「三味線濫觴、桃、變な女、ルーチン教授とお花さん」他二篇を収めた短篇集。	▲「相愛する男女が誤解の爲幾多の波瀾萬狀を重ねた後遂に幸福になるまでを描く。	▲「いのちの初夜、間木老人、癩院受胎、吹雪の産聲、癩家族其他の短篇小説を収む。	▲「二人の男に愛され其去就に悩む女性が遂に凱旋した一人を愛するやうになる迄を描く。	▲「第六篇は苗代集(小説)五月兩草紙(感想と隨筆)海(航海記)の三篇を収む。	▲「下巻は、寢覺、歐洲戦争、生ひ立ちの記の三篇を収む。	▲「長篇小説「緑の騎士」を纏めたもの。	▲「平原、集宿、離合、冬、平地蕃人、娘地主の六篇を収めた小説集。

諧 謔 小 説

藤森成吉	悲願の爲	上四六	二、〇〇	改造社	十月	▲幕末の大きな時代の意義を持った数奇な運命の大和繪畫家冷泉爲恭を描いた長篇。
白井喬二	富士に立つ影	並四六	一、八〇	日本社	二月二十	▲以前發表した好評絶版の「富士に立つ影」を三巻に収めた決定版。
吉川英治	宮本武蔵	上四六	一、八〇	講談社	十月	▲本篇は下總法典ヶ原開闢前後より江戸に於ける細川家、北條安房等との關係迄收む。
山手樹一郎	青春艦隊	並四六	一、〇〇	パブリ社	七月	▲師走十五日(時代小説)埠頭區の夜(現代小説)洋綴ち斬奸狀(實録小説)他十三篇。
獅子文六	胡椒息子	上四六	一、六〇	新潮社	九月	▲妾腹として生れた胡淑息子が近親者にうとまれながら明郎に生きて行く迄を描く。
佐々木邦人	人生の年輪	並四六	一、五〇	春陽堂	二月二十	▲人生の種々相を細かに觀察し諷刺と諧謔とで描いた佐々木氏獨特のユーモア小説。
阿北藤木	微笑設計	並四六	一、〇〇	パブリ社	九月	▲非常時花嫁他三篇(鹿島)懸賞尋人他三篇(北町)小型履歷書他三篇(阿木)を収む。
古川緑波	ロツバ自叙傳	並四六	九〇	春陽堂	四月	▲ロツバ自叙傳、樂屋放送局、役者志願、寸劇全集、淺草うらおもて其他を収む。
長倉榮	嗚呼!南郷少佐	上四六	一、〇〇	第一出版社	八月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。
木々高太郎	或る光線	並四六	一、五〇	科ラ学社	九月	▲或る光線、跛行文明、鍋中の足、絲の鏡、偵探、死人に口あり他四篇を収む。
松村益二	一等兵戦死	並四六	九〇	春秋社	三月	▲今事變に名譽の應召を受けて戦線にて活躍せし記録を収めたもの。
伊東銳太郎	五人の機銃兵	並四六	九〇	春秋社	三月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。
田坂具隆	五人の斥候兵	並四六	九〇	日本社	九月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。
上田廣	黄塵	並四六	一、〇〇	改造社	十月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。
北村小松編	國際間諜暗躍秘録	並四六	一、〇〇	東海出版社	五月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。
荒川實蔵	國際スパイ戦秘話	並四六	一、〇〇	大東出版社	四月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。
白井喬二	國民へ捧ぐ	並四六	一、〇〇	平凡社	十月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。
福永恭助	上海陸戦隊	並四六	一、〇〇	第一書房	三月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。
宮地嘉六	軍隨筆	並四六	一、〇〇	赤塚書房	十一月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。
櫻井忠温	新戦場	並四六	一、〇〇	春秋社	二月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。
谷口勝	征野千里	並四六	一、〇〇	新潮社	十二月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。
木村毅	戦火	並四六	一、〇〇	講談社	九月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。
海野啓一	戦火に立つ	並四六	一、〇〇	日本社	五月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。

探偵小説・軍事小説・戦記文藝

松村益二	一等兵戦死	並四六	九〇	春秋社	三月	▲今事變に名譽の應召を受けて戦線にて活躍せし記録を収めたもの。
伊東銳太郎	五人の機銃兵	並四六	九〇	春秋社	三月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。
田坂具隆	五人の斥候兵	並四六	九〇	日本社	九月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。
上田廣	黄塵	並四六	一、〇〇	改造社	十月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。
北村小松編	國際間諜暗躍秘録	並四六	一、〇〇	東海出版社	五月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。
荒川實蔵	國際スパイ戦秘話	並四六	一、〇〇	大東出版社	四月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。
白井喬二	國民へ捧ぐ	並四六	一、〇〇	平凡社	十月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。
福永恭助	上海陸戦隊	並四六	一、〇〇	第一書房	三月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。
宮地嘉六	軍隨筆	並四六	一、〇〇	赤塚書房	十一月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。
櫻井忠温	新戦場	並四六	一、〇〇	春秋社	二月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。
谷口勝	征野千里	並四六	一、〇〇	新潮社	十二月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。
木村毅	戦火	並四六	一、〇〇	講談社	九月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。
海野啓一	戦火に立つ	並四六	一、〇〇	日本社	五月	▲今事變に於て敵機撃墜百數機空の軍神と仰がれ遂に名譽の戦死をした南郷少佐を物語る。

林美英子	大竹鳳一郎	橋外男	山中峯太郎	小栗虫太郎	火野葦平	海野十三	海野十三	別院一郎	山中峯太郎	伊東純太郎	小栗虫太郎	
戦	戦争小説集	祖國を脱れて	戦に次ぐもの	探偵小説集 地中海	と兵隊	東京要塞	東京要塞	戦	泥の捲架	偵察された軍用機	爆撃調査官真七	
並四六判	並四六判	上四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	
214	300	342	323	452	184	446	458	364	316	305	318	
一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	
朝日新聞社	日本公論社	春秋社	春秋堂	科ラ学社	改造社	高山書院	科ラ学社	科ラ学社	教材社	日本兵書出版	日本公論社	
月二十	月四	月二十	月二十	月九	月一十	月五	月九	月九	月七	月五	月一	
▲快速部隊に從軍し女性漢口一番乗りを敢行した林女史の熱情的報告記録。	▲頼摩より愛人(獨、ツィゲル)靈驗(佛、ザエランチイ)敗戦(英、ワージイ)其他	▲祖國を脱れて、聖コルソ島復讐奇譚、桃色機密室闖入記他三篇の怪奇事實小説。	▲傳統の魂、近づく決戦、復讐する民族、誠の如く、地獄へ下りる其他を収む。	▲潜航艇「鷹の城」、地中、俱利伽羅信號、人魚謎お岩殺し、地中海他一篇。	▲「土と兵隊」は杭州灣敵前上陸記で郷里の弟宛に出した手紙を蒐録せるもの。	▲フランク・ツィーノの著になる「Fuschima」の後半を譯し前篇の一部分をも再録す。	▲東京要塞、鼻兵、挺進爆撃隊の通信兵、機銃兵士他七篇の軍事小説を収む。	▲東京空爆、翼の密使、大隊旗の下に、殺人光線、要塞地帯他五篇の軍事小説集。	▲支那事變を通じてそれを背景として彼等民衆を描いた長篇小説。	▲大戦の蔭に動く衛生兵のじみな行動の数々を収めたもので赤子の聲、竹槍訓練其他。	▲マドリードのスパイ群、戦場の捉、ソ聯の防諜工作他十四篇の軍事小説を収む。	▲爆撃機調査官真七、ヒラミット四角に飛ぶ皇后の影法師他二篇の探偵小説を収む。

海野十三	山岸多嘉子	朝日新聞社編	郭沫若	佐原勇吉	火野葦平	江戸川亂歩	杉山平助	松井忠夫	中山正男	渡邊一夫	
婦人從軍記	武漢攻略に從軍して	捕虜・避難民	北伐	空の軍神 譽の荒鷲	と兵隊	幽霊塔	揚子江艦隊從軍記	我が空中戦記	脇坂部隊	アフリカ騎兵	
並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	
468	350	193	241	237	247	236	343	264	364	435	
一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	
科ラ学社	中央公論社	朝日新聞社	春秋社	改造社	改造社	新潮社	第一出版社	借成社	陸軍畫報社	白水社	
月七	月七	月二十	月五	月二	月六	月九	月四	月二	月二十	月七	
▲上海租界他三篇の探偵小説を収む。	▲今事變に從軍した記録を収めたもので風雲急! 満ソ國境を飛ぶ他八篇。	▲漢口入城の感激(林美英子)漢口陥落について(杉山平助)他六篇を収む。	▲最初の脱走(ラングスドルフ)ベルケ大尉はかうして死んだ(ゴート)他十六篇。	▲國共聯合軍の戦列に伍して血と硝煙の全線を馳騁せし第一北伐を描いた記録的戦争小説	▲南京空爆廿數回途に名譽の戦死をなした白相少佐の生ひ立ちを述ぶ。	▲一兵士として徐州大會戦に從軍した時の五月四日から二十二日までの日記的記録。	▲且て黒岩涙香の譯になつた探偵物語で、其の文體を現代文に訂正し、續案せるもの。	▲從軍作家として揚子江艦隊に乗りこんだ時の記録を収めたもの。	▲世界大戦に於て敵機撃墜八十機、獨軍の名パイロットと謳はれし著者の空中戦記。	▲光華門より南京城一番乗の殊勲を樹てた勇猛「脇坂部隊」の武勳記を収む。	▲灼熱の國に故郷の父母と許婚を夢みつゝ散つた黒匪討伐兵の物語。特製二面八十餘